

平成23年度

自己評価書

平成25年1月

筑波技術大学

目 次

I	大学の現況及び特徴	1
II	目的	2
III	基準ごとの自己評価	
基準1	大学の目的	4
基準2	教育研究組織（実施体制）	9
基準3	教員及び教育支援者	17
基準4	学生の受入	36
基準5	教育内容及び方法	49
基準6	教育の成果	85
基準7	学生支援等	97
基準8	施設・設備	111
基準9	教育の質の向上及び改善のためのシステム	117
基準10	財務	124
基準11	管理運営	130

I 大学の現況及び特徴

1 現況

(1) 大学名 筑波技術大学

(2) 所在地 茨城県つくば市

(3) 学部等の構成

学部：産業技術学部，保健科学部

研究科：技術科学研究科

関連施設：障害者高等教育研究支援センター，
保健管理センター，附属図書館，
情報処理通信センター，保健科学部
附属東西医学統合医療センター，実習
工場

(4) 学生数及び教員数（平成23年5月1日現在）

学生数：学部 371人，大学院 13人

専任教員数：111人

助手数：該当なし

全般の向上に貢献すること」を目的としている。

開学以来、「目や耳からの情報の取得に制限のある学生がバリアのない教育環境で思う存分勉強し、持っている能力を開花させ、より良い社会自立をしてほしい」という教職員、そして多くの人々の願いの中で、障害補償システムや教育方法の開発・研究、そして教職員の資質向上等により、両障害者が大学教育の内容を確実に履修できる環境、豊かな学生生活を送ることができる環境を整備し、卒業後、専門職業人として社会参画・貢献できる人材の養成に成果を上げるなど、全国の障害者教育の推進に先導的かつ中核的役割を果たしている。

2 特徴

本学の前身である「筑波技術短期大学」は、昭和62年10月、聴覚・視覚障害者のみを対象とする我が国初の高等教育機関（3年制短期大学）として設置され、平成2年度から聴覚障害関係学科、平成3年度から視覚障害関係学科の学生を受け入れてきた。

教育の専門分野は、聴覚障害者については、社会自立に長年の実績をもつ職業分野（デザイン，機械）及び将来有望であると考えられる職業分野（建築，電子情報）を、視覚障害者についても、社会自立に長年の実績をもつ職業分野（鍼灸，理学療法）及び将来有望であると考えられる職業分野（情報処理）を選んで編成された。

平成16年4月の国立大学法人化後、平成17年10月には筑波技術短期大学が改組転換され、新たに4年制「国立大学法人筑波技術大学」が設置された。さらに、平成22年4月には4年制大学としての第1期生の卒業に合わせて、聴覚・視覚障害者のみを対象とする大学院としては世界で初めての技術科学研究科（修士課程）が設置され、学生の受け入れを開始している。

本学は、聴覚・視覚障害者のみを対象とする高等教育機関として「職業技術に関する教育研究を行い、幅広い教養と専門的な技術とを有する専門職業人を育成し、両障害者の社会自立を促進することにより、社会福祉の一層の前進を図ること」及び「最新の科学技術を応用して、障害の特性に即した教育方法を開発し、障害者教育

II 目的

1. 大学の目的

筑波技術大学は、聴覚・視覚障害者を対象とする高等教育機関として個々の学生の障害や個性に配慮しつつ、障害を補償した教育を通じて、幅広い教養と専門的な職業能力を合わせもつ専門職業人を養成し、両障害者の社会的自立と社会貢献できる人材の育成を図るとともに、新しい教育方法を開発し障害者教育の改善に資することを目的とする。

2. 学部の目的

(1) 産業技術学部

聴覚障害者を対象とし、その教育を通して社会の各分野においてリーダーとして貢献できる人材を育成することにより、聴覚障害者の社会的地位を向上させるとともに、技術革新が進む情報社会の中で十分に活躍し、社会全体の環境整備に貢献できる専門職業人を育てていく。

(2) 保健科学部

視覚障害者を対象とし、その教育を通して社会の各分野においてリーダーとして貢献できる人材を育成することにより、視覚障害者の社会的地位を向上させるとともに、東西医学統合医療及び情報の連携を図り、情報化・高齢化が進む現代社会において活躍できる人を育てていく。

3. 大学院の目的

筑波技術大学大学院は、学部における一般的教養及び専門教育を基盤として、広い視野に立って精深な学識を修め、専門分野における理論と応用の研究能力及び教育実践の場における教育研究の推進者としての能力を養成することを目的とする。

4. 研究科専攻の目的

(1) 産業技術学専攻

聴覚障害者の社会的自立・参画・貢献はもとより、専門領域に関する系統的な専門知識と技術を持ち、生産の現場において中核的な役割を担う高度専門職業人を育成する。

(2) 保健科学専攻

視覚障害者の社会的自立・参画・貢献はもとより、専門領域に関する系統的な専門知識と技術を持ち、社会において中核的な役割を担う高度専門職業人を育成する。

5. 第二期中期目標期間における目標

(1) 教育に関する目標

① 教育内容及び教育の成果等に関する目標

アドミッション・ポリシーに基づいて、学生の受入れを推進する。また、本学の特性を踏まえ、体系的な授業内容を提供、授業内容や特性に合致した授業形態、指導法等を行うとともに、成績評価基準を明確にし、学生の質保証に努める。

聴覚・視覚障害を補償した教育を通じて、生涯にわたって学修するための基本的素養を身につけさせるとともに、技術の高度化、専門化などに基づく社会的ニーズに柔軟に対応できる専門的知識・技術とその応用能力を育成し、各専門分野において聴覚・視覚障害者のリーダーとして社会に参画・貢献できる専門職業人を養成する。

社会の多様な教育への需要に応えることにより、より高度で質の高い就労を支援する。

② 大学院課程の教育内容及び成果等に関する目標

社会のニーズに応える専門的知識・技術を高め、自ら研究・応用が行える能力を育成し、リーダーとしての役割が果たせ、社会に対応できる高度専門技術者・医療人及び研究者の養成を目指す。

③ 教育の実施体制等に関する目標

教育目的・目標の実現を図るために、授業内容や方法の改善に必要な教育体制及び教育支援体制を整えるとともに、教職員を対象とした組織的な研修を推進する。また、研修や授業評価の結果を教育の質の向上及び改善の取組に効果的に結びつける方策を実施する。

さらに、聴覚・視覚障害者の教育に関する全国共同利用型の中核機関を目指し、必要な取組を行う。

④ 学生への支援に関する目標

学修・生活・進路等に関する相談・助言の体制の充実を図るとともに、学生の生活全般に対する教員の指導力を高め、社会の変化に対応できる体制を整えることにより、障害にかかわるニーズに配慮しながら、学生への支援を個別的、効果的に実施する。また、留学生及び社会人入学者に対して個別対応ができる学修支援環境の実現を図り、学修の質の向上を推進する。

(2) 研究に関する目標

① 研究水準及び研究の成果等に関する目標

本学の特色である障害者の高等教育、支援技術に関する研究を国際的水準で展開し、その研究成果を本学学生や留学生の教育に活用するとともに、他の教育機関等に積極的に公開するなどにより、障害者の福祉向上や高齢者の生活支援のために活用する。

また、学部や大学院等の教育の内容に関わる産業技術・保健科学の専門分野の研究を推進する。

② 研究実施体制等に関する目標

本学の特色を踏まえた重点研究プロジェクトを設定し、人材、資金、施設などを重点配分する。また、知的財産の創出、取得、管理及び活用について、必要な取組を行う。

特に、聴覚・視覚障害者教育の研究に資するため、教育方法の改善及び機器の開発、さらに、手話・点字を含めた情報保障などの研究を推進するとともに、障害者教育の研究に関する全国共同利用型の中核機関を目指し、必要な取組を行う。

また、教員の個人評価を行い、結果を研究費の配分や人事制度に反映させる。

(3) その他の目標

① 社会との連携や社会貢献に関する目標

他大学や特別支援学校等、障害者関係組織及び地域社会と連携し、聴覚・視覚障害者に係る教育支援を行うとともに、障害補償に関する機器や学修資料等の研究開発を促進し、その成果を公表することにより教育支援に役立てる。

② 国際化に関する目標

聴覚・視覚障害者の教育とその研究に関して、諸外国の教育機関や障害者関連組織との連携及び海外の学生・研究者との交流を促進することにより、国際交流・国際貢献を推進し、その中核としての役割を果たす。

③ 保健科学部附属東西医学統合医療センターに関する目標

東西医学統合医療機関として特徴ある診療・手術及び教育研究を通して、地域医療の向上に貢献するとともに、効率的な経営を行う。

Ⅲ 基準ごとの自己評価

基準 1 大学の目的

(1) 観点ごとの分析

観点 1-1-①: 大学の目的(学部, 学科又は課程の目的を含む。)が, 明確に定められ, その目的が, 学校教育法第 83 条に規定された, 大学一般に求められる目的から外れるものでないか。

【観点到る状況】

本学は, 聴覚・視覚障害者を対象とする我が国唯一の高等教育機関として, 国立大学法人筑波技術大学学則第 1 条に大学の目的を定めており, 学部及び学科・専攻の目的については, 学則第 3 条及び第 4 条に定めている(資料 1-1-①-A, B)。また, 教育理念をウェブサイトに掲載している(資料 1-1-①-C)。さらに, 目的や教育理念を具体的に実施するため, 中期目標に基本的な目標及び教育に関する目標を定めている(資料 1-1-①-D)。

資料 1-1-①-A 大学の目的

(大学の目的)

第 1 条 国立大学法人法(平成 15 年法律第 112 号)の規定に基づき設置される国立大学法人筑波技術大学(以下「法人」という。)及び法人が設置する筑波技術大学(以下「本学」という。)は, 聴覚・視覚障害者を対象とする高等教育機関として個々の学生の障害や個性に配慮しつつ, 障害を補償した教育を通じて, 幅広い教養と専門的な職業能力を合わせもつ専門職業人を養成し, 両障害者の社会的自立と社会貢献できる人材の育成を図るとともに, 新しい教育方法を開発し障害者教育の改善に資することを目的とする。

(出典: 国立大学法人筑波技術大学学則)

資料 1-1-①-B 学部の目的及び学科・専攻の教育研究上の目的

(学部の目的)

第 3 条 本学に, 産業技術学部及び保健科学部を置く。

2 前項に規定する学部は, 次の各号に定めることを目的とする。

(1) 産業技術学部

聴覚障害者を対象とし, その教育を通して社会の各分野においてリーダーとして貢献できる人材を育成することにより, 聴覚障害者の社会的地位を向上させるとともに, 技術革新が進む情報社会の中で十分に活躍し, 社会全体の環境整備に貢献できる専門職業人を育てていく。

(2) 保健科学部

視覚障害者を対象とし, その教育を通して社会の各分野においてリーダーとして貢献できる人材を育成することにより, 聴覚障害者の社会的地位を向上させるとともに, 東西医学統合医療及び情報の連携を図り, 情報化・高齢化が進む現代社会において活躍できる人を育てていく。

(略)

(学部の構成及び教育研究上の目的)

第 4 条 産業技術学部並びに保健科学部に学科及び専攻を置く。

2 産業技術学部に次の学科を置く。

産業情報学科

総合デザイン学科

3 保健科学部に次の学科及び専攻を置く。

保健学科鍼灸学専攻
保健学科理学療法学専攻
情報システム学科

4 第2項に規定する学科は、次の各号に定めることを教育研究上の目的とする。

(1) 産業情報学科

情報科学とシステム工学の分野において、専門的な能力の育成を図り、「情報処理」と「ものづくり」の技術を通して、快適な社会と生活環境の整備に貢献できる人材を育成する。

(2) 総合デザイン学科

生活環境を総合的に考え、生活の中で関わりをもつ環境やモノや情報を中心としたデザインに関する知識と専門技術を身につけ、ユニバーサルデザインなどへも視点を広げ、豊かな感性と創造的表現力を持ち、社会に貢献できる人材を育成する。

5 第3項に規定する学科及び専攻は、次の各号に定めることを教育研究上の目的とする。

(1) 保健学科

視覚障害による情報授受障害を克服するため補償能力を高め、豊かな人間性を養い、様々な状況に対処できるはり師、きゅう師、あん摩・マッサージ・指圧師又は理学療法士を養成する。

ア 鍼灸学専攻

鍼灸・手技療法に関する専門的な知識と技術を身につけた、はり師、きゅう師、あん摩・マッサージ・指圧師を養成する。特に、東洋医学と西洋医学の両視点を兼ね備えた高い専門性を教育し、現代医療に貢献できる専門技術者を育成する。

イ 理学療法学専攻

理学療法に関する高い専門性を身につけた理学療法士を養成する。特に、実習科目や臨床実習において個別指導に重点をおいた教育を行うことで、実務能力向上を目指し、社会に貢献できる専門技術者を育成する。

(2) 情報システム学科

視覚障害補償技術を活用して情報処理の知識と技術を系統的に習得し、実際的なコンピュータ技術やビジネス知識を身につけた社会に貢献できる人材を育成する。

(出典：国立大学法人筑波技術大学学則)

資料1-1-①-C 教育理念

<http://www.tsukuba-tech.ac.jp/introduction/ethos.html>

資料1-1-①-D 国立大学法人筑波技術大学中期目標（抜粋）

大学の基本的な目標

国立大学法人筑波技術大学（以下「本学」という。）は、聴覚・視覚障害者を対象とする我が国唯一の高等教育機関として、今日の知識基盤社会に対応するため、個々の学生の障害特性に配慮した教育を通じて、幅広い教養と専門的、応用的能力を持つ専門職業人を養成し、両障害者が社会的自立を果たし、自ら障害を持つリーダーとして社会貢献できる人材の育成を図るとともに、新しい教育方法の研究と実践を通して国内外の障害者教育及び職業自立の発展に資することを基本的な目標とする。

この基本的な目標を踏まえ、高等教育の内容に関わる各専門分野の研究の推進を図るとともに、最新の科学技術を利用して聴覚・視覚の障害を補償する教育方法やシステム等を開発し、情報授受のバリアのない教育環境の構築に努める。

また、聴覚・視覚障害学生を受け入れている他大学等に対する支援、聴覚・視覚特別支援学校等との高大連携、留学生支援を含めた海外の高等教育機関との障害者に係る教育研究に関する国際交流活動等を推進する。

さらに、東洋医学と西洋医学を統合した教育研究を推進するとともに、特色ある医療活動を通じて地域医療に貢献する。

本学は、これらの目標をより高いレベルで達成していくために、大学院の充実を図るとともに、理療科教員養成課程等の設置を視野に教育研究を充実する。

1 教育に関する目標

(1) 教育内容及び教育の成果等に関する目標

アドミッション・ポリシーに基づいて、学生の受入れを推進する。また、本学の特性を踏まえ、体系的な授業内容を提供、授業

<p>内容や特性に合致した授業形態、指導法等を行うとともに、成績評価基準を明確にし、学生の質保証に努める。</p> <p>聴覚・視覚障害を補償した教育を通じて、生涯にわたって学修するための基本的素養を身につけさせるとともに、技術の高度化、専門化などに基づく社会的ニーズに柔軟に対応できる専門的知識・技術とその応用能力を育成し、各専門分野において聴覚・視覚障害者のリーダーとして社会に参画・貢献できる専門職業人を養成する。</p> <p>社会の多様な教育への需要に応えることにより、より高度で質の高い就労を支援する。</p> <p>(2) 大学院課程の教育内容及び成果等に関する目標</p> <p>社会のニーズに応える専門的知識・技術を高め、自ら研究・応用が行える能力を育成し、リーダーとしての役割が果たせ、社会に対応できる高度専門技術者・医療人及び研究者の養成を目指す。</p> <p>(3) 教育の実施体制等に関する目標</p> <p>教育目的・目標の実現を図るために、授業内容や方法の改善に必要な教育体制及び教育支援体制を整えるとともに、教職員を対象とした組織的な研修を推進する。また、研修や授業評価の結果を教育の質の向上及び改善の取組に効果的に結びつける方策を実施する。</p> <p>さらに、聴覚・視覚障害者の教育に関する全国共同利用型の中核機関を目指し、必要な取組を行う。</p> <p>(4) 学生への支援に関する目標</p> <p>学修・生活・進路等に関する相談・助言の体制の充実を図るとともに、学生の生活全般に対する教員の指導力を高め、社会の変化に対応できる体制を整えることにより、障害にかかわるニーズに配慮しながら、学生への支援を個別的、効果的に実施する。また、留学生及び社会人入学者に対して個別対応ができる学修支援環境の実現を図り、学修の質の向上を推進する。</p>
--

【分析結果とその根拠理由】

観点に係る状況のとおり、大学の目的は明確に定められ、その目的が学校教育法第 83 条に規定された、大学一般に求められる目的から外れるものでないと判断する。

観点 1-1-②： 大学院を有する大学においては、大学院の目的（研究科又は専攻の目的を含む。）が、明確に定められ、その目的が、学校教育法第 99 条に規定された、大学院一般に求められる目的から外れるものでないか。

【観点に係る状況】

本学大学院の目的については、国立大学法人筑波技術大学学則第 41 条に定めており、研究科各専攻の目的については、学則第 42 条に定めている（資料 1-1-②-A, B）。

資料 1-1-②-A 大学院の目的

<p>(大学院の目的)</p> <p>第 41 条 筑波技術大学大学院（以下「本大学院」という。）は、学部における一般的教養及び専門教育を基盤として、広い視野に立って精深な学識を修め、専門分野における理論と応用の研究能力及び教育実践の場における教育研究の推進者としての能力を養成することを目的とする。</p>
--

(出典：国立大学法人筑波技術大学学則)

資料 1-1-②-B 研究科専攻の教育研究上の目的

<p>(大学院)</p> <p>第 42 条 本大学院に技術科学研究科（以下「研究科」という。）を置く。</p> <p>2 研究科は、修士課程とする。</p> <p>3 研究科に次の専攻を置く。</p>

産業技術学専攻

保健科学専攻

4 前項に規定する専攻は、次の各号に定めることを教育研究上の目的とする。

(1) 産業技術学専攻

聴覚障害者の社会的自立・参画・貢献はもとより、専門領域に関する系統的な専門知識と技術を持ち、生産の現場において中核的な役割を担う高度専門職業人を育成する。

(2) 保健科学専攻

視覚障害者の社会的自立・参画・貢献はもとより、専門領域に関する系統的な専門知識と技術を持ち、社会において中核的な役割を担う高度専門職業人を育成する。

(出典：国立大学法人筑波技術大学学則)

【分析結果とその根拠理由】

観点に係る状況のとおり、大学院の目的は明確に定められ、その目的が学校教育法第 99 条に規定された、大学院一般に求められる目的から外れるものでないと判断する。

観点 1-2-①： 目的が、大学の構成員（教職員及び学生）に周知されているとともに、社会に広く公表されているか。

【観点に係る状況】

本学の目的等については、ウェブサイトに掲載し、教職員、学生及び広く社会に公表している（資料 1-2-①-A）。また、教職員に対しては、「大学概要」を全教職員へ配布することによって周知し、学生に対しては、「学生便覧」を配布するとともに、新入生にあつては、入学時のオリエンテーションにおいて目的等を説明し、周知している（別添資料 1-2-①-1～3）。

さらに、本学を志願する者やその保護者に対しては、北海道、東海、関西、九州等の各地で行う大学説明会や本学で行うオープン・キャンパスにおいて「学部案内」を配布し、大学の目的に加え、障害に配慮した修学支援の現状を説明している（別添資料 1-2-①-4, 5）。

資料 1-2-①-A 大学概要

http://www.tsukuba-tech.ac.jp/assets/files/soumu/news/insatsu/outline_of_ntut_2011.pdf

- ・別添資料 1-2-①-1 国立大学法人筑波技術大学概要 2011
- ・別添資料 1-2-①-2 平成 23 年度 学生便覧 産業技術学部・技術科学研究科（産業技術学専攻）
- ・別添資料 1-2-①-3 学生便覧（保健科学部・技術科学研究科 保健科学専攻）平成 23 年度
- ・別添資料 1-2-①-4 国立大学法人筑波技術大学 産業技術学部案内
- ・別添資料 1-2-①-5 国立大学法人筑波技術大学 保健科学部案内

【分析結果とその根拠理由】

観点に係る状況のとおり、本学の目的等は、構成員（教職員及び学生）に周知されているとともに、社会に広く公表されていると判断する。

(2) 優れた点及び改善を要する点

【優れた点】

- 本学を志願する者やその保護者に対して、北海道、東海、関西、九州等の各地で行う大学説明会や本学で行うオープン・キャンパスにおいて「学部案内」を配布し、大学の目的等に加え、障害に配慮した修学支援の現状を説明している。

【改善を要する点】

該当なし

(3) 基準 1 の自己評価の概要

本学は、聴覚・視覚障害者を対象とする我が国唯一の高等教育機関として、国立大学法人筑波技術大学学則に大学の目的及び大学院の目的を明確に定めている。また、目的や教育理念を具体的に実施するため、中期目標に基本的な目標及び教育に関する目標を定めている。

本学の目的や活動方針等は、大学概要等の刊行物の配布やウェブサイト等により、教職員、学生及び社会に広く公表している。また、本学を志願する者などに対しては、「学部案内」を各地で行う大学説明会やオープン・キャンパスで配布し、大学の目的等に加え、障害に配慮した修学支援の現状を説明している。

基準2 教育研究組織（実施体制）

（1）観点ごとの分析

観点2-1-①： 学部及びその学科の構成（学部、学科以外の基本的組織を設置している場合には、その構成）が、学士課程における教育研究の目的を達成する上で適切なものとなっているか。

【観点到係る状況】

本学は、聴覚・視覚障害者を対象とする我が国唯一の高等教育機関として、個々の学生の障害や個性に配慮しつつ、障害を補償した教育を通じて、幅広い教養と専門的な職業能力を合わせもつ専門職業人を養成し、両障害者の社会的自立と社会貢献できる人材の育成を図るとともに、新しい教育方法を開発し障害者教育の改善に資することを目的としている。この目的を達成するため、聴覚に障害のある学生を対象とする産業技術学部及び視覚に障害のある学生を対象とする保健科学部の2学部4学科で構成し、少人数教育を行っている（資料2-1-①-A）。

資料2-1-①-A 学部及び学科の構成と教育研究上の目的

(単位：人)

学部	学科・専攻		教育研究上の目的	専任 教員数	収容 定員数
産業技術学部	産業情報学科		情報科学とシステム工学の分野において、専門的な能力の育成を図り、「情報処理」と「ものづくり」の技術を通して、快適な社会と生活環境の整備に貢献できる人材を育成する。	31	140
	総合デザイン学科		生活環境を総合的に考え、生活の中で関わりをもつ環境やモノや情報を中心としたデザインに関する知識と専門技術を身につけ、ユニバーサルデザインなどへも視点を広げ、豊かな感性と創造的表現力を持ち、社会に貢献できる人材を育成する。	13	60
保健科学部	保健学科	鍼灸学専攻	鍼灸・手技療法に関する専門的な知識と技術を身につけた、はり師、きゅう師、あん摩・マッサージ・指圧師を養成する。特に、東洋医学と西洋医学の両視点を兼ね備えた高い専門性を教育し、現代医療に貢献できる専門技術者を育成する。	15	80
		理学療法学専攻	理学療法に関する高い専門性を身につけた理学療法士を養成する。特に、実習科目や臨床実習において個別指導に重点をおいた教育を行うことで、実務能力向上を目指し、社会に貢献できる専門技術者を育成する。	8	40
	情報システム学科		視覚障害補償技術を活用して情報処理の知識と技術を系統的に習得し、実際的なコンピュータ技術やビジネス知識を身につけた社会に貢献できる人材を育成する。	12	40

(総務課作成)

【分析結果とその根拠理由】

観点到係る状況のとおり、学部及び学科の構成は、学士課程における教育研究の目的を達成する上で適切なものとなっていると判断する。

観点2-1-②： 教養教育の体制が適切に整備され、機能しているか。

【観点に係る状況】

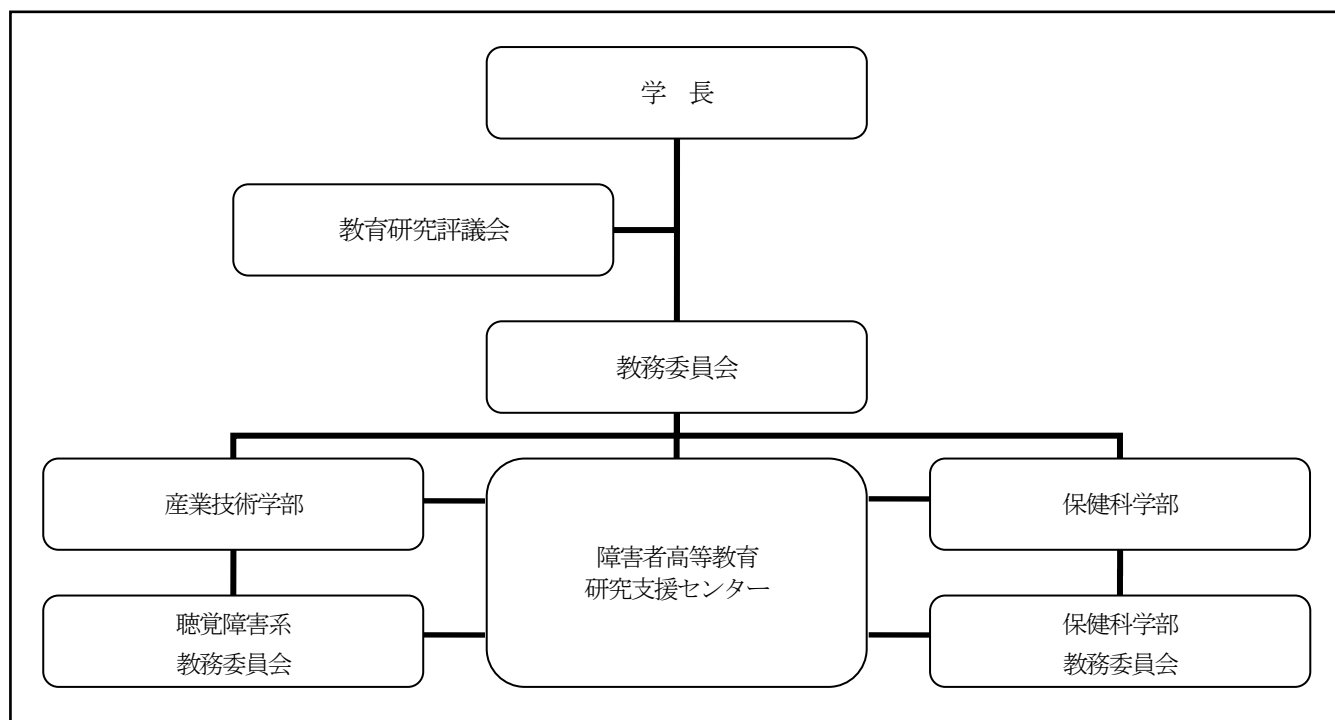
本学では、教養教育を充実させるため、障害者高等教育研究支援センターを設置し、教務委員会及び学部と連携を図りながら資料2-1-②-Aに示すとおり全学的な運営体制を構築している。

教養教育系科目及び専門教育系科目の編成に当たっては、障害系別センター教員会議、学部教務委員会、学部教授会の議を経て、全学組織の教務委員会で総合的に審議し、最終的に教育研究評議会で審議・承認している。

これらの教養教育系科目の実施は、障害者高等教育研究支援センターが担当し、教務委員会及び学部と連携を図りながら運営する体制を構築している。授業の担当は、障害者高等教育研究支援センター基礎教育研究部の教員が中心となり、両学部の教員も加わって、それぞれの専門分野に応じた授業を担当している。

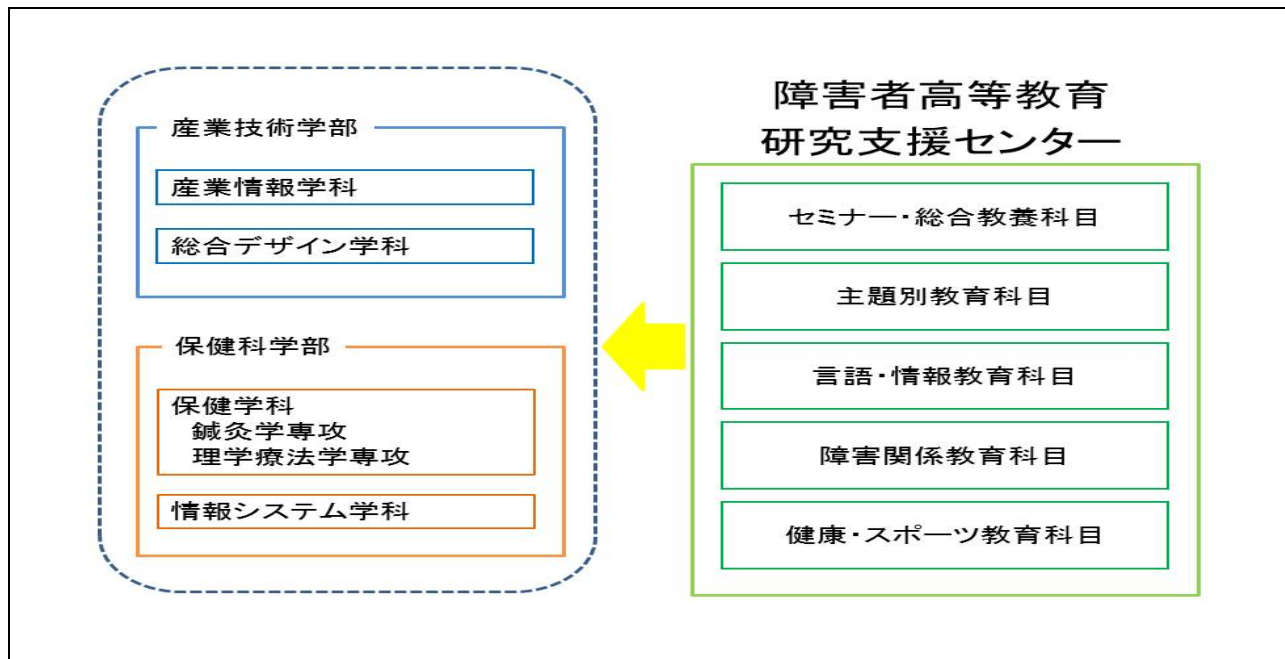
教養教育系科目は、「セミナー・総合教養科目」「主題別教育科目」「言語・情報教育科目」「障害関係教育科目」「健康・スポーツ教育科目」の科目で構成している（資料2-1-②-B）。特に、「障害関係教育科目」は、本学の特性にかんがみ、障害学や障害補償、障害に合わせた情報処理の方法等を学ぶ科目群であり、学生が社会にスムーズに適応するために開設している。

資料2-1-②-A 教養教育の運営体制



(評価室作成)

資料 2-1-②-B 教養教育の実施体制



(聴覚障害系支援課, 視覚障害系支援課作成)

【分析結果とその根拠理由】

観点に係る状況のとおり、教養教育の体制が適切に整備され、機能していると判断する。

観点 2-1-③： 研究科及びその専攻の構成（研究科、専攻以外の基本的組織を設置している場合には、その構成）が、大学院課程における教育研究の目的を達成する上で適切なものとなっているか。

【観点に係る状況】

本学大学院は、学部における一般的教養及び専門教育を基盤として、広い視野に立って精深な学識を修め、専門分野における理論と応用の研究能力及び教育実践の場における教育研究の推進者としての能力を養成することを目的としている。この目的を達成するために、技術科学研究科産業技術学専攻及び同保健科学専攻の 1 研究科 2 専攻を構成し、少人数教育を実施している（資料 2-1-③-A）。

資料 2-1-③-A 研究科専攻の構成と教育研究上の目的

(単位：人)

研究科	専攻	教育研究上の目的	担当 教員数	収容 定員数
技術科学研究科	産業技術学専攻	聴覚障害者の社会的自立・参画・貢献はもとより、専門領域に関する系統的な専門知識と技術を持ち、生産の現場において中核的な役割を担いうる高度専門職業人を育成する。	40	8
	保健科学専攻	視覚障害者の社会的自立・参画・貢献はもとより、専門領域に関する系統的な専門知識と技術を持ち、社会において中核的な役割を担いうる高度専門職業人を育成する。	29	6

(総務課作成)

【分析結果とその根拠理由】

観点に係る状況のとおり、本学研究科の専攻の構成は、大学院課程における教育研究の目的を達成する上で、適切なものとなっていると判断する。

観点2-1-④： 別科、専攻科を設置している場合には、その構成が教育研究の目的を達成する上で適切なものとなっているか。

【観点に係る状況】

該当なし

【分析結果とその根拠理由】

該当なし

観点2-1-⑤： 大学の教育研究に必要な附属施設、センター等が、教育研究の目的を達成する上で適切に機能しているか。

【観点に係る状況】

附属施設、センター等としては、①障害者高等教育研究支援センター、②保健管理センター、③附属図書館、④情報処理通信センター、⑤保健科学部附属東西医学統合医療センター、⑥実習工場を設置し、各目的に応じた活動を実施している（資料2-1-⑤-A、B）。

資料2-1-⑤-A センター等の役割

名称	目的
障害者高等教育研究支援センター	聴覚障害者及び視覚障害者に対し新しい教育方法を開発するとともに、基礎教育の研究と実践を行い、併せて、一般大学等への支援を行う施設
保健管理センター	学生及び職員の保健管理等を行うための施設
附属図書館	図書、雑誌、視聴覚資料その他の資料を収集し、整理し、及び保存して、本学の教職員及び学生の利用に供する。
情報処理通信センター	情報処理システム及び通信ネットワーク等の円滑な運用を図る施設
保健科学部附属東西医学統合医療センター	東洋医学と西洋医学を統合した医療の提供及び臨床実習を行う施設
実習工場	産業情報学科の実験・実習を行う施設

(総務課作成)

資料2-1-⑤-B 主なセンター等の教育活動状況（平成23年度）

○ 障害者高等教育研究支援センター 主な開設授業科目名：英語1, 2, 文章技法1, 2, 情報基礎1, 2, 同演習1, 2, 健康と保健科学, オーラルコミュニケーション1, 2, 聴覚障害論A, B, 視覚障害学概論, 健康・スポーツ1~4 等
○ 保健科学部附属東西医学統合医療センター 開設授業科目名：臨床実習1, 臨床実習2
○ 実習工場 主な開設授業科目名：機械加工法実習, 機械CAD/CAE演習, システム工学特別研究 等

(聴覚障害系支援課, 視覚障害系支援課作成)

【分析結果とその根拠理由】

観点に係る状況のとおり、本学の教育研究に必要な附属施設、センター等が教育研究の目的を達成する上で、適切に機能していると判断する。

観点 2-2-①： 教授会等が、教育活動に係る重要事項を審議するための必要な活動を行っているか。

【観点到係る状況】

「国立大学法人筑波技術大学教授会規程」に基づき、産業技術学部及び保健科学部の教授会は、教育課程の編成に関する事、学生の入学、退学、転学、留学、休学及び卒業に関する事等を審議し、また、障害者高等教育研究支援センター教授会は、教養教育に係る教育課程の編成に関する事等を審議している（資料 2-2-①-A, B, 別添資料 2-2-①-1）。

各部署の全教員で構成される教員会議では、教授会の審議事項等の内容について報告し、すべての教員が教育活動に関する情報を共有している（資料 2-2-①-C）。

資料 2-2-①-A 国立大学法人筑波技術大学教授会規程（抜粋）

（審議事項）

第 5 条 産業技術学部教授会は、当該学部に関し、次の事項について審議する。

- (1) 学部の教育課程の編成に関する事。
- (2) 学生の入学、退学、転学、留学、休学及び卒業に関する事。
- (3) 受託研究、共同研究及び奨学寄附金の受入れに関する事。
- (4) その他学部の教育研究及び管理運営に関する事。

2 保健科学部教授会は、当該学部に関し、次の事項について審議する。

- (1) 学部の教育課程の編成に関する事。
- (2) 学生の入学、退学、転学、留学、休学及び卒業に関する事。
- (3) 受託研究(医薬品等の臨床研究に係る受託研究を除く。)、共同研究及び奨学寄附金の受入れに関する事。
- (4) その他学部の教育研究及び管理運営に関する事。

3 障害者高等教育研究支援センター教授会は、当該センターに関し、次の事項について審議する。

- (1) センターの教育研究及び管理運営に関する事。
- (2) 教育課程(教養教育に限る。)の編成に関する事。
- (3) 受託研究、共同研究及び奨学寄附金の受入れに関する事。

資料 2-2-①-B 教授会の開催状況（平成 23 年度）

名 称	開催回数
産業技術学部教授会	14 回
保健科学部教授会	14 回
障害者高等教育研究支援センター教授会	11 回

（聴覚障害系支援課、視覚障害系支援課作成）

資料 2-2-①-C 学部等の教員会議

（学部等の教員会議）

第 2 1 条 学部等の教育研究及び管理運営に係る事項を連絡調整するため、教員会議を置く。

2 教員会議は、当該学部等の教授、准教授、専任の講師、助教及び助手で構成する。

- 3 学部等の長は、当該教員会議を招集し、議長となる。
- 4 議長は、必要と認めるときは、関係の職員を教員会議に出席させ意見を聴くことができる。

(出典：国立大学法人筑波技術大学組織及び管理運営規則)

大学院については、大学院運営委員会を設置し、大学院の教育課程及び研究指導に関する事項等を審議している（資料 2-2-①-D, E, 別添資料 2-2-①-2）。

資料 2-2-①-D 国立大学法人筑波技術大学大学院技術科学研究科大学院運営委員会規程（抜粋）

(審議事項)

第 2 条 大学院運営委員会は、大学院に関し、次の事項について審議する。

- (1) 大学院の組織及び管理運営に関する事項
- (2) 大学院の教育課程及び研究指導に関する事項
- (3) 学生の入学、退学、転学、留学、休学及び修了に関する事項
- (4) 研究指導担当及び授業担当の認定に関する事項
- (5) その他大学院の教育研究に関すること。

(組織)

第 3 条 大学院運営委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 学長
- (2) 研究科長
- (3) 産業技術学専攻長
- (4) 保健科学専攻長
- (5) 各専攻のコース長
- (6) その他学長が指名する者 若干人

資料 2-2-①-E 大学院運営委員会の開催状況（平成 23 年度）

名 称	開催回数
大学院運営委員会	9回

(聴覚障害系支援課作成)

- ・別添資料 2-2-①-1 教授会議事次第(産業技術学部, 保健科学部, 障害者高等教育研究支援センター)
- ・別添資料 2-2-①-2 大学院運営委員会議事次第

【分析結果とその根拠理由】

観点に係る状況のとおり、教授会等が、教育活動に係る重要事項を審議するための必要な活動を行っているとは判断する。

観点 2-2-②： 教育課程や教育方法等を検討する教務委員会等の組織が、適切な構成となっているか。また、必要な回数の会議を開催し、実質的な検討が行われているか。

【観点に係る状況】

教務委員会は、産業技術学部及び保健科学部の各学科並びに障害者高等教育研究支援センターから委員を選出し、全学委員会として教育課程の編成や教育活動に関する諸事項を審議している（資料 2-2-②-A, 別添資

料 2-2-②-1)。

また、全学の教務委員会のほかに聴覚障害系教務委員会及び保健科学部教務委員会を設置し、それぞれの学部の教育課程や教養教育と専門教育の充実に関する事項等を審議している（資料 2-2-②-B, 別添資料 2-2-②-2）。

資料 2-2-②-A 国立大学法人筑波技術大学教務委員会規程（抜粋）

<p>(審議事項)</p> <p>第 2 条 委員会は、次に掲げる事項を審議する。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 教育課程の編成に関する事項 (2) 教養教育と専門教育の統合に関する事項 (3) 授業科目の履修に関する事項 (4) 期末試験に関する事項 (5) 学業成績の評価に関する事項 (6) 卒業の認定に関する事項 (7) 科目等履修生、特別聴講学生及び研究生に関する事項 (8) その他教務に関する重要事項 <p>(組織)</p> <p>第 3 条 委員会は、次に掲げる委員をもって組織する。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 各学科・専攻の教授のうちから選出される者 各 1 人（産業情報学科にあつては、2 人） (2) 障害者高等教育研究支援センターの教授のうちから選出される者 4 人 (3) その他学長が指名する者 若干人
--

資料 2-2-②-B 教務委員会等の開催状況（平成 23 年度）

名 称	開催回数
教務委員会	4 回
聴覚障害系教務委員会	1 回
保健科学部教務委員会	5 回

（聴覚障害系支援課、視覚障害系支援課作成）

大学院については、研究科長及び各専攻長等から組織する研究科学事委員会を設置し、教育方針・教育計画等に関する事項を審議している（資料 2-2-②-C, 別添資料 2-2-②-3）。

資料 2-2-②-C 国立大学法人筑波技術大学研究科学事委員会規程（抜粋）

<p>(審議事項)</p> <p>第 2 条 委員会は、次に掲げる事項を審議する。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 教育方針・教育計画の立案及び実施に関すること。 (2) 学生の学生生活支援に関する基本方針の立案及び実施に関すること。 (3) 学生の就職に関する基本方針の立案及び実施に関すること。 (4) その他教務、学生生活及び就職に関する重要事項 <p>(組織)</p> <p>第 3 条 委員会は、次に掲げる委員をもって組織する。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 研究科長 (2) 産業技術学専攻長 (3) 保健科学専攻長 (4) 各専攻の教授のうちから選出される者 各 3 人 (5) その他研究科長が指名する者 若干人
--

- ・別添資料2-2-②-1 教務委員会議事次第
- ・別添資料2-2-②-2 聴覚障害系教務委員会議事次第, 保健科学部教務委員会議事次第
- ・別添資料2-2-②-3 研究科学事委員会議事次第

【分析結果とその根拠理由】

観点に係る状況のとおり、教務委員会等の組織が適切な構成になっており、会議が必要な回数開催され、実質的な審議が行われていると判断する。

(2) 優れた点及び改善を要する点

【優れた点】

- 本学の特性にかんがみ、障害学や障害補償、障害に合わせた情報処理の方法等を学ぶために「障害関係教育科目」を開設している。

【改善を要する点】

該当なし

(3) 基準2の自己評価の概要

学士課程は、聴覚に障害のある学生を対象とする産業技術学部及び視覚に障害のある学生を対象とする保健科学部の2学部4学科を設置し、教育研究の目的を達成する教育研究組織を整備しており、その構成は適切なものとなっている。

教養教育については、障害者高等教育研究支援センターの教員が中心となり授業を担当し、教務委員会及び学部と連携を図りながら全学的な運営体制を構築している。

大学院修士課程は、専門領域と学生の障害に対応して技術科学研究科産業技術学専攻及び同保健科学専攻を設置している

附属施設等は、障害者高等教育研究支援センターのほか、保健管理センター、附属図書館、情報処理通信センター、保健科学部附属東西医学統合医療センター、実習工場を設置し、各目的に応じた活動を実施している。

教授会等は、教育研究に関する重要事項を審議しており、教育に係る必要な活動を行っている。

全学の教務に関する専門的な事項を審議する教務委員会、各学部の教務に関する事項を審議する各学部等の教務委員会等の組織を整備しており、その構成は適切であり、教育に係る実質的な活動を行っている。

基準3 教員及び教育支援者

(1) 観点ごとの分析

観点3-1-①： 教員組織編制のための基本の方針を有しており、それに基づいて教員の適切な役割分担の下で、組織的な連携体制が確保され、教育研究に係る責任の所在が明確にされた教員組織編制がなされているか。

【観点到る状況】

本学における学部、大学院等の教員組織編成は、「国立大学法人筑波技術大学組織及び管理運営に関する規則」に基づき定めている（資料3-1-①-A）。

教員の役割は、同規則において学校教育法に定める教授、准教授、講師、助教及び助手のそれぞれの職務を行うことを規定している。また、教育研究上の基本組織としては、学部に学科を、大学院に専攻を置き、それぞれの下に講座を設け、その教育研究に必要な教員を配置している。さらに、教育研究に係る責任を明確にするため、学部には学部長、学部長補佐及び学科長等並びに大学院には研究科長及び専攻長等をそれぞれ置き、当該組織の校務を掌理している（資料3-1-①-B）。

なお、学部に所属している教員は、大学院設置計画に基づき教員の資格審査において認められた者が大学院課程の研究指導、授業担当を行っている（資料3-1-①-C）。

資料3-1-①-A 国立大学法人筑波技術大学組織及び管理運営に関する規則（抜粋）

(職員)

第5条の3 法人に、教育職員、事務職員、技術職員、医療職員及びその他必要な職員を置く。

2 前項の教育職員は、教授、准教授、講師、助教及び助手とし、学校教育法に定めるところにより、それぞれの職務を行うものとする。

(略)

第1節 学部

(学部及び学科)

第13条 大学に次の学部及び学科を置く。

(1) 産業技術学部

産業情報学科，総合デザイン学科

(2) 保健科学部

保健学科，情報システム学科

2 学部の学科に、別表2のとおり講座を置き、その教育研究に必要な教育職員を置くものとする。

3 学部に学部長を置き、教授のうちから学長が命ずる。

4 学部に学部長補佐を置き、当該部の教授のうちから学部長の推薦に基づき、学長が命ずる。

5 学科に学科長を置き、教授のうちから学長が命ずる。

6 保健学科に、鍼灸学専攻及び理学療法学専攻を置く。

7 産業情報学科に副学科長を、保健学科の各専攻に専攻長を置き、教授のうちから学部長の推薦に基づき、学長が命ずる。

8 学部長、学科長及び専攻長は、当該組織の校務を掌理し、学部長補佐は学部長を、副学科長は学科長を補佐する。

9 学部長、学部長補佐、学科長、専攻長及び副学科長(以下「学部長等」という。)の任期は2年とし、再任を妨げないものとする。

10 学部長等が任期満了前に辞任し、又は欠員となった場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

第2節 大学院

第13条の2 大学に大学院技術科学研究科（修士課程）（以下「研究科」という。）を置く。

2 研究科に次の専攻を置く。

(1) 産業技術学専攻

(2) 保健科学専攻

3 研究科の専攻に、別表3のとおり講座を置き、その教育研究に必要な教育職員を置くものとする。

4 研究科に研究科長を置き、副学長をもって充てる。

5 専攻に専攻長を置き、学部長をもって充てる。

6 研究科長及び専攻長は、当該組織の校務を掌理する。

7 研究科長及び専攻長が任期満了前に辞任し、又は欠員となった場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

第3節 センター等

(障害者高等教育研究支援センター)

第14条 大学に聴覚障害者及び視覚障害者に対し新しい教育方法を開発するとともに、基礎教育の研究と実践を行い、併せて、一般大学等への支援を行う施設として障害者高等教育研究支援センターを置き、必要な教員を置くものとする。

2 障害者高等教育研究支援センターにセンター長を置き、教授のうちから学長が命ずる。

3 障害者高等教育研究支援センターに副センター長を置き、当該センターの教授のうちからセンター長の推薦に基づき学長が命ずる。

4 障害者高等教育研究支援センターに関し必要な事項は別に定める。

(保健管理センター)

第15条 大学に学生及び職員の保健管理等を行うための施設として保健管理センターを置く。

2 保健管理センターにセンター長を置き、教授のうちから学長が命ずる。

3 保健管理センターに関し必要な事項は別に定める。

(附属図書館)

第16条 大学に附属図書館を置く。

2 附属図書館に館長を置き、副学長をもって充てる。

3 附属図書館に関し必要な事項は別に定める。

(情報処理通信センター)

第17条 大学に情報処理システム及び通信ネットワーク等の円滑な運用を図る施設として情報処理通信センターを置く。

2 情報処理通信センターにセンター長を置き、教授のうちから学長が命ずる。

3 情報処理通信センターに副センター長を置き、教授のうちからセンター長の推薦に基づき学長が命ずる。

4 情報処理通信センターに関し必要な事項は別に定める。

(附属東西医学統合医療センター)

第18条 保健科学部に附属東西医学統合医療センターを置き、必要な教員を置くものとする。

2 附属東西医学統合医療センターにセンター長を置き、教授をもって充てる。

3 附属東西医学統合医療センターに関し必要な事項は別に定める。

別表2（第13条関係）

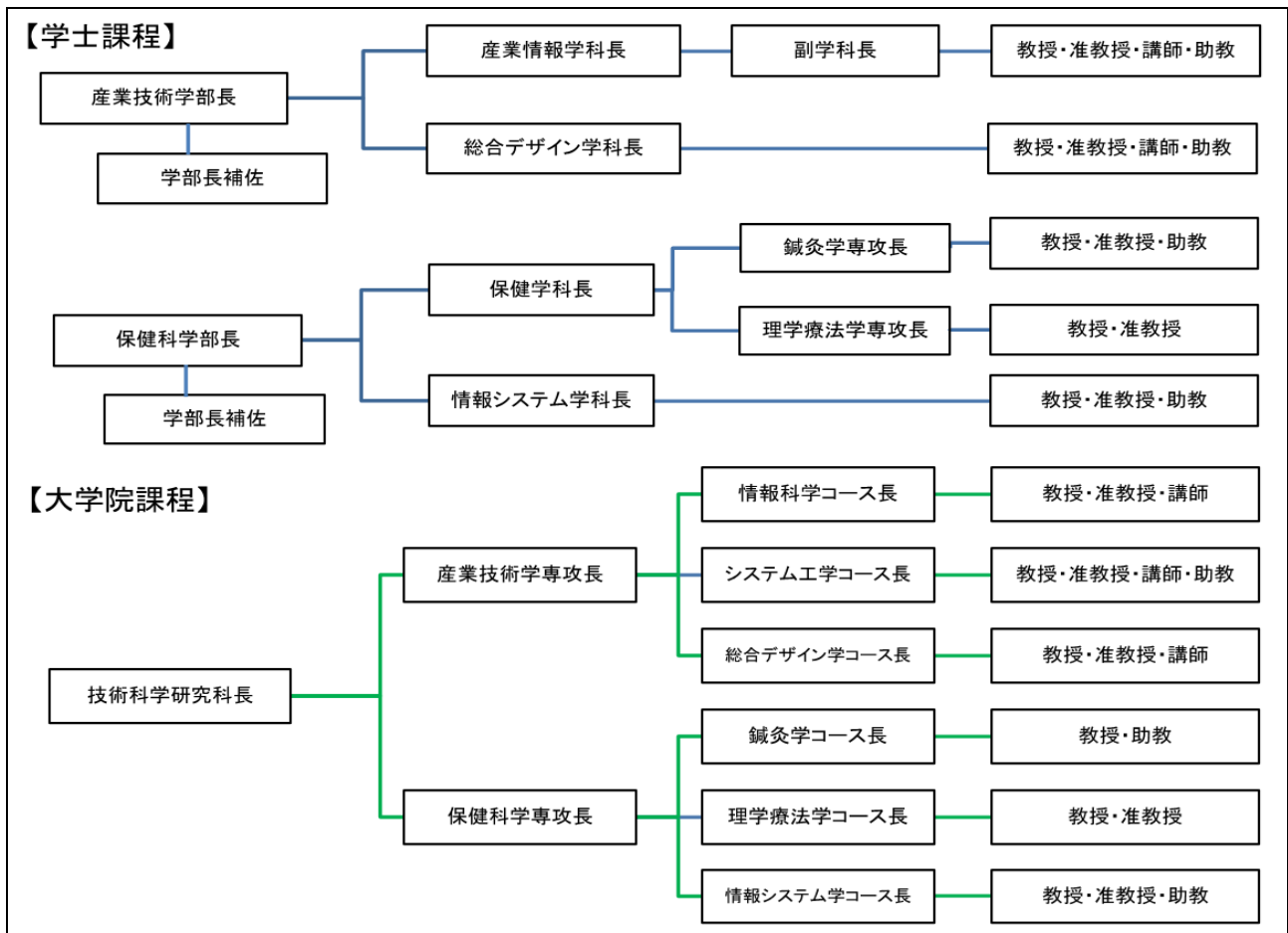
学部名	学科名	講座名
産業技術学部	産業情報学科	情報科学
		システム工学
	総合デザイン学科	総合デザイン学
保健科学部	保健学科	東西統合鍼灸科学
		理学療法学

		東西統合医学
	情報システム学科	情報システム学

別表3 (第13条の2関係)

研究科名	専攻名	講座名
技術科学研究科	産業技術学専攻	情報科学
		システム工学
		総合デザイン学
	保健科学専攻	東西統合鍼灸科学
		理学療法学
		東西統合医学
		情報システム学

資料3-1-①-B 教員組織と責任体制



(総務課作成)

資料3-1-①-C 大学院担当教員名簿

- ・筑波技術大学大学院設置計画書 (153頁～156頁)
- (http://www.tsukuba-tech.ac.jp/assets/files/soumu/setti/gi_jyutukagakukenyuka_secchi.pdf)

【分析結果とその根拠理由】

観点に係る状況のとおり、教員組織編制のための基本方針を有しており、それに基づいて教員の適切な役割分担の下で、組織的な連携体制が確保され、教育研究に係る責任の所在が明確にされた教員組織編制がなされていると判断する。

観点3-1-②： 学士課程において、教育課程を遂行するために必要な教員が確保されているか。また、教育上主要と認める授業科目には、専任の教授又は准教授を配置しているか。

【観点に係る状況】

学士課程を担当する専任教員数は、平成23年5月現在、教授49名、准教授36名、講師4名、助教7名である。教員一人当たりの学生数は3.9名であり、これらの専任教員は、両学部の目的に沿った教育課程を遂行するのに必要な数を満たし、大学設置基準に適合している（資料3-1-②-A）。

教養教育の担当は、障害者高等教育研究支援センター基礎教育研究部に配置された教員を中心とし、一部科目を各学部の教員が補う形で担当している。

各学部の主要科目は教授、准教授が担当している。また、各学部の科目を担当する常勤、非常勤の状況は、資料3-1-②-Bのとおりである。

資料3-1-②-A 学士課程担当における専任教員数（平成23年5月1日現在）

学部・学科等の名称	専任教員等							
	教授	准教授	講師	助教	計	基準数	うち 教授数	助手
産業技術学部	人	人	人	人	人	人	人	人
産業情報学科	13	15	2	1	31	14	7	0
総合デザイン学科	5	6	1	1	13	10	5	0
保健科学部								
保健学科鍼灸学専攻	10	3	0	2	15	8	4	0
保健学科理学療法学専攻	6	2	0	0	8	8	4	0
情報システム学科	6	5	0	1	12	12	6	0
障害者高等教育研究支援センター								
基礎教育研究部	9	5	1	2	17	—	—	0
計	49	36	4	7	96			

(総務課作成)

資料3-1-②-B 授業形態別開設科目数（平成23年度）

産業技術学部	常勤教員担当科目数	非常勤教員担当科目数
教養教育系科目	74	29（うち放送大学科目2・常勤と共同担当科目4含む）
専門教育系科目	410	39（うち常勤と共同担当科目2含む）

保健科学部	常勤教員担当科目数	非常勤教員担当科目数
教養教育系科目	58	7（うち放送大学科目2を含む）
専門教育系科目	255	27

（聴覚障害系支援課、視覚障害系支援課作成）

【分析結果とその根拠理由】

観点に係る状況のとおり、学士課程において教育課程を遂行するために必要な教員が確保されており、教育上必要と認める授業科目には、専任の教授又は准教授を配置していると判断する。

観点3-1-③： 大学院課程（専門職学位課程を除く。）において、必要な研究指導教員及び研究指導補助教員が確保されているか。

【観点に係る状況】

大学院における研究指導教員数及び研究指導補助教員数は、大学院設置基準を満たし、かつ大学院課程における教育を遂行するために必要な教員数を確保している（資料3-1-③-A）。

資料3-1-③-A 大学院課程における研究指導教員等の配置状況（平成23年5月1日現在）

研究科・専攻等の名称	研究指導教員及び研究指導補助教員							基準数計
	研究指導 教員数	うち 教授数	研究指導 補助教員	計	研究指導 教員基準	うち 教授数	研究指導 補助教員 基準	
技術科学研究科	人	人	人	人	人	人	人	人
産業技術学専攻（M）	25	15	3	28	4	3	3	7
保健科学専攻（M）	21	15	0	21	6	4	6	12

（総務課作成）

【分析結果とその根拠理由】

観点に係る状況のとおり、大学院課程において、必要な研究指導教員及び研究指導補助教員が確保されていると判断する。

観点3-1-④： 専門職学位課程において、必要な専任教員（実務の経験を有する教員を含む。）が確保されているか。

【観点に係る状況】

該当なし

【分析結果とその根拠理由】

該当なし

観点3-1-⑤：大学の目的に応じて、教員組織の活動をより活性化するための適切な措置が講じられているか。

【観点に係る状況】

本学では、「国立大学法人筑波技術大学教育職員の人事に関する基本方針」に基づき、教員人事は、公募によることを原則としている（資料3-1-⑤-A）。また、「国立大学法人筑波技術大学における人権の尊重についての基本姿勢」に基づき、男女共同参画社会の形成の促進や障害者、外国人の雇用を推進するなどを基本姿勢としてその実施に努めている（資料3-1-⑤-B）。

女性教員の割合、外国人教員の割合及び障害者教員の割合は、資料3-1-⑤-Cのとおりであり、外国人教員の割合が少ない状況である。また、年齢構成は、資料3-1-⑤-Dのとおりであり、全体としてバランスのとれた構成となっている。さらに「国立大学法人筑波技術大学任期付教育職員の任期等に関する規程」に基づき、特任教員を採用している（資料3-1-⑤-E, F）。

資料3-1-⑤-A 国立大学法人筑波技術大学教育職員の人事に関する基本方針（平成20年3月31日学長裁定）

1 目的

聴覚・視覚障害者を対象とする我が国唯一の高等教育機関として、教育・研究の充実と発展を図り、本学が社会に果たすべき役割を実現するために、国内外を問わず真に職務について優れた能力を有する多様な人材採用の促進に資するよう、次のように教育職員の人事に関して基本方針を定める。

2 教育研究組織の検討

大学院及び理療科教員養成課程の設置計画等大学の将来構想及び財政状況等を踏まえ、組織と職務の見直しを行い、適正な人員配置を行う。

3 公募の原則

国籍、性別等による差別を排除するとともに、国内外に広く人材を求めるため、教育職員を採用する場合は公募を原則とする。

4 多様な人材の活用

(1) 本学の国際化及び男女共同参画の推進並びに上記1の目的を達成するため、教育職員の選考において、候補者の能力・業績等が同等であると認められる場合には、積極的に外国人、女性及び障害者を採用する。（また、その旨を公募の際に明記する。）

(2) 大学運営の場への外国人、女性及び障害がある教育職員の登用を推進する。

5 就労環境等の整備

(1) 育児のための多様な勤務形態として、育児短時間勤務制度を導入するなど、育児と仕事の両立を目指す。

(2) 障害がある教育職員に対する情報保障の充実を図るとともに、他の職員の手話及び点字研修等を実施する。

6 任期付き教員制度の検討

本学における教育・研究の活性化に資するよう、新たに採用する助教に任期を付して雇用する制度について検討を行う。

資料 3-1-⑤-B 国立大学法人筑波技術大学における人権の尊重についての基本姿勢（平成21年12月18日制定）

<p>国立大学法人筑波技術大学人権問題等委員会規程（平成17年規程第14号）第2条第1号の人権の尊重についての基本姿勢は、次のとおりとする。</p> <p>【基本姿勢】</p> <p>本学は個人の人権を尊重し、社会に果たすべき役割や多様な人材の活用を図る観点から、次に掲げる事項を基本姿勢として行動する。</p> <p>1 国籍、性別、障害等による差別を排除する。</p> <p>1 男女共同参画社会の形成を促進する。</p> <p>1 障害者、外国人の雇用を推進する。</p> <p>1 障害のある教職員等に対する就労環境等の整備を促進する。</p> <p>1 聴覚・視覚障害者の理解・啓発活動を推進する。</p>

資料 3-1-⑤-C 専任教員数及び女性教員、外国人教員及び障害者教員の割合（平成23年5月1日現在）

部局名	専任教員数（人）		女性教員の割合（%）	外国人教員の割合		障害者教員の割合	
	男性	女性		教員数(人)	割合（%）	教員数(人)	割合（%）
産業技術学部	39	5	11.4	2	4.5	5	11.4
保健科学部	34	5	12.8	0	0	4	10.3
障害者高等教育研究支援センター	20	8	28.6	1	3.6	3	10.7
計	93	18	16.2	3	2.7	12	10.8

※特任教員除く

(総務課作成)

資料 3-1-⑤-D 教員の年齢構成（平成23年5月1日現在）（単位：人）

年齢区分	職名				
	教授	准教授	講師	助教	合計
～24歳	0	0	0	0	0
25～34歳	0	1	0	3	4
35～44歳	2	20	4	4	30
45～54歳	14	16	1	2	33
55～64歳	39	5	0	0	44
65歳～	0	0	0	0	0
計	55	42	5	9	111

※特任教員除く

(総務課作成)

資料 3-1-⑤-E 国立大学法人筑波技術大学任期付教育職員の任期等に関する規程（抜粋）

<p>(趣旨)</p> <p>第1条 この規程は、国立大学法人筑波技術大学職員任用規程（平成17年規程第44号。以下「規程」という。）第18条の規定に基づき、任期を定めて採用する教育職員（以下「任期付教育職員」という。）の任期等に関して必要な事項を定めるものとする。</p> <p>(任期付教育職員の範囲)</p> <p>第2条 任期付教育職員は、規程第3条別表に掲げる教育職員のうち、次のとおりとする。</p> <p>(1) 規程第17条第1号の規定により採用される教授、准教授、講師及び助教（以下「教員」という。）</p> <p>(2) 規程第17条第2号の規定により採用される特任助教、特任助手及び特任研究員（以下「特任教員」という。）</p> <p>(任期等)</p>
--

<p>第3条 任期付教育職員の任期は、次のとおりとする。</p> <p>(1) 前条第1号の規定により採用される教員の任期は、3年とする。ただし、1回に限り2年の再任用を認めることがある。</p> <p>(2) 前条第2号の規定により採用される特任教員の任期は、1年以内とし、再任を妨げない。ただし、任期は、最長5年までとする。</p> <p>(定年)</p> <p>第4条 第3条の規定にかかわらず、当該任期の途中で定年退職の日を迎えることとなる任期付教育職員の任期の終期は、定年退職の日とする。</p> <p>(同意)</p> <p>第5条 任期付教育職員として任期を定めて採用する場合には、書面により、当該採用される者の同意を得なければならない。</p> <p>(退職)</p> <p>第6条 任期付教育職員が当該任期中（当該任期が始まる日から1年を経過するまでの期間を除く。）にその意思により退職することを妨げるものではない。</p>

資料3-1-⑤-F 特任教員採用状況（平成23年5月1日現在） (単位：人)

部局等名	特任助教	特任助手	特任研究員	合計
保健科学部	2(1)	0	3(1)	5(2)
障害者高等教育研究支援センター	0	4(4)	2(2)	6(6)
計	2(1)	4(4)	5(3)	11(8)

※（ ）は女性教員数で内数

(総務課作成)

【分析結果とその根拠理由】

観点に係る状況のとおり、大学の目的に応じて、教員組織の活動をより活性化するための適切な措置が講じられていると判断する。

ただし、教員の採用に当たり、外国人教員の割合が少ない状況であるため、今後、外国人教員の採用を進めることが望まれる。

観点3-2-①： 教員の採用基準や昇格基準等が明確かつ適切に定められ、適切に運用がなされているか。

特に、学士課程においては、教育上の指導能力の評価、また大学院課程においては、教育研究上の指導能力の評価が行われているか。

【観点に係る状況】

教員の選考については、「国立大学法人筑波技術大学教員選考基準規程」及び「国立大学法人筑波技術大学教育職員の選考に関する細則」に基づき、教授、准教授、専任の講師、助教及び助手の選考基準及び資格並びに選考手続に関する取り扱いを定めている（資料3-2-①-A, B）。

具体的には、教育研究評議会の下に教員人事委員会を置き、書類審査及び面接等により、総合的な評価を基に選考を行っている。

大学院課程においては、大学院運営委員会の下に大学院教員資格審査委員会を置き、各教員の業績等の評価により研究指導及び授業担当の資格審査を行っている。

資料3-2-①-A 国立大学法人筑波技術大学教員選考基準規程（抜粋）

（選考の基準）

第3条 教員の選考は、次条から第9条までに規定する資格を有する者について、人格、教授能力、教育業績、研究業績並びに学
界及び社会における活動等、さらには、聴覚障害又は視覚障害に対する理解と、聴覚障害者又は視覚障害者の教育に対する熱意
を考慮して行う。

（教授の資格）

第4条 教授となることのできる者は、次の各号のいずれかに該当し、かつ、大学における教育を担当するにふさわしい教育上の
能力を有すると認められる者とする。

- (1) 博士の学位（外国において授与されたこれに相当する学位を含む。）を有し、研究上の業績を有する者
- (2) 研究上の業績が前号の者に準ずると認められる者
- (3) 学位規則（昭和28年文部省令第9号）第5条の2に規定する専門職学位（外国において授与されたこれに相当する学位を
含む。）を有し、当該専門職学位の専攻分野に関する実務上の業績を有する者
- (4) 大学において教授、准教授又は専任の講師の経歴（外国におけるこれらに相当する教員としての経歴を含む。）のある者
- (5) 芸術、体育等については、特殊な技能に秀でていと認められる者
- (6) 専攻分野について、特に優れた知識及び経験を有すると認められる者

（准教授の資格）

第5条 准教授となることのできる者は、次の各号のいずれかに該当し、かつ、大学における教育を担当するにふさわしい教育上の
能力を有すると認められる者とする。

- (1) 前条各号のいずれかに該当する者
- (2) 大学において助教又はこれに準ずる職員としての経歴（外国におけるこれらに相当する職員としての経歴を含む。）のある
者
- (3) 修士の学位又は学位規則第5条の2に規定する専門職学位（外国において授与されたこれらに相当する学位を含む。）を有
する者
- (4) 研究所、試験所、調査所等に在職し、研究上の業績を有する者
- (5) 専攻分野について、優れた知識及び経験を有すると認められる者

（講師の資格）

第6条 講師となることのできる者は、次の各号のいずれかに該当する者とする。

- (1) 第4条又は前条に規定する教授又は准教授となることのできる者
- (2) その他特殊な専攻分野について、大学における教育を担当するにふさわしい教育上の能力を有すると認められる者

（助教の資格）

第7条 助教となることのできる者は、次の各号のいずれかに該当し、かつ、大学における教育を担当するにふさわしい教育上の
能力を有すると認められる者とする。

- (1) 第4条各号又は第5条各号のいずれかに該当する者
- (2) 修士の学位（医学を履修する課程、歯学を履修する課程、薬学を履修する課程のうち臨床に係る実践的な能力を培うこと
を主たる目的とするもの又は獣医学を履修する課程を修了した者については、学士の学位）又は学位規則第5条の2に規定
する専門職学位（外国において授与されたこれらに相当する学位を含む。）を有する者
- (3) 専攻分野について、知識及び経験を有すると認められる者

（助手の資格）

第8条 助手となることのできる者は、次の各号のいずれかに該当する者とする。

- (1) 学士の学位（外国において授与されたこれに相当する学位を含む。）を有する者
- (2) 前号の者に準ずる能力を有すると認められる者

（その他教員の資格）

第9条 第4条から前条までに定めるもののほか、国立大学法人筑波技術大学任期付教育職員の任期等に関する規程（平成18年
規程第12号）第2条第2号に掲げる職名の教員（特任助教、特任助手及び特任研究員をいう。）となることのできる者は、次の
各号の資格を有する者とする。

- (1) 特任助教となることのできる者は、第7条に規定する助教の資格を有する者とする。

- (2) 特任助手となることのできる者は、前条に規定する助手の資格を有し、かつ、現在の教育研究活動状況等から教育研究能力を有すると判断できる者とする。
- (3) 特任研究員となることのできる者は、受け入れ組織の研究活動発展に貢献しようとする意欲と能力があり、積極的な協力が期待できる者とする。

資料3-2-①-B 国立大学法人筑波技術大学教育職員の選考に関する細則（抜粋）

(選考機関)

第2条 教員の選考については、教育研究評議会(以下「評議会」という。)の議に基づき、学長が行う。

(人事委員会の設置)

第3条 評議会議長は、産業技術学部長、保健科学部長又は障害者高等教育研究支援センター長(以下「学部長等」という。)から教員の採用及び昇任等の申し出があったときは、評議会において選考に関する審査をするため、その都度、教員人事委員会(以下「人事委員会」という。)を置くものとする。なお、教員の採用及び昇任等の申し出の際は、別記様式第1の教員人事発議書を提出するものとする。

2 人事委員会は、次の表に掲げる区分ごとに教授5人で構成するものとする。なお、評議会議長は、人事委員会の委員の選考を、産業技術学部教授会、保健科学部教授会又は障害者高等教育研究支援センター教授会に、付託するものとする。

教員選考組織	委員の選出区分
学科及び専攻(以下「学科等」という。)	当該選考に関する学科等の学科長又は専攻長 当該選考に関する学科等の教授 当該学部(当該学科等を除く。)の教授会の教授 他の学部の教授会の教授 障害者高等教育研究支援センターの教授
障害者高等教育研究支援センター	障害者高等教育研究支援センターの当該研究部の部長 障害者高等教育研究支援センターの当該研究部の教授 障害者高等教育研究支援センターの他の研究部の教授 産業技術学部の教授会の教授 保健科学部の教授会の教授
保健科学部附属東西医学統合医療センター	保健科学部附属東西医学統合医療センター長 産業技術学部の教授 保健科学部の教授 障害者高等教育研究支援センターの教授 同一又は関連の専門分野の教授

3 前項の付託を受けた当該教授会は、人事委員会委員を選考し、評議会議長に報告するものとする。

4 人事委員会に主査を置き、評議会の議を経て学長が指名する。

(人事委員会における審査)

第4条 主査は、会議を招集し、議長となる。

2 人事委員会は、2回以上開催するものとし、第2回目は、第1回目の開催後1週間以上の期間を置いて開催するものとする。ただし、助教又は助手の人事委員会は、1回以上開催するものとする。

3 人事委員会は、すべての候補対象者から提出された別記様式第2の履歴書及び別記様式第3の主要業績目録等並びに全業績一覧等を審査し、最適者1人を選考し、別記様式第4の教員人事委員会審査報告書(以下「審査報告書」という。)により、評議会に報告するものとする。

4 人事委員会委員は、審査の終了後、審査報告書に署名することによって、審査結果に対する賛成の意思を表示するものとする。

5 主査は、人事委員会委員の3分の2以上の署名が得られなければ、評議会に報告することはできない。

6 評議会議長は、審査報告書に署名しない委員がその理由を述べる機会について配慮するものとする。

(教員候補者の決定)

第5条 評議会は、主査からの審査結果の報告に基づき、無記名投票を実施し、投票総数の3分の2以上の同意をもって教員候補者とする。

- 2 前項の投票で、投票総数の3分の2以上の同意が得られなかった場合において、可とする票と白票との和が投票総数の3分の2以上となるときは、再投票に付することができる。
- 3 第1項の規定にかかわらず、助手の選考については、投票によらないで教員候補者を決定することができる。

【分析結果とその根拠理由】

観点に係る状況のとおり、学士課程における教育上の指導能力の評価が行われ、教員の採用基準や昇格基準等が明確かつ適切に定められ、運用されていると判断する。

観点 3-2-②： 教員の教育活動に関する定期的な評価が行われているか。また、その結果把握された事項に対して適切な取組がなされているか。

【観点に係る状況】

平成 20 年度に、「教員の個人評価に係る結果活用に関する基本方針」及び「教員の個人評価指針」を定め、これに基づき、教員が2年に一度、教育、学術・研究、社会・国際貢献、組織運営・管理の4つの領域に係る自己評価を行い、それを部局長が評価する方法で教員評価を実施している（資料 3-2-②-A, B）。

また、評価結果については、勤務成績を考慮の上、昇給及び勤勉手当に反映している（資料 3-2-②-C）。

なお、障害者高等教育研究支援センターでは、それぞれの教員の専門領域が大きく異なるため、個々の教員の研究活動の促進と連携的研究の創発のためにセンター内で毎月1回のペースで研究発表会を実施している。

資料 3-2-②-A 筑波技術大学における教員の個人評価に係る結果活用に関する基本方針（平成 20 年 9 月 26 日学長裁定）（抜粋）

- 1 教員の個人評価の結果は、本学及び部局等の教育研究等の改善に役立てるとともに、教員個人の処遇に反映させるため活用する。
- 2 教員個人への処遇については、総合評価で「評価の高い教員」、「問題のある教員」に対し、適切な措置を講ずるものとし、評価結果による序列化は行わない。
- 3 「評価の高い教員」に対しては、その活動の一層の向上を促すため、給与上の措置（就業規則に基づく特別昇給等）等を講ずる。
- 4 「問題のある教員」に対しては、部局長等が必要により活動の改善についての適切な指導及び助言を行う。
- 5 問題があり改善を要するとされた教員で、次期評価時においても「問題のある教員」と評価された場合は、状況等に応じて給与上の措置（就業規則に基づく昇給延伸等）又は身分上の措置（就業規則に基づく配置換、降格、解雇等）を講ずることがある。
- 6 前項の措置を講ずる場合は、学長が当該部局長等からの申し出により「調査委員会」を設置し、その調査に基づき必要に応じて教育研究評議会の下に「審議委員会」を設置して、措置の検討を行わなければならない。
- 7 学長は、5項の措置を講ずる必要が生じた部局長等の監督責任に対し、必要により注意を与える。

資料 3-2-②-B 筑波技術大学における教員の個人評価指針（平成 20 年 9 月 26 日制定）（抜粋）

第1 目的

国立大学法人筑波技術大学（以下「本学」という。）は、教員個人の活動状況について点検・評価し、もって本学の教育、研究等の向上に資するよう、以下のことを目的として教員の個人評価（以下「個人評価」という。）を実施する。

- (1) 教員が、自己の活動を点検し、自己評価することによって、その活性化に役立てるとともに、自己の活動の改善と向上に努めることを促進する。
- (2) 個人評価の結果を総合的に分析し、本学及び各部局等の教育、学術・研究、社会・国際貢献及び組織運営・管理等の活動の改善と向上に努める。

(3) 教員の活動状況及び評価の結果を公表することによって、本学が広く国民の理解と支持を得られるよう努め、もって社会への説明責任を果たす。

第2 教員の個人評価の対象教員及び実施単位

- 1 個人評価の対象とする教員は、本学の教授、准教授、専任の講師及び助教とする。
- 2 個人評価の実施単位は、教員の所属部局（産業技術学部、保健科学部、障害者高等教育研究支援センター（以下、「支援センター」という。）をいう。）ごととする。ただし、保健科学部附属東西医学統合医療センター（以下、「医療センター」という。）に所属する教員については、保健科学部の実施単位に含める。

第3 評価領域及び評価の期間

- 1 評価の領域は、教員の活動を「教育」、「学術・研究」、「社会・国際貢献」及び「組織運営・管理」の4つの領域（以下「各領域」という。）に分類する。
- 2 部局の長による個人評価は毎年実施し、必要に応じて教員に対し指導助言を行うものとする。また、2年に1度は「個人評価表による申告」を含めて実施するものとする。

第4 評価実施体制

- 1 個人評価の実施に関する全学的な方針の決定、結果の全学的集計及び公表、その他全学的調整は、評価委員会において行う。
- 2 第2の第2項に定める個人評価実施単位（以下「部局」という。）ごとの方針の決定、実施及びその結果の取りまとめ等は当該部局の長が行う。
- 3 部局の長は、「個人評価表による申告」の実施に当たって、当該部局の実施に関する事項の検討や実質的な作業を行う組織を置くことができる。

第5 教員の個人評価基準及び方法

- 1 部局の長は、本学の目標及び本指針に定める目的に沿い、かつ、当該部局等の目標、専門分野の特徴などを考慮した「個人評価の実施項目・細目」を各領域それぞれについて定め、これを評価室をとおして教員にあらかじめ公表する。
- 2 各教員は「個人評価の実施項目・細目」に記載されている活動状況を、それぞれ3（十分）、2（普通）、1（改善要）の3段階に評価する。評価にあたっては、各細目について明示されている「2（普通）とする状態」を基準にして評価するものとする。
- 3 個人評価表による申告の総合評点の算出は以下のとおりとする。
 - (1) 各領域ごとに合計点を出し、それを100点満点に換算する。100点満点に換算した各領域の点数にそれぞれ重み付けを行い、総合評点を決定する。
 - (2) 各領域の点数に加える重みは、教員の職種による職務等の差異を考慮した上で、その合計が「100%」となるように、下記のように定める。

	教授	准教授・講師・助教
A：教育活動	30 %	30 %
B：学術・研究活動	20	30
C：社会・国際貢献活動	20	20
D：組織運営・管理	30	20

(3) ある領域の重みを5%減じ、他の領域の重みに加えることができる。

4 個人評価は、教員自らが各領域の活動状況を自己点検・評価したうえで作成する「個人評価表」の結果を参考にして部局の長が行う。

5 評価にあたって、3月に各教員からの個人評価表による申告を受け、個人評価表を参考にした面談を実施する。

(1) 面談の実施時期は、4、5月とする。

(2) 面談は、必要な教員のみとする。

(3) 2名での面談を原則とする。

・学部にあつては、学部長と当該教員が所属する学科等の長とする。なお、学科等の長については、産業情報学科では当該教員の系別に学科長又は副学科長、保健学科では当該教員の専攻別に専攻長とする。

・支援センターにあつては、支援センター長、副センター長と当該教員が所属する研究部の部長の3名とする。

・医療センターにあつては、保健科学部長と医療センター長とする。

・学科長、専攻長、副学科長にあつては、学部長と学部長補佐、支援センター研究部の部長にあつては、支援センター長と副センター長とする。

・両学部長、支援センター長、副センター長、保健管理センター長、医療センター長にあつては、学長と副学長とする。

資料 3-2-②-C 教員評価結果及び教員評価項目一覧

- ・教員評価結果 (http://www.tsukuba-tech.ac.jp/assets/files/soumu/hojin/pdf/kyoinhyoka_kekka20.pdf)
- ・教員評価項目一覧
(http://www.tsukuba-tech.ac.jp/assets/files/soumu/hojin/pdf/kyoinhyoka_koumokuichiran.pdf)

【分析結果とその根拠理由】

観点に係る状況のとおり、教員の教育活動に関する定期的な評価が行われ、その結果把握された事項に対して適切な取組がなされていると判断する。

観点 3-3-①： 教育の目的を達成するための基礎として、教育内容等と関連する研究活動が行われているか。

【観点に係る状況】

産業技術学部では、情報科学、システム工学、デザイン学の各専門分野の研究が進められている。これらの研究は、専門教育系科目の内容と相関性を有している（資料 3-3-①-A）。また、聴覚障害者のための授業支援システムや専門分野に関わる指導法の研究も多数行われ、実践されている。

保健科学部では、鍼灸学、理学療法学、情報システム学の各専門分野の研究が進められている。これらの研究は、専門教育系科目の内容と相関性を有している（資料 3-3-①-B）。また、視覚障害者のための授業支援システムや専門分野に関わる指導法の研究も多数行われ、実践されている。

資料 3-3-①-A 学科における教育内容と関連する代表的な研究一覧（産業技術学部）

所属・教員名	研究活動及び主な研究業績等	授業科目名
産業情報学科 平賀 瑠美	(代表的な研究活動) マルチモーダル・インタフェース、音楽療法、affective computing (主要論文) 1. Conveying Emotion with Moving Images: relationship between movement and emotion, Affective Computing and Intelligent Interaction, LNCS 6974, pp. 558-567, October 2011. 2. Emotion Recognition in Polygons and Curved Shapes, SMC2011, October 2011. 3. Emotion-intending Drawings-relationship between image properties and emotion elicited, SMC 2010, October 2010. 4. First steps toward determining the role of visual information in music communication, UbiCC Journal, vol. 5, pp. 32-41, 2010.	マルチメディア応用論 ソフトウェア工学・演習 I・II 計算機アーキテクチャ I・II 産業技術セミナー
産業情報学科 西岡 知之	(代表的な研究活動) コンピュータによるコミュニケーション支援、情報科学、拡張現実感技術を用いた聴覚障害者への情報保障 (主要論文) 1. Tactics Choice Behaviors Represented in a Programming Language in the Map Tracing Problems, HCII2011, pp. 410-419, 2011. 2. 聴覚障害学生に対するエリアワンセグを用いた情報保障に関する一検討, 信学技報, WIT 110(164), pp. 69-72, 2010. 3. 遠隔講義保障におけるリアルタイム字幕作成者を支援するための映像情報提示手	コンピュータシステム概論 情報数理 I・II ヒューマンインタフェース論 画像工学・演習 ネットワーク論 応用情報工学演習

	法に関する基礎的研究, 信学会論文誌 DVol. J91-D No. 9, pp. 2236-2246, 2010.	情報保障システム工学特論 ソフトウェアシステム構成論
産業情報学科 丹野 格	(代表的な研究活動) 流体工学, 計算機流体力学 (主要論文) 1. Calculation by artificial compressibility method and virtual flex method on GPU, Computers & Fluids, Vol. 45(1), pp. 162-167, 2011. 2. Liquid-receiving characteristics of a distributed solar module with a plant shoot configuration, Renewable Energy, pp. 1210-1226. 2009. 3. Fuel reduction effect of the solar cell and diesel engine hybrid system with a prediction algorithm of solar power generation, International Journal of Hydrogen Energy, Vol. 33(9), pp. 2300-2310, 2008.	図学演習 (三角法) 流れ学 機械工学概論B 機械工学実験
産業情報学科 明松 圭昭	(代表的な研究活動) 非破壊検査, 計測工学, ヘルスモニタリング技術の開発 (主要論文) 1. 光ファイバセンサを用いた放電加工反力の計測, 電気加工技術 Vol. 35, No. 110, pp. 16-19, 2011. 2. Measurement of plate thickness by using optical fiber sensor, The Japanese Society for NDI, Progress in Acoustic Emission XIV, pp. 1-6, 2008. 3. Measurement of acoustic emission wave by using optical fiber sensor during microsecond discharge, Trans Tech Publications, Switzerland, Key Engineering Materials, pp. 399-402, 2008.	材料力学 機械工学概論A 機械工学実験 機械工学演習A 弾・塑性力学 材料強度学 音響・振動学 システム工学特別演習
総合デザイン学科 本間 巖	(代表的な研究活動) プロダクトデザイン, プロダクトデザインにおける発想支援ツールとしての3Dの活用法 (主要論文) 1. Problems on understanding of surface-system 3D in students with hearing impairments -Differences in intelligibility between surface-system and solid-system 3D-, Asia Digital Art and Design Association; Proceedings of 9 th International Conference, pp. 151-154, 2011. 2. Teaching of design production for students with hearing impairments - A trail to promote the understanding of the abstract concept in design production-, Asia Digital Art and Design Association; Proceedings of 8 th International Conference, pp. 130-133, 2011.	芸術と技術 レンダリング演習 人間工学 3D レンダリング演習 生産デザイン論・演習2 ユニバーサルデザイン特論 デジタルモデリング特論 デザインエルゴノミクス特論
総合デザイン学科 永盛 祐介	(代表的な研究活動) 感性科学 (主要論文) 1. ProBoPortable: Development and evaluation of cellular phone software to prompt learners to monitor and reorganize division of labor in project-based learning, B. Daniel (Ed.) Handbook Research on Methods and Techniques for Studying Virtual Communities: Paradigms and Phenomena, IGI Global, 2001. 2. ブロックによる椅子模型制作時の脳活動の分析, 日本感性工学会論文集, 第9巻1号, pp. 51-60. 2009.	デザイン概論 デザイン基礎演習 情報基礎・演習 マルチメディアデザイン演習 マルチメディアクリエイション演習

	3. Neural networks involved in artistic creativity, Human Brain Mapping, published online:1, pp.1678-1690. 2009.	
--	--	--

(聴覚障害系支援課作成)

資料3-3-①-B 学科・専攻, 医療センターにおける教育内容と関連する代表的な研究一覧 (保健科学部)

所属・教員名	研究活動及び主な研究業績等	授業科目名
鍼灸学専攻 森 英俊	(代表的な研究活動) 鍼灸・手技の自律神経機能に関する研究 (主要論文等) 1. Is there a difference between the effects of one-point and three-point indirect moxibustion stimulation on skin temperature changes of the posterior trunk surface? Acupuncture in Medicine , 30 (1) , 27-31, 2012 2. Is there a difference between the effects of single and triple indirect moxibustion stimulation on skin temperature changes of the posterior trunk surface? Acupuncture in Medicine , 29 (2) , 116-121, 2011 3. Is there any difference in human pupillary reaction, when different acupuncture points are stimulated? Acupuncture in Medicine, 28 (2) , 21-24, 2010	はりきゅう理論 臨床生理学実習 鍼灸基礎実習1 鍼灸基礎実習2 保健科学特別研究
鍼灸学専攻 殿山 希	(代表的な研究活動) 鍼灸手技療法の臨床医学的研究 (主要論文等) 1. Donoyama N, Kojima A, Suoh S, Ohkoshi N. Cosmetic acupuncture to enhance facial skin appearance: a preliminary study. Acupuncture in Medicine. Letter 30(2):152-153, 2012 2. Donoyama N, Ohkoshi N. Effects of Traditional Japanese Massage Therapy on Various Symptoms in Patients with Parkinson's Disease: A Case-series Study. Journal of Alternative and Complementary Medicine 18(3):294-299, 2012 3. Donoyama N, Hotoge S, Ohkoshi N. Acupuncture might have contributed to improving amenorrhea in a top athlete. Acupunct Med 29:304-306, 2011 4. Donoyama N, Ohkoshi N, Satoh T. Preliminary Study on the Physical and Psychological Effects of Traditional Japanese Massage Therapy in Cancer Survivors. J Jpn Assoc Phys Med Baln Clim 74(3):155-167, 2011 5. Donoyama N, Ohkoshi N. Effects of traditional Japanese massage therapy on gene expression (preliminary study). J Altern Complement Med 17(6), 1-3, 2011	マッサージ基礎実習 あん摩応用実習Ⅱ 鍼灸応用実習Ⅱ 東洋医学臨床論Ⅰ 東洋医学臨床演習Ⅰ
理学療法学専攻 松下 昌之助	(代表的な研究活動) 放射光微小血管造影法の開発に関する研究、心電周波数解析を用いた心機能、心臓自律神経に関する研究 (主要論文等) 1. Inhibition of Protein Kinase C β Ameliorates Impaired Angiogenesis in Type I Diabetic Mice Complicating Myocardial Infarction. Circ J 76: 943-949, 2012 2. Surgical repair for rupture of a chronic traumatic thoracic aneurysm 14 years after injury: report of a case. Surg Today 42:191-194, 2012 3. Surgical removal of infected pacemaker leads without cardiopulmonary bypass after failed extraction using the Excimer Laser Sheath Extraction System. J Artif Organs 15(1):94-8. 2012	医学概論 内部障害理学療法学 内科学演習

	4. Examination of a new angiographic system that utilizes a highly sensitive receiver and synchrotron radiation for reducing the dose of contrast medium Am J Roentgenol 197:W1-W6, 2011	
理学療法専攻 井口 正樹	(代表的な研究活動) 運動制御に関する研究 (主要論文等) 1. Dynamic-position-sense impairment's independence of perceived knee function in women with ACL reconstruction. J Sport Rehabil. 21(1):44-53. 2012 2. Cortical and segmental excitability during fatiguing contractions of the soleus muscle in humans. Clin Neurophysiol. 123(2):335-43. 2012 3. Prior heat stress effects fatigue recovery of the elbow flexor muscles. Muscle Nerve. 44(1):115-25. 2011 4. Quadriceps low-frequency fatigue and muscle pain are contraction-type-dependent. Muscle Nerve. 42(2):230-8. 2010 5. Repetitive eccentric muscle contractions increase torque unsteadiness in the human triceps brachii. J Electromyogr Kinesiol. 20(4):619-26. 2010	神経筋疾患理学療法 学 神経筋疾患理学療法 学実習 整形外科疾患理学療 法学 整形外科疾患理学療 法学実習 総合理学療法演習1 異文化コミュニケーションD 応用運動学特論
情報システム学科 巽 久行	(代表的な研究活動) 視覚障害補償技術, 多値論理, 感性情報学, ソフトコンピューティング (主要論文等) 1. Semirigid Systems of Equivalence Relations, IEEE Proc. 42th Int. Symp. on Multiple-Valued Logic, 293-298, 2012. 2. Kanji Writing Practice for the Visually Impaired Using Haptic Interface, Proc. 8th Int. Conf. on Perspectives of Informatics Systems, Informatics Education Section, 7-14, 2011 3. Eye Tracking Application for Low Vision, -A Proposal of Vision Navigator-, IEEE Proc. 2010 Int. Conf. on Systems, Man and Cybernetics, 1578-1583, 2010. 4. Kanji Writing Training with Haptic Interface for the Visually Impaired, Proc. of the World Automation Congress 2010, No. IFMIP-534, 2010	アルゴリズム論 プログラム言語
情報システム学科 坂尻 正次	(代表的な研究活動) 盲ろう者コミュニケーション支援技術, 視覚障害支援技術の研究開発 (主要論文等) 1. Voice pitch control using a two-dimensional tactile display; NTUT Education of Disabilities, Vol.10, 4-8, 2012 2. Perceptions of sounding or silent objects' existence by visually impaired people in their daily life, NTUT Education of Disabilities, Vol.10, 9-15, 2012 3. Voice Pitch Control Ability of Hearing Persons With or Without Tactile Feedback Using a Two-Dimensional Tactile Display System; 2011 IEEE International Conference on Systems, Man, and Cybernetics, 1069-1073, 2011 4. Utilization of auditory perceptions of sounds and silent objects for orientation and mobility by visually-impaired people; 2011 IEEE International Conference on Systems, Man, and Cybernetics, 1080-1087, 2011	障害補償技術論 I 障害補償技術論 II 情報アクセシビリティ II 情報アクセシビリティ演習 II
東西医学統合医療 センター 平山 暁	(代表的な研究活動) 腎臓病学・透析医学に関する研究, 内科学に関する研究, 東洋医学に関する研究, 酸化ストレスに関する研究 (主要論文等)	内科学 I 内科学 II

	1. The ROS scavenging and renal protective effects of pH-responsive nitroxide radical-containing nanoparticles. <i>Biomaterials</i> . 32(31):8021-8028. 2011 2. Gastric acid induces mitochondrial superoxide production and lipid peroxidation in gastric epithelial cells. <i>J Gastroenterol</i> . 46(10):1167-76, 2011 3. Redox regulation in radiation-induced cytochrome c release from mitochondria of human lung carcinoma A549 cells. <i>Cancer Lett</i> . 8:277(1):64-71. 2009	
--	--	--

(視覚障害系支援課作成)

【分析結果とその根拠理由】

観点に係る状況のとおり、教育の目的を達成するための基礎として、教育内容等と関連する研究活動が行われていると判断する。

観点3-4-①： 大学において編成された教育課程を遂行するために必要な事務職員、技術職員等の教育支援者が適切に配置されているか。また、TA等の教育補助者の活用が図られているか。

【観点に係る状況】

産業技術学部及び保健科学部の教育研究の支援を行うため、聴覚障害系支援課及び視覚障害系支援課に事務職員及び技術職員を配置している（資料3-4-①-A）。

それぞれの支援課に教育研究支援室を設置し、技術職員が障害の特性に配慮しながら実験や演習科目の技術的指導等を行っている（資料3-4-①-B）。

また、聴覚障害学生に対するコミュニケーション技術に未習熟の新任教員及び非常勤講師が担当する授業については、字幕提示等の情報保障を技術職員が支援している。視覚障害学生に対しては、技術職員がすべての科目について、障害の程度に応じて点字や拡大文字等による教材の提供、資料の作成等の情報保障を支援している。

なお、附属図書館における図書系職員の配置状況は、資料3-4-①-Cのとおりである。

資料3-4-①-A 事務職員及び技術職員の配置状況（平成23年5月1日現在）

（単位：人）

組織名	支援対象部局	事務職員	技術職員
聴覚障害系支援課	産業技術学部	13	6
視覚障害系支援課	保健科学部	14	5

（総務課作成）

資料3-4-①-B 産業技術学部における技術職員の技術指導・情報保障等の担当科目一覧（平成23年度）

学科	年次	授業科目名
業情報学科	1年次	企業と社会, 教養A・B (放送大学授業科目), 哲学, 歴史学, 経済学, 社会学, 情報基礎, 情報基礎演習, 解析学, CAD基礎演習, 図学演習, プログラミング基礎演習
	2年次	英語II, フランス語, ドイツ語, ソフトウェア工学・演習I・II, 電子工学通論, 機械設計製図演習, 機械加工法実習, 建築製図演習, 音・光環境工学演習, 環境・安全CAD演習I, 環境・安全CAD演習II, 環境工学実験, 構造工学実験, 電気回路学演習, 電子回路学I, 電子回路学演習I, 電子工学実験I・II
	3年次	管理システム論, 情報マネジメント論, マイクロコンピュータ工学実験, 流れ学, 機械工学演習B, 情報科学特別講義, 電子工学実験II, マイクロコンピュータ工学実験, 電子CAD/CAE演習, 機械工学概論B, システム工学特別講義, CAD/CAM/CAE概説, CAD/CAM演習, エコ環境システム
	4年次	機械CAD/CAE演習, 音響・振動学, 環境・安全CAD/CAE演習, 建築振動学
総合デザイン学科	1年次	企業と社会, 教養A・B (放送大学授業科目), 哲学, 歴史学, 経済学, 社会学, 情報基礎, 情報基礎演習, 解析学, CAD基礎演習, 図学演習
	2年次	英語II, フランス語, ドイツ語, 建築製図演習, 住居設計演習, プログラミング基礎演習, 立体造形論・演習
	3年次	地域施設設計演習, 文化施設設計演習, 生産デザイン論・演習1, 総合デザイン学特別講義
	4年次	総合施設設計演習

(聴覚障害系支援課作成)

資料3-4-①-C 図書系職員配置状況（平成23年5月1日現在）（単位：人）

図書館名	専任職員数		備考
		うち司書有資格者	
聴覚障害系図書館	2	1	
視覚障害系図書館	2	1	

(総務課作成)

【分析結果とその根拠理由】

観点に係る状況のとおり、大学において編成された教育課程を遂行するために必要な事務職員、技術職員の教育支援者が適切に配置されており、教育補助者の活用が図られていると判断する。

(2) 優れた点及び改善を要する点

【優れた点】

- 障害者のための授業支援システムや専門分野に関わる指導法の研究が行われ、実践されている。

【改善を要する点】

- 教員の採用に当たり、外国人教員の割合が少ない状況であるため、今後、外国人教員の採用を進めることが望まれる。

(3) 基準3の自己評価の概要

「国立大学法人筑波技術大学組織及び管理運営に関する規則」に基づき、学部、研究科等の教員組織編制の基本方針を定めている。また、教育研究に係る責任の所在を明確にするため、学部には学部長、学部長補佐及び学科長、並びに大学院には研究科長及び専攻長等をそれぞれ置いている。

学士課程及び大学院修士課程における専任教員の配置状況は、大学設置基準及び大学院設置基準を満たしている。また、教育上必要な主要授業科目は、専任の教授又は准教授が担当している。

教員採用については、「国立大学法人筑波技術大学教育職員の人事に関する基本方針」に基づき、公募によることを原則としている。また、「国立大学法人筑波技術大学における人権の尊重についての基本姿勢」に基づき、男女共同参画社会の形成の促進や障害者の雇用を推進するなど、教員の活動をより活性化するための適切な措置を講じている。

教員の選考基準及び資格並びに選考手続については、「国立大学法人筑波技術大学教員選考基準規程」及び「国立大学法人筑波技術大学教育職員の選考に関する細則」に基づき、教授、准教授、専任の講師、助教及び助手の選考及び選考手続に関する取り扱いを定めている。

平成20年度に、教員の個人評価指針等を定め、これに基づき、教員が教育などの4つの領域に係る自己評価を行い、それを部局長が評価する方法で教員評価を実施し、その結果を昇給等に反映している。

各学科・専攻の教員が担当する授業科目は、当該教員の研究活動と密接に関係している。情報科学、システム工学、デザイン学、鍼灸学、理学療法学、情報システム学の各専門分野に関わる多数の研究成果や聴覚・視覚障害者のための授業システムや指導法の研究が行われており、これらを基礎にする充実した専門教育が実施されている。

産業技術学部及び保健科学部の教育研究の支援を行うため、聴覚障害系支援課及び視覚障害系支援課に、事務職員及び技術職員を配置している。それぞれの支援課に教育研究支援室を設置し、技術職員が障害の特性に配慮しながら実験や演習科目の技術的指導等を行っている。

基準4 学生の受入

(1) 観点ごとの分析

観点4-1-①: 教育の目的に沿って、求める学生像及び入学者選抜の基本方針などの入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）が明確に定められ、公表、周知されているか。

【観点到る状況】

本学は、聴覚・視覚障害者を対象とする我が国唯一の高等教育機関であるということにかんがみ、両障害者の潜在的な能力を引き出すため、多様な入学者選抜を実施している。入学者選抜の基本方針は、「国立大学法人筑波技術大学学部入学者選抜等に関する規程」及び「国立大学法人筑波技術大学大学院入学者選抜等に関する規程」に定めている（資料4-1-①-A, B）。

入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）は、本学の基本理念に基づき、学部及び大学院ごとに明確に定めている（資料4-1-①-C～E）。

学部については、各学科・専攻の入学者受入方針及び入学者選抜の方針を入学者選抜要項、学生募集要項で明示し、ウェブサイトで公表し、広く周知している（資料4-1-①-F, 別添資料4-1-①-1, 2）。大学院については、各専攻の入学者受入方針及び入学者選抜の方針を学生募集要項で明示し、ウェブサイトで公表し、広く周知している（資料4-1-①-F, 別添資料4-1-①-3）。

学部案内、入学者選抜要項及び学生募集要項は、本学の全教員及び全国の特別支援学校（聾学校、盲学校）、一般高校へ配布している。また、オープンキャンパス及び全国各地で大学説明会を開催し、受験生の理解が深められるようにしている（資料4-1-①-G～I）。

資料4-1-①-A 学部入学者選抜の基本方針

（趣旨）

第1条 この規程は、国立大学法人筑波技術大学学則（平成22年学則第1号。以下「学則」という。）第13条第2項及び第14条の規定に基づき、学部の入学者選抜に関し、必要な事項を定めるものとする。

（入学者選抜の種類）

第2条 学則第14条に規定する学部の入学者選抜の種類は、次の各号に掲げるとおりとする。

- (1) 個別学力検査（前期日程）
- (2) 推薦入試
- (3) アドミッション・オフィス入試
- (4) 社会人入試
- (5) 第3年次編入学
- (6) その他必要に応じて行う特別入試

2 入学者選抜は、入学者受入方針、募集人員、出願手続、検定料、試験方法、試験期日、試験場、その他必要な事項を記載した年度ごとに定める入学試験実施要項及び募集要項に基づいて、これを行うものとする。

（出典：国立大学法人筑波技術大学学部入学者選抜等に関する規程）

資料4-1-①-B 大学院入学者選抜の基本方針

（趣旨）

第1条 この規程は、国立大学法人筑波技術大学学則（平成22年学則第1号。以下「学則」という。）第49条第2項及び第50条の規定に基づき、大学院の入学者選抜に関し、必要な事項を定めるものとする。

(入学者選抜の種類)

第2条 学則第50条に規定する大学院の入学者選抜の種類は、次の各号に掲げるとおりとする。

- (1) 一般入試
- (2) 社会人入試
- (3) その他必要に応じて行う特別入試

2 入学者選抜は、入学者受入方針、募集人員、出願手続、検定料、試験方法、試験期日、試験場、その他必要な事項を記載した年度ごとに定める入学試験実施要項及び募集要項に基づいて、これを行うものとする。

(出典：国立大学法人筑波技術大学大学院入学者選抜等に関する規程)

資料4-1-①-C 産業技術学部の各学科の教育目標と求める学生像（抜粋）

[産業情報学科]

システム工学と情報科学の専門的能力の育成を図ると同時に、社会が求めている技術の高度化と複合化に対応できる専門教育により「ものづくり」と「情報処理」を通じて快適な社会と生活環境の整備に参画・貢献できる人材の育成を目標としています。

上記の目標が達成できる次のような人を求めています。

- 大学での学習に必要な数学・物理の基礎学力を有している人、入学後これらの科目の学習に積極的に取り組む意欲を有している人
- 工学的な事柄に興味を持ち、新しい分野に挑戦する意欲をもっている人
- 技術者になりたいという明確な目的意識をもっている人
- 障害を理解・克服し、社会に参画・貢献しようとする強い意志をもっている人

[総合デザイン学科]

生活環境を総合的に考え、環境・もの・情報を中心としたデザインに関する基礎的知識と専門技術を身につけ、ユニバーサルデザインやエコロジーデザインなどへも視野を広げ、豊かな感性と創造的表現力をもったデザイン関連の専門職業人として社会に参画・貢献できる人材の育成を目標としています。

上記の目標が達成できる次のような人を求めます。

- 大学での学習に必要な基礎学力を有しているとともに、学習意欲が旺盛で、新しい分野に挑戦する意欲をもっている人
- デザインに関して基礎的な表現力や発想力、感性、創造性を備えた人
- デザイナーになりたいという明確な目的意識をもっている人
- 障害を理解・克服し、社会に参画・貢献しようとする強い意志をもっている人

(出典：平成24年度入学者選抜要項（産業技術学部）)

資料4-1-①-D 保健科学部の各学科・専攻の教育目標と求める学生像（抜粋）

[保健学科鍼灸学専攻]

現代医学の新しい知識と伝統ある鍼灸・手技療法の基本理論や臨床技術を学び、東洋医学と西洋医学の両方を理解し、幅広い知識と専門性を兼ね備え、高い臨床の技術と思いやりのある心で治療に当たることのできる専門職業人としてのはり師、きゅう師及びあん摩・マッサージ・指圧師の養成を目標としています。

鍼灸学専攻は、視覚の障害を受容し、それを克服できるような特色あるカリキュラムを用意し、学習を支援する様々な障害補償機器を備えています。

新しいことに果敢にチャレンジする精神を育て、世界に飛躍して活躍できるような鍼灸師及びあん摩・マッサージ・指圧師を育てます。

上記の目標を達成できる次のような人を求めています。

- 医療や健康について学ぼうとする意欲がある人
- 人の痛みが理解できる思いやりがある優しい人
- はり師、きゅう師及びあん摩・マッサージ・指圧師として社会に役立とうとする意欲のある人
- 障害を克服しようとする意志の強い人
- 国際感覚豊かでチャレンジ精神を備えた人

[保健学科理学療法学専攻]

急速な高齢化、疾病や障害の多様化、高度化・専門化する医療のなかで保健・医療・福祉が一体となったシステムやサービスが求められています。このような社会の変化に対応して、理学療法士は医療に限らず保健、福祉、スポーツ等様々な分野にその活動の場を広げ、またその活動形態を多様化させています。

理学療法学専攻は、少人数教育の特色を生かし、こんにちの社会環境に対応できる視野と高度な専門性を備えると同時に、幅広い知識・教養、豊かな人間性を持った理学療法士の養成を目標としています。

上記の目標を達成できる次のような人を求めています。

- 仕事を通じて社会に貢献したい人
- 人の心身や病気に興味を持つ人
- 他人の立場に立って思いやることができ、人の痛みが理解できる人
- 障害を克服しようとする意志の強い人

[情報システム学科]

情報技術の基礎知識と実用的応用技術について専門教育を行い、今後の情報化社会の進展に対応できる能力と、社会的協調性を身につけた人材の養成を目標とします。

本学科は、視覚の障害を克服できるよう、障害補償機器・システムの改善を常に行い、教育の内容や方法に様々な工夫をこらして学習を支援します。

情報処理の専門技術者、企業等の実務担当者として幅広い領域での活躍が期待できる人を育成します。

上記の目標を達成できる次のような人を求めています。

- 情報技術を学ぼうとする意欲がある人
- 情報技術を生かして、社会のいろいろな分野で活躍したいとの強い意志がある人
- 新しいことに積極的に挑戦しようとする情熱が感じられる人

(出典：平成 24 年度入学選抜要項 (保健科学部))

資料 4-1-①-E 技術科学研究科の各専攻の教育目標と求める学生像 (抜粋)

[産業技術学専攻]

障害者のための個別技術の開発に止まらず、包括的かつグローバルな視野で人類の発展に寄与でき、急激な産業構造の変化や技術の高度化にも対応できる高度な専門技術者・指導者の育成を目標としています。

そのため、上記目標を達成できる次のような資質・素養を持った人材を求めています。

- 産業技術学を学ぶために必要な基礎学力及び専門知識を有し、向上心及び知的好奇心の高い人
- 未知の課題や困難な問題に対し積極的に取り組み、問題を自ら解決していく能力を高めようとする人
- 高度な専門技術者・指導者として、社会に積極的に参画し、共生社会の実現及びその持続的発展に貢献しようとする意欲のある人

[保健科学専攻]

視覚障害者の社会的自立・参画・貢献はもとより、鍼灸学、理学療法学、情報システム学の各専門領域に関する系統的な専門知識と技術を持ち、社会において中核的な役割を担う高度専門職業人を養成することを教育目標としています。そのため、上記の目標を達成できる次のような資質・素養を持った人材を求めています。

- 鍼灸学、理学療法学、情報システム学を学ぶために必要な基礎学力及び専門知識を有し、向上心及び知的好奇心の高い人
- 未知の課題や困難な問題に対し積極的に取り組み、問題を自ら解決していく能力を高めようとする人
- 高度な専門技術者・指導者として、社会に積極的に参画し、共生社会の実現及びその持続的発展に貢献しようとする意欲のある人

(出典：平成 24 年度学生募集要項 (技術科学研究科))

資料 4-1-①-F アドミッション・ポリシー (産業技術学部, 保健科学部, 技術科学研究科)

http://www.tsukuba-tech.ac.jp/introduction/openinfo/educational_info/admission_policy.html

資料 4-1-①-G 平成 23 年度『筑波技術大学説明会』案内（産業技術学部・保健科学部）

**平成23年度『筑波技術大学説明会』
—産業技術学部—**

1. ご案内
筑波技術大学は、聴覚に障害のある人および聴覚に障害のある人を対象とした国立大学法人の大学です。3年制の筑波技術短期大学として16年間培った教育方法や職業技術に関する教育研究を基に、社会の様々なニーズに対応するべく新たに4年制大学として開学し、今年で6年目となります。この説明会では、聴覚に障害のある生徒、保護者及び関係教職員等を対象に、筑波技術大学産業技術学部の教育方針、教育内容、学生生活を紹介し、広く理解してもらい、それぞれの進路の選択に役立てていただくことを目的としています。

2. 実施会場

会 場	日 時
関東地区説明会 日本薬学会長記念館 【渋谷区渋谷2-12-15】	平成23年 6月 5日（日） 10:30～12:00（体験授業） 13:00～15:00（説明会）
授業見学会 筑波技術大学天久保キャンパス 【つくば市天久保4-3-15】	平成23年 6月17日（金） 13:00～15:30
関西地区説明会 新梅田研修センター 【大阪市福島区福島6-22-20】	平成23年 7月 3日（日） 10:30～12:00（体験授業） 13:00～15:00（説明会）
オープンキャンパス 筑波技術大学天久保キャンパス 【つくば市天久保4-3-15】	平成23年 8月 6日（土） 10:00～16:00
授業見学会 筑波技術大学天久保キャンパス 【つくば市天久保4-3-15】	平成23年11月11日（金） 13:00～15:30

3. 申し込み方法
参加希望の方は、本案内巻末の申込書に必要事項を記入の上、郵送、FAX又はE-mailにより申し込みください。（E-mailの場合は、申し込み内容に準じて送信してください）
なお、本字について、質問事項等があれば別紙「質問票」に記入し、申込書とともに送付してください。

(1) 申し込み期限
関東地区説明会（6月5日開催） 平成23年 5月31日（火）
授業見学会（6月17日開催） 平成23年 6月 7日（火）
関西地区説明会（7月3日開催） 平成23年 6月23日（木）
オープンキャンパス（8月6日開催） 平成23年 7月27日（水）
授業見学会（11月11日開催） 平成23年 11月 1日（火）

(2) 申し込み・問い合わせ先
〒305-8520 茨城県つくば市天久保4-3-15 筑波技術大学聴覚障害系支援課教育支援・大学院係
TEL 029-858-9334
FAX 029-858-9335
E-mail opencompus@td.tsubota-tech.ac.jp
ホームページ http://www.tsubota-tech.ac.jp

(3) 保健科学部（聴覚障害系）の説明会について
問い合わせ先は、下記のとおりです。
〒305-8521 茨城県つくば市春日4-12-7 筑波技術大学聴覚障害系支援課教務係
TEL 029-858-9507～9509 FAX 029-858-9517

**平成23年度
『筑波技術大学保健科学部』
【進学ガイダンス・大学説明会・オープンキャンパス】**

1. ご案内
筑波技術大学保健科学部は、視覚に障害のある人のための我が国で唯一の4年制大学です。
「進学ガイダンス及び大学説明会」では、視覚に障害のある学生・生徒・社会人の方々、保護者及び関係教職員等を対象に、本学保健科学部の設置目的、入学試験方法、教育内容、学生生活を紹介します。広く理解してもらうことにより、それぞれの進路の選択に役立てていただくことを目的としております。
また、7月、8月の「夏のオープンキャンパス」では、上記内容に加え、本学の施設を公開するとともに、「体験授業」の開催及び本学在学学生との質疑応答等も実施いたします。10月には、各学科・専攻別にそれぞれ進学・教育相談、授業・施設見学等を中心に行う「秋のオープンキャンパス」も実施いたします。

なお、本学保健科学部では、随時受験相談・授業見学を受け付けておりますので、受験相談や授業見学等を希望される方は、別途お問い合わせください。

2. 実施会場及び開催日

春のオープンキャンパス会場	開催日
筑波技術大学保健科学部（春日キャンパス） 【〒305-8521 つくば市春日4-12-7】 電話 029-858-9508～9509 FAX 029-858-9517	平成23年5月9日（月） 10:00～16:00

大学説明会会場	開催日
九州会場：アクロス福岡 【〒810-0001 福岡市中央区天神1-1-1】 電話 092-725-9113	平成23年7月16日（土） 13:30～17:00
北海道会場：アスティ45ビル 【〒060-0004 札幌市中央区北4条西5丁目】 電話 011-205-5630	平成23年7月18日（月）祝日 10:30～13:30
東海会場：河合塾16号館名古屋校 【〒453-0013 名古屋市中村区竜崎2-6-4】 電話 0120-519-022	平成23年7月23日（土） 14:00～17:00

関西会場：大阪ガーデンパレス 【〒553-0003 大阪市淀川区西宮原1-3-35】 電話 06-6396-6211	平成23年7月24日（日） 10:30～13:30
夏のオープンキャンパス会場	開催日
筑波技術大学保健科学部（春日キャンパス） 【〒305-8521 つくば市春日4-12-7】 電話 029-858-9508～9509 FAX 029-858-9517	平成23年7月30日（土） 平成23年8月21日（日） 10:00～17:00 ※体験授業開講
秋のオープンキャンパス会場	開催日
筑波技術大学保健科学部（春日キャンパス） 【〒305-8521 つくば市春日4-12-7】 電話 029-858-9508～9509 FAX 029-858-9517	平成23年10月28日（金） 9:00～16:00
プレ・オープンキャンパス会場	開催日
筑波技術大学保健科学部（春日キャンパス） 【〒305-8521 つくば市春日4-12-7】 電話 029-858-9508～9509 FAX 029-858-9517	平成24年3月23日（金） 10:00～16:00

資料 4-1-①-H 産業技術学部説明会実施状況

(単位：人)

会場名	平成 19 年度	平成 20 年度	平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度
東京会場	15(2)	36(3)	37(12)	28(7)	13(3)
愛知会場	4(0)	—	—	—	—
大阪会場	21(3)	38(4)	49(8)	70(13)	45(7)
九州会場	—	—	—	—	—
オープンキャンパス	111(26)	189(22)	247(46)	229(44)	257(44)
授業見学会 (2回)	—	—	59(15)	44(11)	33(8)
計	151(31)	263(29)	392(81)	371(75)	348

※ 数字は参加者数を、()内は受験対象者3年生の数を示す。

(聴覚障害系支援課作成)

資料 4-1-①-I 保健科学部説明会・進学ガイダンス実施状況

(単位：人)

会場名	平成 19 年度	平成 20 年度	平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度
北海道会場	8(4)	6(2)	5(4)	7(4)	1(0)
仙台会場	2(1)	0(0)	1(0)	—	—
新宿会場	6(5)	2(1)	8(3)	0(0)	2(1)
静岡会場	—	—	—	—	—
福井会場	—	—	—	4(2)	—
名古屋会場	4(4)	0(0)	—	6(1)	—
東海会場	—	—	9(2)	—	2(0)
関西会場	10(1)	20(6)	7(1)	5(0)	3(2)
岡山会場	4(2)	2(1)	3(0)	11(3)	3(2)
九州会場	11(5)	3(1)	43(9)	16(6)	6(1)
宮崎会場	0(0)	3(1)	1(1)	3(0)	—
オープンキャンパス (4回)	138(41)	109(34)	127(31)	126(28)	63(32)
計	183(63)	154(51)	204(51)	178(44)	80(38)

※ 数字は参加者数を、()内は受験対象者3年生の数を示す。

(視覚障害系支援課作成)

- ・別添資料 4-1-①-1 平成 24 年度入学者選抜要項 (産業技術学部, 保健科学部)
- ・別添資料 4-1-①-2 平成 24 年度学生募集要項 (産業技術学部, 保健科学部)
- ・別添資料 4-1-①-3 平成 24 年度学生募集要項 (技術科学研究科)

【分析結果とその根拠理由】

観点に係る状況のとおり、入学者受入方針 (アドミッション・ポリシー) が明確に定められ、公表、周知されていると判断する。

観点 4-2-①： 入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）に沿って適切な学生の受入方法が採用されており、実質的に機能しているか。

【観点に係る状況】

学部の入学者選抜方法は、入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）に沿って選抜方法を定めており、多様な人材を受け入れるため、個別学力検査（前期日程）並びに推薦入試、AO入試及び社会人入試を実施している（資料 4-2-①-A, B）。

大学院の入学者選抜方法は、入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）に沿って選抜方法を定めており、多様な人材を受け入れるため、一般入試及び社会人入試を実施している（資料 4-2-①-C, D）。

これらの入試では、アドミッション・ポリシーに合致した学生を受け入れるために、すべての入試で面接を実施している。

資料 4-2-①-A 学士課程選抜方法一覧

学部	学 科	個別学力検査等					推薦入試					AO入試		社会人入試			
		学力検査	適性検査	実技検査	面接	小論文	小論文	適性検査	実技検査	面接	適性検査	面接	小論文	適性検査	実技検査	面接	
産業技術学部	産業情報学科	○	×	×	○	×	○	○	×	○	-	-	○	○	×	○	
	総合デザイン学科	×	×	○	○	×	○	×	○	○	-	-	○	×	○	○	
保健科学部	保健学科鍼灸学専攻	×	×	×	○	○	○	×	×	○	×	○	○	×	×	○	
	保健学科理学療法学専攻	×	○	×	○	○	○	○	×	○	○	○	○	○	×	○	
	情報システム学科	×	×	×	○	○	○	×	×	○	×	○	○	×	×	○	

(聴覚障害系支援課, 視覚障害系支援課作成)

資料 4-2-①-B 学士課程入学者選抜状況（平成 24 年度）

(単位：人)

学部	学科・専攻	選抜区分	入学定員	志願者数	合格者数	入学者数
産業技術学部	産業情報学科	推薦入試	35	39	17	17
		社会人入試		0	0	0
		個別学力検査等		30	19	18
	総合デザイン学科	推薦入試	15	10	7	7
		社会人入試		0	0	0
		個別学力検査等		16	8	8
保健科学部	保健学科鍼灸学専攻	推薦入試	20	8	8	8
		社会人入試		0	0	0
		個別学力検査等		4	3	3
		A0入試		1	1	1
		3年次編入		0	0	0
	保健学科理学療法学専攻	推薦入試	10	5	4	4

		社会人入試	10	2	1	1
		個別学力検査等		3	2	2
		A0 入試		4	3	3
	情報システム学科	推薦入試		7	5	5
		社会人入試		2	1	1
		個別学力検査等		4	2	2
		A0 入試		9	3	3

(聴覚障害系支援課, 視覚障害系支援課作成)

資料 4-2-①-C 大学院課程選抜方法一覧

研究科	専攻	一般入試			社会人入試		
		書類審査	口頭試問	面接	書類審査	口頭試問	面接
技術科学研究科	産業技術学専攻	○	○	○	○	○	○
	保健科学専攻	○	○	×	○	○	×

(聴覚障害系支援課, 視覚障害系支援課作成)

資料 4-2-①-D 大学院課程入学者選抜状況 (平成 24 年度)

(単位: 人)

研究科	専攻	選抜区分	入学定員	志願者数	合格者数	入学者数
技術科学研究科	産業技術学専攻	一般入試	4	4	2	2
		社会人入試		0	0	0
	保健科学専攻	一般入試	3	3	0	0
		社会人入試		5	3	3

(聴覚障害系支援課, 視覚障害系支援課作成)

【分析結果とその根拠理由】

観点に係る状況のとおり, 入学者選抜の基本方針に基づく入学者受入方針 (アドミッション・ポリシー) に沿って適切な学生の受入方法が採用されており, 実質的に機能していると判断する。

観点 4-2-②: 入学者受入方針 (アドミッション・ポリシー) において, 留学生, 社会人, 編入学生の受入等に関する基本方針を示している場合には, これに応じた適切な対応が講じられているか。

【観点に係る状況】

該当なし

【分析結果とその根拠理由】

該当なし

観点 4-2-③： 実際の入学者選抜が適切な実施体制により、公正に実施されているか。

【観点到係る状況】

学部における入学者選抜は、「国立大学法人筑波技術大学入学試験委員会規程」に基づき、学長を委員長とする入学試験委員会が全体を総括している（資料 4-2-③-A）。

入学者選抜の実施体制は、入学試験委員会の下に、学部ごとに入学試験実施委員会が置かれ、当該学部の入学者選抜に関する必要な事項を審議するとともに、当該学部の入学者選抜に係る検査項目に応じた各小委員会を総括、調整して入学者選抜を実施し、その結果を全学の入学試験委員会に諮っている（資料 4-2-③-B）。

試験問題は、問題作成に係る各小委員会の複数の委員が作成し、チェックを行った後、入試問題チェック小委員会の委員が再チェックを行い、作題ミスが起きない体制を整備している。

試験当日は、学長を責任者とする入試本部の下において、各学部に学部長を責任者とする入学試験実施本部を設置し、試験実施中は、各小委員会の問題作成委員を入学試験実施本部に常駐させ、試験問題の最終点検及び受験生からの質問等に対応している。

合格候補者の決定は、当該学部の合格候補者選考委員会の判定資料に基づき、入学試験委員会及び各学部教授会の議を経て、学長が行っている（資料 4-2-③-C）。

資料 4-2-③-A 国立大学法人筑波技術大学入学試験委員会規程（抜粋）

（審議事項）

第 2 条 入試委員会は、入学者選抜に関し、次に掲げる事項を審議する。

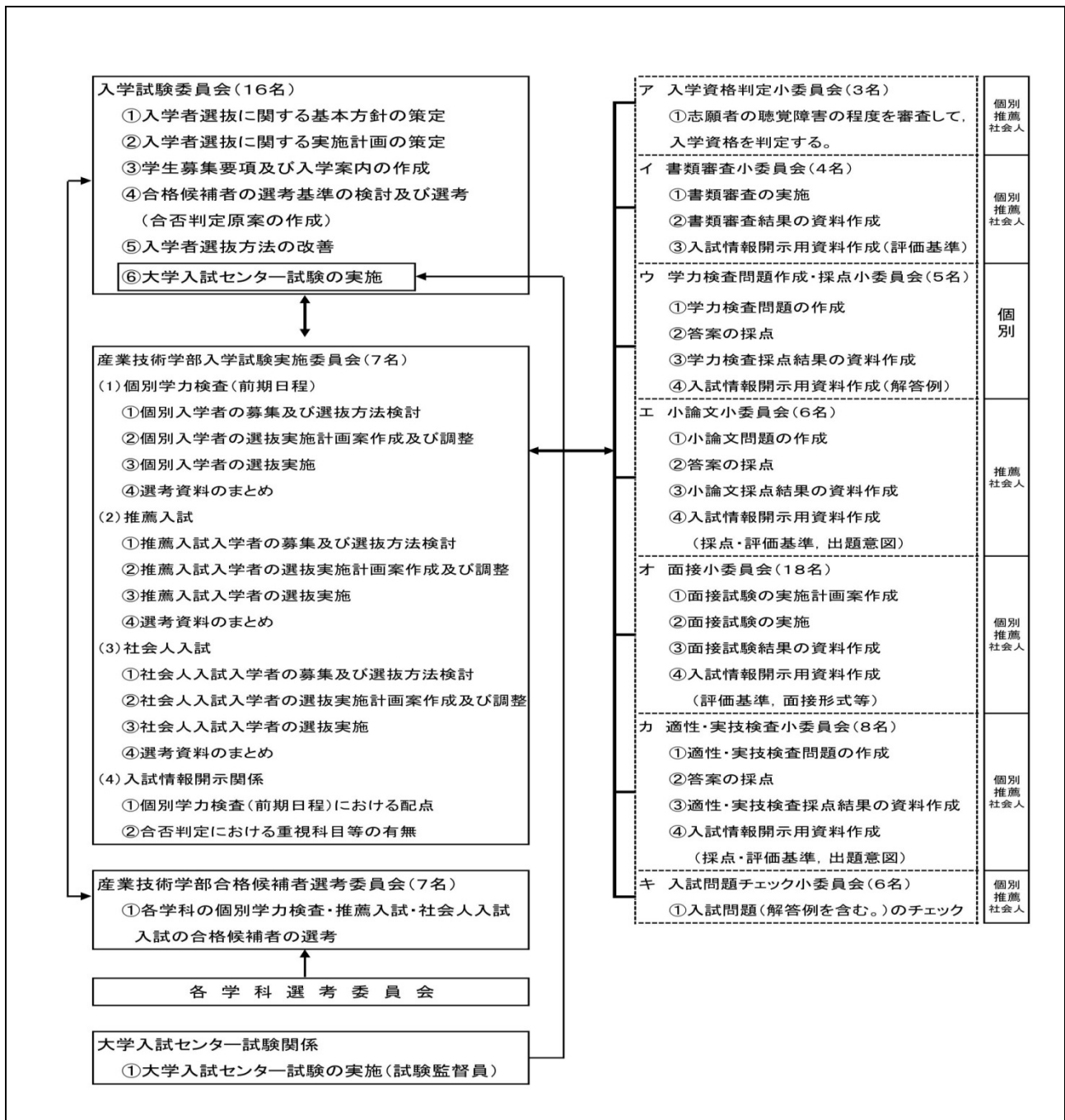
- (1) 基本方針の策定に関する事。
- (2) 実施計画に関する事。
- (3) 学生募集に関する事。
- (4) 合格候補者の選考基準及び選考に関する事。
- (5) 選抜方法の改善に関する事。
- (6) 大学入試センター試験に関する事。
- (7) その他入学者選抜に関する重要事項

（組織）

第 3 条 入試委員会は、次に掲げる委員をもって組織する。

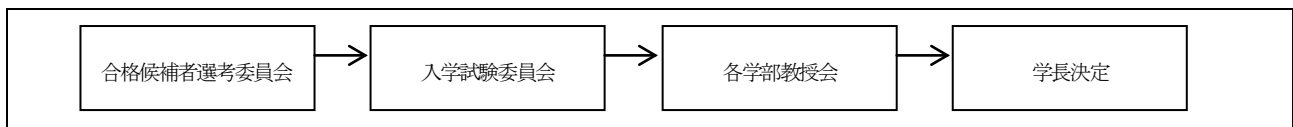
- (1) 学長
- (2) 学長が指名する理事及び副学長
- (3) 産業技術学部長
- (4) 保健科学部長
- (5) 障害者高等教育研究支援センター長及び副センター長
- (6) 保健管理センター長
- (7) 学科長、専攻長及び副学科長
- (8) 障害者支援研究部及び障害者基礎教育研究部の各部長
- (9) その他学長が指名する教授 若干人

資料 4-2-③-B 入学者選抜実施体制（産業技術学部の例）



(出典：平成 24 年度産業技術学部入学試験実施要項)

資料 4-2-③-C 学部における合格者の決定手続



(聴覚障害系支援課作成)

大学院における入学者選抜は、「国立大学法人筑波技術大学大学院入学試験委員会規程」に基づき、学長を委員長とする大学院入学試験委員会が全体を総括している（資料 4-2-③-D）。

入学者選抜の実施体制は、専攻ごとに大学院入学試験実施委員会を開催し、当該専攻の入学者選抜に関する必要な事項を審議するとともに、各小委員会を総括、調整して入学者選抜を実施している（資料4-2-③-E）。

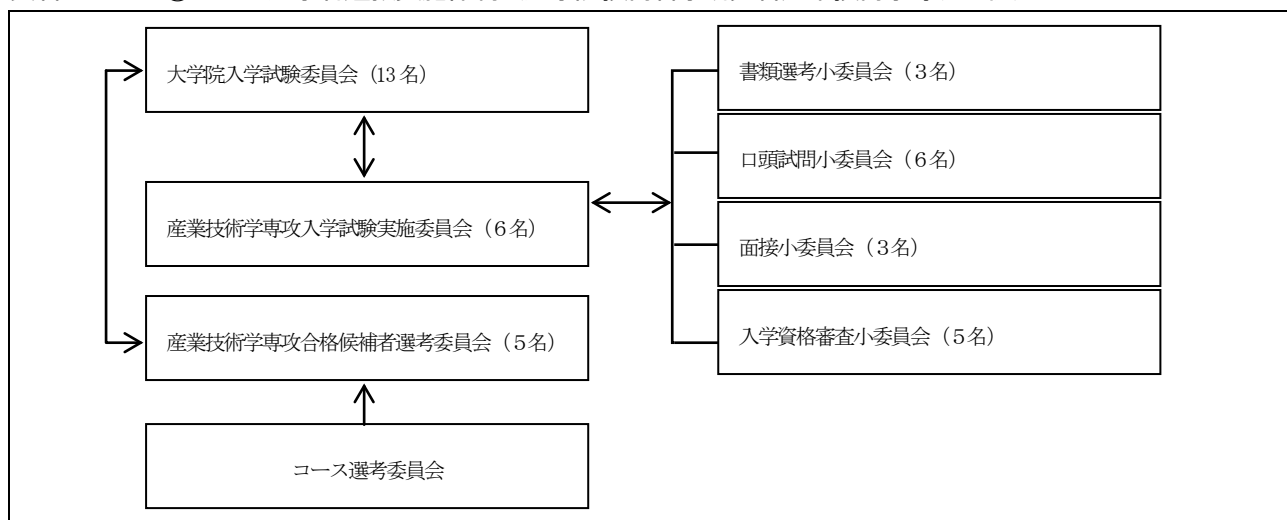
試験当日は、学長を責任者とする入試本部を設置し、また、各専攻の専攻長を責任者とする入学試験実施本部を設置し、試験を実施している。

合格者の決定は、合格候補者選考委員会の判定資料に基づき、大学院入学試験委員会及び大学院運営委員会の議を経て、学長が行っている（資料4-2-③-F）。

資料4-2-③-D 国立大学法人筑波技術大学大学院入学試験規程（抜粋）

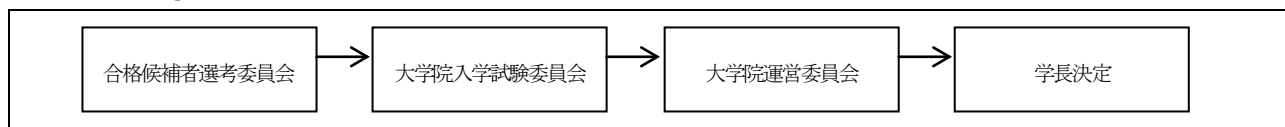
<p>(審議事項)</p> <p>第2条 大学院入試委員会は、大学院の入学者選抜に関し、次に掲げる事項を審議する。</p> <p>(1) 基本方針の策定に関すること。</p> <p>(2) 実施計画に関すること。</p> <p>(3) 学生募集に関すること。</p> <p>(4) 合格候補者の選考基準及び選考に関すること。</p> <p>(5) 選抜方法の改善に関すること。</p> <p>(6) その他入学者選抜に関する重要事項</p> <p>(組織)</p> <p>第3条 大学院入試委員会は、次に掲げる委員をもって組織する。</p> <p>(1) 学長</p> <p>(2) 研究科長</p> <p>(3) 学長が指名する理事</p> <p>(4) 産業技術学専攻長</p> <p>(5) 保健科学専攻長</p> <p>(6) 障害者高等教育研究支援センター長</p> <p>(7) 各専攻のコース長</p> <p>(8) その他学長が指名する者 若干人</p>

資料4-2-③-E 入学者選抜実施体制（大学院技術科学研究科産業技術学専攻の例）



(聴覚障害系支援課作成)

資料 4-2-③-F 大学院における合格者の決定手続



(聴覚障害系支援課作成)

【分析結果とその根拠理由】

観点に係る状況のとおり、入学者選抜は、適切な実施体制により公正に実施されていると判断する。

観点 4-2-④： 入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）に沿った学生の受入が実際に行われているかどうかを検証するための取組が行われており、その結果を入学者選抜の改善に役立っているか。

【観点に係る状況】

本学では、入学者選抜の改善のため、産業技術学部には入試成績追跡調査委員会、保健科学部には入試方法検討委員会を設置している。両委員会では、入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）に沿った学生の受入れが実際に行われているかどうかを検証するため、入学試験における評価との相関及び入学後の学修状況の追跡調査を行っている（別添資料 4-2-④-1）。

産業技術学部では、個別学力検査における大学入試センター試験の利用教科・科目及び配点を変更する改善を行った。

保健科学部では、アドミッション・オフィス入試に対する入試方法・内容の検討と見直しを行い、保健学科理学療法専攻では面接試験に加え、適性検査（運動及び筆記を含む。）を実施している。

・別添資料 4-2-④-1 産業技術学部における入学者選抜方法の改善に関する調査報告書

【分析結果とその根拠理由】

観点に係る状況のとおり、入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）に沿った学生の受入が実際に行われているかどうかを検証するための取組が行われており、その結果を入学者選抜の改善に役立っていると判断する。

観点 4-3-①： 実入学者数が、入学定員を大幅に超える、又は大幅に下回る状況になっていないか。また、その場合には、これを改善するための取組が行われるなど、入学定員と実入学者数との関係の適正化が図られているか。

【観点に係る状況】

各学部の過去 5 年間の入学者の状況は、資料 4-3-①-A のとおりである。産業技術学部の入学定員に対する入学者の充足率は 1.01 倍（5 年間平均）、保健科学部の入学定員に対する入学者の充足率は 0.97 倍（5 年間平均）となっている。また、技術科学研究科の入学定員に対する入学者の充足率は 0.92 倍（2 年間平均）である。

なお、保健科学部保健学科鍼灸学専攻では、過去 5 年間のうち 4 年間、入学者数が入学定員を下回っている。

このような状況を踏まえ、長期的な学生の確保の方策、入学定員の見直しなどを調査・審議するために外部有識者を含めた「筑波技術大学将来構想諮問委員会」が設置され、報告書を取りまとめている（別添資料4-3-①-1）。

資料4-3-①-A 学部及び大学院の過去5年間の入学定員・入学者数・充足状況

平均入学定員充足率計算表（筑波技術大学）

学部/研究科等名	学科/課程/専攻等名	項目	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	入学定員に対する各平均比率
学士課程 産業技術学部	学部/研究科/専攻科/別科全体	志願者数	102	63	78	110	90	1.77
		合格者数	52	51	52	53	53	1.04
		入学者数	51	51	51	50	50	1.01
		入学定員	50	50	50	50	50	
		入学定員充足率	1.02	1.02	1.02	1.00	1.00	
	1 産業情報学科	志願者数	73	46	57	65	72	1.78
		合格者数	36	35	37	37	38	1.04
		入学者数	35	35	36	35	35	1.00
		入学定員	35	35	35	35	35	
	入学定員充足率	1.00	1.00	1.02	1.00	1.00		
	2 総合デザイン学科	志願者数	29	17	21	45	18	1.73
		合格者数	16	16	15	16	15	1.03
		入学者数	16	16	15	15	15	1.02
		入学定員	15	15	15	15	15	
	入学定員充足率	1.06	1.06	1.00	1.00	1.00		
	学士課程 保健科学部	学部/研究科/専攻科/別科全体	志願者数	75	55	57	59	43
合格者数			43	40	41	43	31	0.98
入学者数			42	39	40	43	31	0.97
入学定員			40	40	40	40	40	
入学定員充足率			1.05	0.97	1.00	1.07	0.77	
1 保健学科鍼灸学専攻		志願者数	27	19	23	19	12	1.00
		合格者数	22	16	18	18	11	0.85
		入学者数	22	16	18	18	11	0.85
		入学定員	20	20	20	20	20	
入学定員充足率		1.10	0.80	0.90	0.90	0.55		
2 保健学科理学療法専攻		志願者数	28	21	11	20	14	1.88
		合格者数	10	12	10	13	9	1.08
		入学者数	9	11	10	13	9	1.04
		入学定員	10	10	10	10	10	
入学定員充足率		0.90	1.10	1.00	1.30	0.90		
3 情報システム学科		志願者数	20	15	23	20	17	1.90
		合格者数	11	12	13	12	11	1.18
		入学者数	11	12	12	12	11	1.16
		入学定員	10	10	10	10	10	
入学定員充足率		1.10	1.20	1.20	1.20	1.10		
修士課程 技術科学研究科	学部/研究科/専攻科/別科全体	志願者数				9	10	1.35
		合格者数				7	8	1.07
		入学者数				7	6	0.92
		入学定員				7	7	
		入学定員充足率				1.00	0.85	
	1 産業技術学専攻	志願者数				3	5	1.00
		合格者数				3	4	0.87
		入学者数				3	3	0.75
		入学定員				4	4	
	入学定員充足率				0.75	0.75		
	2 保健科学専攻	志願者数				6	5	1.83
		合格者数				4	4	1.33
		入学者数				4	3	1.16
		入学定員				3	3	
入学定員充足率				1.33	1.00			

(平均入学定員充足率計算表より転載)

・別添資料 4-3-①-1 筑波技術大学保健科学部保健学科鍼灸学専攻の今後の在り方に関する意見（平成 24 年 3 月 筑波技術大学将来構想諮問委員会）

【分析結果とその根拠理由】

観点に係る状況のとおり，実入学者数は，入学定員を大幅に超える又は大幅に下回る状況になっていないと判断する。

（2）優れた点及び改善を要する点

【優れた点】

特になし

【改善を要する点】

- 保健科学部保健学科鍼灸学専攻では，過去 5 年間のうち 4 年間，入学者数が入学定員を下回っている。特に平成 23 年度における入学充足率は 0.55 倍である。このような状況であるため，今後，「筑波技術大学保健科学部保健学科鍼灸学専攻の今後の在り方に関する意見（平成 24 年 3 月 筑波技術大学将来構想諮問委員会）」の意見を踏まえ，学部としての入学定員の見直し，改善等が必要である。

（3）基準 4 の自己評価の概要

学部及び大学院は，それぞれの教育目的に沿った入学者受入方針を明確に定めている。また，入学者受入方針等が記載されている大学案内，入学者選抜要項，学生募集要項は，全国の教育機関等へ広く配布され，ウェブサイトで公表，周知している。

入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）及びその方針に合致する入学者選抜方針に沿って選抜方法を定め，学部にあっては個別学力検査（前期日程）並びに推薦入試，A0 入試及び社会人入試を，大学院にあっては一般入試及び社会人入試を実施している。

学部及び大学院とも，入学者選抜に関する責任組織や実施体制を明確に定め，適切な役割分担のもとで公正に行っている。

学部における入学者選抜を改善するため，入試成績追跡調査委員会等を設置し，入学試験における評価との相関，入学後の学修状況の追跡調査結果を踏まえ，聴覚・視覚障害がある学生に配慮した入学試験制度の改善を検討している。

学部及び大学院とも，入学者数が入学定員を大幅に超える，又は大幅に下回る状況にないため，適正な状況となっている。

基準5 教育内容及び方法

(1) 観点ごとの分析

<学士課程>

観点5-1-①：教育の目的や授与される学位に照らして、授業科目が適切に配置され、教育課程が体系的に編成されており、授業科目の内容が、全体として教育課程の編成の趣旨に沿ったものになっているか。

【観点到る状況】

本学の教育理念、教育目的に即して、各学部の教育目的を定めている。

産業技術学部は、聴覚障害者を対象とし、その教育を通して社会の各分野においてリーダーとして貢献できる人材を育成することにより、聴覚障害者の社会的地位を向上させるとともに、技術革新が進む情報社会の中で十分に活躍し、社会全体の環境整備に貢献できる専門職業人を育てていくことを教育目的としている。

保健科学部は、視覚障害者を対象とし、その教育を通して社会の各分野においてリーダーとして貢献できる人材を育成することにより、視覚障害者の社会的地位を向上させるとともに、東西医学統合医療及び情報の連携を図り、情報化・高齢化が進む現代社会において活躍できる人を育てていくことを教育目的としている。

産業技術学部及び保健科学部の教育課程は、「教養教育系科目」と「専門教育系科目」に大別している（資料5-1-①-A）。

科目区分として、「教養教育系科目」はセミナー・総合教養科目、主題別教育科目、言語・情報教育科目、障害関係教育科目及び健康・スポーツ教育科目から編成している。「専門教育系科目」は、専門基礎教育科目、基盤領域科目、中核領域科目に分けられ、学科・専攻ごとにその教育目的に即して編成している。基盤領域科目を2、3年次中心に、中核領域科目を3、4年次中心に、卒業研究を中心とした応用的な授業科目を4年次に置くなど、くさび状に配置することで、専門知識の習得が段階的に得やすいようにしている。1年次の「教養教育系科目」「専門教育系科目」の比率はほぼ8：2で、2年次ではこの比率は2：8の割合に逆転し、「専門教育系科目」の比率が高くなっている。なお、保健科学部においては、平成22年度以降の入学者を対象に教育課程の変更を行った。

産業技術学部は、「産業情報学科」と「総合デザイン学科」の2学科で構成される。1年次は、学科別に編成された専門基礎教育科目の授業を実施している。2年次以降は、学生の希望、適性、成績などにより資料5-1-①-Bに示すように、コースに分かれて授業を実施している。また、教育課程編成の概念を資料5-1-①-Cに、履修規程については資料5-1-①-Iに示す。

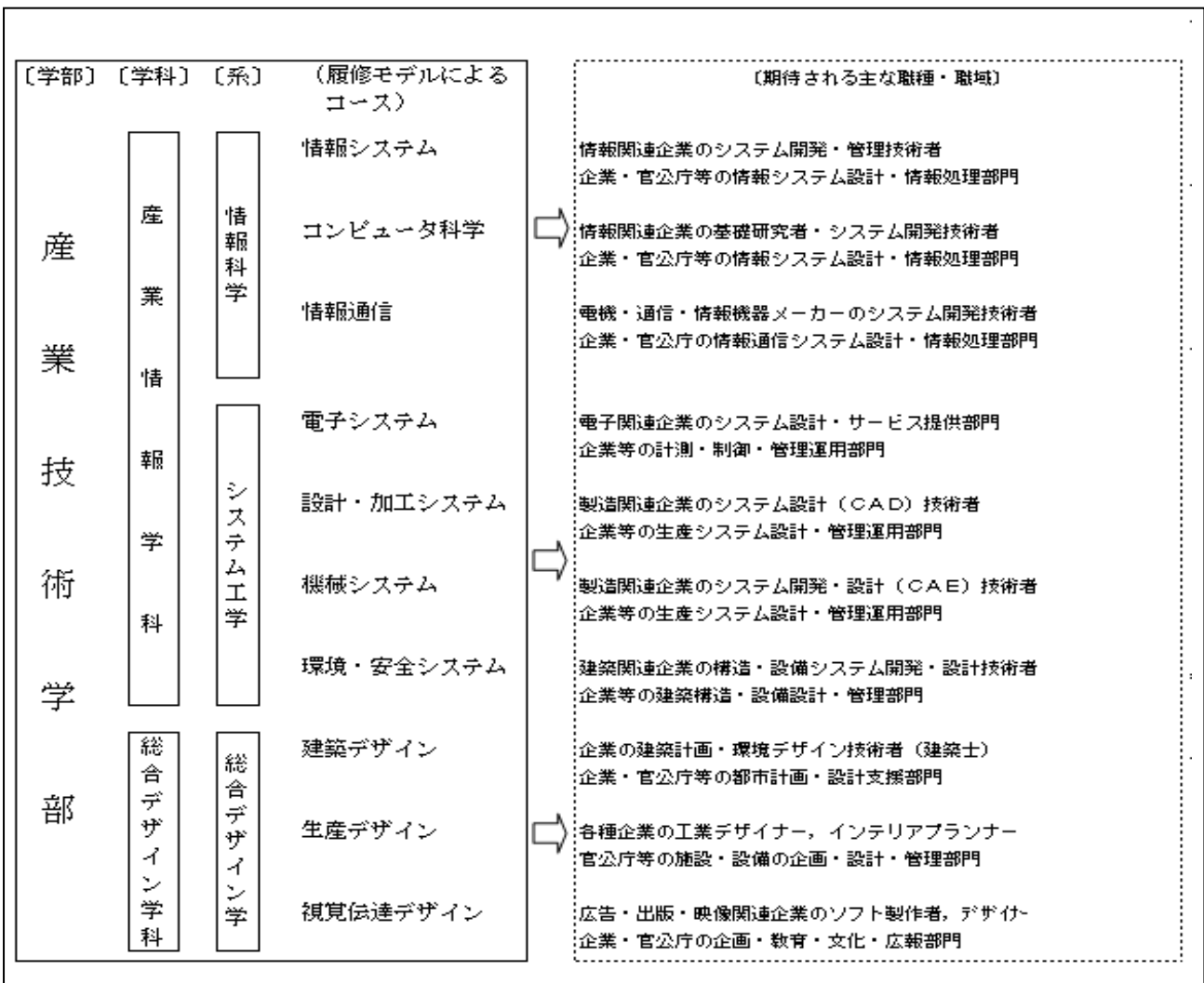
保健科学部は、「保健学科」と「情報システム学科」の2学科で構成され、保健学科は、「鍼灸学専攻」と「理学療法学専攻」の2専攻で構成される。学科・専攻では、資料5-1-①-Dに示すように、コースに分かれて授業を実施している。また、教育課程編成の概念を資料5-1-①-Eに、履修規程については資料5-1-①-Iに示す。

両学部の卒業要件単位数については、資料5-1-①-F、Gのように定めている。また、授与される学位は、学科・専攻の分野に応じ、資料5-1-①-Hのとおりとなっている。

資料5-1-①-A 国立大学法人筑波技術大学学則（抜粋）

<p>第24条 教育課程は、本学学部、学科及び専攻（以下「学部等」という。）の教育上の目的を達成するために必要な授業科目を自ら開設し、体系的に編成するものとする。</p> <p>2 教育課程の編成に当たっては、学部等の専攻に係る専門の学芸を教授するとともに、幅広く深い教養及び総合的な判断力を培い、豊かな人間性を涵養するよう適切に配慮しなければならない。 (授業科目等)</p> <p>第25条 学部の授業科目の区分は、教養教育系科目及び専門教育系科目とする。</p> <p>2 授業科目及び単位数は、別に定める。</p> <p>3 授業科目の履修方法等については、別に定める。</p> <p>4 授業の方法は、講義、演習、実験、実習若しくは実技のいずれか又はこれらの併用とする。</p> <p>5 前項の授業については、文部科学大臣が定めるところにより、多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室等以外の場所で履修させることができる。</p> <p>6 第4項の授業は、外国において履修させることができる。前項の規定により、多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室等以外の場所で履修させる場合についても、同様とする。</p>
--

資料5-1-①-B 筑波技術大学産業技術学部の教育体系



（聴覚障害系支援課作成）

資料5-1-①-E 保健科学部教育課程編成の概念図

4年	VIII					専門教育系科目 (必修)	特別研究(6)		
	VII					(22) ~ (99)			
3年	VI					専門教育系科目 (選択)	学外実習 (1) ~ (20)		
	V					(0) ~ (76)			
2年	IV	言語・情報教育科目		障害関係教育科目		健康・スポーツ教育科目		専門基礎・専門教養教育科目 (18) ~ (21)	
	III								
1年	II	総合教養科目 (4) ~ (11)	(7) ~ (16)	(2) ~ (8)	(2) ~ (8)				
	I								
学年・セメスター		教養教育系科目				専門教育系科目			

(視覚障害系支援課作成)

資料5-1-①-F 産業技術学部卒業要件単位数

学科・専攻・領域		産業情報学科			総合デザイン学科			
		情報科学専攻	システム工学専攻		環境デザイン学	製品デザイン学	視覚伝達デザイン学	
			機械工学	建築工学				
科目区分								
教養教育系科目	セミナー・総合教養科目		5	5	5	5	5	5
	主題別教育科目		4	4	4	4	4	4
	言語・情報教育科目	外国語科目	8	8	8	8	8	8
		日本語科目	2	2	2	2	2	2
		情報リテラシー科目	3	3	3	3	3	3
	障害関係教育科目		8	8	8	8	8	8
	健康・スポーツ教育科目		5	5	5	5	5	5
	その他		2	2	2	2	2	2
計		37	37	37	37	37	37	
専門教育系科目	専門基礎教育科目	必修	18	20	20	16	16	16
		選択	8	4	4	4	4	4
		小計	26	24	24	20	20	20
	専門教育科目	必修	22	41	45	34	34	34
		選択必修A科目		4				
		選択必修B科目		4				
		選択	39	14	18	33	33	33
小計		61	63	63	67	67	67	
合計		87	87	87	87	87	87	
単位総計		124	124	124	124	124	124	

(聴覚障害系支援課作成)

資料5-1-①-G 保健科学部卒業要件単位数

科目区分		保健学科		情報システム学科	
		鍼灸学専攻	理学療法学専攻		
教養教育系科目	総合教養教育科目		11	11	4～10
	教言語・科目情報	外国語科目	10	7	10～16
		日本語科目			
		情報リテラシー科目			
	障害関係教育科目		2	2	2～8
	健康・スポーツ教育科目		2	2	2～8
計		25	22	24	
専門教育系科目	専門基礎・専門教養教育科目		99	21	100
	専門臨床教育科目	22			
	専門鍼灸手技教育科目	59			
	専門理学療法教育科目				
	計			99	
単 位 総 計		124	124	124	

(視覚障害系支援課作成)

資料5-1-①-H 学位（専攻分野の名称）

(専攻分野の名称)

第7条 学士の学位を授与するに当たって、付記する専攻分野の名称は、次のとおりとする。

学部	学科・専攻等	学位（専攻分野の名称）
産業技術学部	産業情報学科	学士（工学）
	総合デザイン学科	学士（デザイン学）
保健科学部	保健学科	学士（鍼灸学） 学士（理学療法学） 学士（工学）
	鍼灸学専攻	
	理学療法学専攻	
	情報システム学科	

(出典：国立大学法人筑波技術大学学位規程)

資料5-1-①-I 国立大学法人筑波技術大学履修規程

<http://www.tsukuba-tech.ac.jp/assets/files/soumu/kisoku/kyoumu/08-08.pdf>

【分析結果とその根拠理由】

観点に係る状況のとおり、教育の目的や授与される学位に照らして授業科目が適切に配置され、教育課程が体系的に編成されており、授業科目の内容が教育課程の編成の趣旨に沿ったものになっていると判断する。

観点 5-1-②： 教育課程の編成又は授業科目の内容において、学生の多様なニーズ、研究成果の反映、学術の発展動向、社会からの要請等に配慮しているか。

【観点に係る状況】

本学では、学生の多様なニーズ、研究成果の反映、学術の発展動向、社会からの要請等に配慮し、教育課程の編成や授業科目の内容に反映させている（資料 5-1-②-A, B）。

具体的には、社会人の学び直しニーズ対応教育推進プログラム（学び直し GP）「聴覚障害者のみを対象とする大学・学部の資源を活かした職業技術学び直しプログラム」（資料 5-1-②-C）、大学生の就業力育成支援事業（就業力 GP）「障害学生のエンパワーメントとキャリア発達」（資料 5-1-②-D）などの取組が授業科目の内容などに反映されている。また、社会的・職業的自立に向けた指導等を行うため、キャリア発達支援学長特命プロジェクト委員会を設置している（別添資料 5-1-②-1）。研究成果の反映については、聴覚・視覚障害者のための授業支援システムや専門分野に関わる指導法の研究が多数行われ、授業に反映している（前掲資料 3-3-①-A, B）。また、平成 23 年度から教職課程を設置し、教職に進みたいという学生からの要望に対応した。

さらに、学生の多様なニーズに応えるため、他学科・他専攻科目の履修認定、他大学との単位互換、インターンシップ、補習授業の実施などを行っている（資料 5-1-②-E~I）。

資料 5-1-②-A 社会的要請等を反映した科目例（産業技術学部）

授業科目例	概要
(学部共通：教養教育科目) コミュニケーションと社会環境、芸術と技術、企業と社会	コミュニケーションと社会環境の関わり、芸術と技術の関わり、企業と社会の関わりをそれぞれ学び、自らを取り巻く社会環境の中で、自らがどうあるべきかを考える。
手話コミュニケーション技術情報保障技術とコミュニケーション	大学生活におけるコミュニケーションの困難を解消するために、聴覚活用、発音発話、手話コミュニケーション、情報補償システムなどの実習を通して障害補償を理解する。
聴覚障害論 A、聴覚障害論 B	聴覚障害について人間学的領域と社会学的領域から概説し、聴覚障害者の権利保障、情報保障、コミュニケーション保障、福祉、教育、労働それぞれについて過去の歴史と現状を学ぶ。
聴覚補償教育工学	聴覚障害者への教育工学的な支援の具体的な技術の習得を図る。
聴覚障害スポーツ論、聴覚障害教育論、聴覚障害文化論	聴覚障害者にとってスポーツ活動等が持つ意義、聴覚障害児・者への教育の歴史と現状、聴覚障害者が描かれている映画作品を通したろう者・難聴者の生活文化などを理解する。
(産業情報学科：専門科目) 情報科学特別講義	ネットワーク社会が企業経営や社会生活に与える影響を通して、情報システムを上手く活用していく方法を学ぶ。
システム工学特別講義	企業におけるシステム工学に関連した生産活動、技術動向や製品開発を学び、企業・工場見学を通して大学での学習内容と企業の生産活動の関連性を理解する。
情報マネジメント論	情報及び情報システムのマネジメントという観点から、情報安全システム、電子商取引、ネットワーク契約について、情報システムが果たしうる役割や活用法を理解する。
エコ環境システム	地球・都市・建築などの異なるスケールにおける環境問題を理解し、技術者として持続可能な社会システムを構築するための倫理観を身につけ、最新の環境共生技術を理解する。

情報科学特別実習, システム工学特別実習	専門領域に関連した職場において、実社会での作業の実際・環境・人間関係およびコミュニケーション等を体験し、卒業後に備える。
(総合デザイン学科：専門科目) 総合デザイン学特別講義	デザインの現場で行われているマーケティング作業を通して、デザイン行為にとってのマーケティングの意義と役割を体感し、聴覚障害者として社会へ巣立つ心構えを習得する。
総合施設設計演習	社会福祉を推進する施設の設計を通して社会福祉施設の機能の理解を深め、障害者や高齢者にふさわしい場を創造する設計能力を養う。
エコロジカルデザイン論	地球環境の持続可能な社会の実現のために、デザインがエコロジカルデザインとして配慮すべき内容について理解を深める。
ユニバーサルデザイン論	人間・モノ・情報・空間との関係などユニバーサルデザイン要素を理解し、障害者や高齢者を含めた様々な人々にとって良いデザインを作り出すことができる対応力を養う。
総合デザイン学特別実習	総合デザイン学の専門分野に関連する内容の企業実習により、実社会の理解および大学での学習内容と企業活動の関連性を理解する。

(聴覚障害系支援課作成)

資料5-1-②-B 社会的要請等を反映した科目例 (保健科学部)

授業科目名	概要
(鍼灸学専攻) 社会鍼灸手技学A, 社会鍼灸手技学B 鍼灸介護・福祉学, 同演習 プレ臨床実習1 プレ臨床実習2	介護、医療及び福祉領域における社会資源、法制度の学習を行い、更にその領域における鍼灸、手技、機能訓練の方法を学習する。特に近年、鍼灸手技の応用が注目されている①高齢者介護における運動療法や補装具等の機能訓練業務に関する領域と、②ターミナルケアに鍼灸手技療法が適用するための技術と知識の習得を行う。 地域の協力者に模擬患者として実習に参加していただき、学内臨床実習施設に於いて、診察から施術までの実際を学ぶ。 地域の介護老人保健施設において、教員の指導下に同施設入所者に対して手技療法・運動療法を実際に行う。高齢者の身体および行動の特性を学習する。
(理学療法学専攻) 内部疾患理学療法学, 同実習 呼吸・循環器疾患理学療法学, 同実習 地域理学療法学	糖尿病について種類、治療、合併症について概説する。運動と代謝について述べる。運動の効果、糖尿病と運動について述べる。運動前のチェックを行い、運動療法を実習する。虚血性心疾患に関する基礎事項、虚血性心疾患のリハビリテーションについて理解する。高齢者の運動について理解する。 呼吸器の機能、呼吸リハビリテーションの必要な病態、対象疾患、呼吸機能の評価、呼吸リハビリテーションについて理解する。運動療法について述べる。呼吸機能の評価、循環器機能の評価について実習する。呼吸器・循環器に関する演習を行う。 地域リハビリテーション、在宅ケア老人の評価と理学療法、在宅訪問活動施設における理学療法、特別養護老人ホームにおける理学療法症例を紹介する。デイケア施設の理学療法例、他職種による地域サービス例を紹介する。
(情報システム学科) 総合情報システム特別講義	社会で活躍されている方々を講師として招いて、視覚障害補償技術を主とする広い分野における最新の動向や話題、視覚障害者のキャリア形成に必要な知識や情報、自律に向けての職種選択や社会参加などを、様々な視点から多角的および総合

総合情報システム特別実習	的に学ぶ。 企業や研究機関等で実習を行い、事前準備・報告書作成などの実務経験を通じて、就業における基本的な知識と経験を習得する。その体験に合わせて、自らの視覚障害に対する補償技術の有効性と可能性を評価・確認する。
情報アクセシビリティ	社会の情報化が進展するなかで、高齢者や視覚障害者の情報アクセシビリティを向上させるための様々な取り組みが行われている。その現状や変遷を多面的に学び、アクセス支援技術の研究開発と普及の動向を知る。
プレゼンテーション論	発言・主張・説明の価値や目的、プレゼンテーションを行う上で必要な話しの組み立て方や話し方、用意した情報コンテンツを用いていかに相手に伝達し理解してもらうかなどを、体験や実践を通して学ぶ。

(視覚障害系支援課作成)

資料5-1-②-C 社会人の学び直しニーズ対応教育推進プログラム（学び直しGP）

プログラム名称	実施内容及び成果・効果等
聴覚障害者のみを対象とする大学・学部の資源を生かした職業技術学び直しプログラム	(実施内容) 平成19年度から平成21年度まで、聴覚障害者に特化した教授法も含めた教育環境や施設設備を利用し、聴覚障害者のみ対象の職業技術学び直しプログラムを実施した。平成22年度からは学部の取組として実施している。23年度は以下の6プログラムを企画した。①応用的なデータ解析手法を学ぶ ②応用的なプログラミング技術を学ぶ ③2次元CAD3次元CADを学ぶ ④電子CAD/CAEを学ぶ ⑤文字デザインとデジタル編集を学ぶ ⑥3Dデザインを学ぶ

(聴覚障害系支援課作成)

資料5-1-②-D 大学生の就業力育成支援事業（就業力GP）

プログラム名称	実施内容及び成果・効果等
障害学生のエンパワーメントとキャリアの発達	本取組では、障害者就業の現場において継続的就労の妨げとなる「環境要因」と「個人要因」にスポットを当て、障害のある学生のキャリア発達を支援することを目的としている。環境要因対策としては、企業に対する障害理解セミナー等を実施するとともに、学生自身の障害説明能力（セルフアドボカシースキル）の育成を進め、企業側の障害理解を促進する。個人要因対策としては、「キャリア教育科目の開設」と「人的リソース投入による内面支援」の両面から支援を実施することで、学生の障害受容と就労に対するエンパワーメントを推し進める。さらに、卒業生の追跡調査や活躍現場の取材を行い、学内Webによるエンカレッジコンテンツの配信を実施する。あわせて、卒業生のフォローアップを行う。なお、本事業は、平成22年度から平成26年度までのGP採択事業であったが、平成23年度をもって廃止となった。 (成果・効果等) ①卒業生の追跡調査により、卒業生の就業現場における課題を把握することができた。これを、来年度以降の本学における就業力育成に反映し、併せて卒業生のフォローアップにも役立てていく予定である。また、学内情報共有設備を導入することで、それぞれの学部での情報共有を緊密にし、両キャンパスの教員が一丸となって取り組むことで、両キャンパスの学生の受ける就業力育成支援を同水準とすることができた。 ②キャリアカウンセリングを通して、学生個々の障害特性に即したキャリア発達を促すことができた。また、最新情報補償機器（拡大読書器・iPad等）を導入し、使用可能な状態へ整備することで、学生が最新機器に触れる機会を増やすと共に、それらの活用方法を指導することで、インターンシップ等における情報保障機器を用いたコミュニケーション技術能力を培った。 ③企業向け障害理解啓発セミナーを通して、就労における職場適応等の課題を企業の人事担当者、他大学や関係機関の担当者らと共有することができ、学生の就業力を育成する際の指針を得ると共に、就労現場における環境の改善の下地を作った。また、本学と関東地区の特別支援学校との間のメーリングリストを活用し、本学の学生のみならず、特別支援学校生徒の就業力の向上及び

	<p>本学の特性を生かした教育・就職支援体制を示すことができた。</p> <p>④キックオフ・フォーラムの開催、Webサイトの構築、本取組の概要をまとめたリーフレットを作成し配付することにより、本取組を他大学、連携機関、企業に情報発信し、本補助事業の公表・普及につなげることができた。また、外部有識者による、本取組についての評価結果を受け、今後の取り組みの改善につなげることができた。さらには、他大学に本取組の周知に向くと共に、各大学の就業力育成の取組について調査を行い、本学における就業力育成の取組の改善に資する資料及び知見を得ることができた。</p>
--	---

(聴覚障害系支援課作成)

資料 5-1-②-E 他学科履修状況 (平成 23 年度)

【産業技術学部】

(単位：人)

授業開講学科	産業情報学科	総合デザイン学科
学生所属学科		
産業情報学科	—	3
総合デザイン学科	0	—

【保健科学部】

授業開講学科・専攻	保健学科鍼灸学専攻	保健学科理学療法学専攻	情報システム学科
学生所属学科・専攻			
保健学科鍼灸学専攻	—	0	1
保健学科理学療法学専攻	0	—	0
情報システム学科	0	0	—

(聴覚障害系支援課、視覚障害系支援課作成)

資料 5-1-②-F 放送大学の単位互換科目の履修一覧 (平成 23 年度)

(単位：人)

	科目名	学科・専攻	単位授与者
産業技術学部	(教養A) 社会福祉入門	産業情報学科	0
		総合デザイン学科	0
		計	0
	(教養B) 社会階層と不平等	産業情報学科	0
		総合デザイン学科	0
		計	0
学部計			0
保健科学部	放送大学開設授業科目A「身近な気象学」(‘10)	保健学科鍼灸学専攻	0
		保健学科理学療法学専攻	0
		情報システム学科	1
		計	1
	放送大学開設授業科目B「世界の中の日本」(‘09)	保健学科鍼灸学専攻	0
		保健学科理学療法学専攻	0
		情報システム学科	0
		計	0
	学部計		
合計			1

(聴覚障害系支援課、視覚障害系支援課作成)

資料5-1-②-G インターンシップ実施状況

【産業技術学部産業情報学科（情報科学系）】

授業科目名	学年	学期	実習単位 (時間)	実習施設名	実習配置計画		指導者数
					班数	班人数	
情報科学特別実習	3	集中	2 (90)	オイシックス, トランスコスモス, 三菱電機エンジニアリング, パナソニックITS, 東芝, オムロン, 富士ゼロックス, 日立情報制御ソリューションズ, STNet	1	10	1

【産業技術学部産業情報学科（システム工学系）】

授業科目名	学年	学期	実習単位 (時間)	実習施設名	実習配置計画		指導者数
					班数	班人数	
システム工学特別実習	3	2	2 (90)	三菱電機エンジニアリング, ワイデックス, 日立情報制御ソリューションズ	1	3	1
〃	〃	〃	〃	三菱電機エンジニアリング	1	1	1
〃	〃	〃	〃	トヨタ自動織機	1	1	1
〃	〃	〃	〃	東芝メディカルシステムズ	1	1	1
〃	〃	〃	〃	清水建設, 大成建設ハウジング	1	2	1

【産業技術学部総合デザイン学科（総合デザイン系）】

授業科目名	学年	学期	実習単位 (時間)	実習施設名	実習配置計画		指導者数
					班数	班人数	
総合デザイン特別実習	3	集中	2 (90)	大成建設ハウジング	1	3	1
〃	〃	〃	〃	NPOユニバーサルイベント協会 ユニバーサルキャンプ in 八丈島	1	5	1
〃	〃	〃	〃	岡村製作所株	1	1	1
〃	〃	〃	〃	モーハウス	1	1	1

【保健科学部情報システム学科】

授業科目名	学年	学期	実習単位 (時間)	実習施設名	実習配置計画		指導者数
					班数	班人数	
情報システム特別実習	2・3	集中	1 (40)	筑波技術大学, 日立製作所, フジキン, 日本盲導犬協会神奈川訓練センター, 新日本空調, 富士通SSL, マツダ, 富士通SSL	1	1	1

(聴覚障害系支援課, 視覚障害系支援課作成)

資料5-1-②-H 産業技術学部補習授業の実施状況（平成23年度）

科目	実施期間	実施回数	補習対象者
英語	1・2学期	Aグループ 11回 Bグループ 8回 Cグループ 5回 Dグループ 5回 Eグループ 31回 Fグループ 16回	1・2年次4名
数学	1学期	10回	1年次約30名
物理学	1学期	15回	1年次15名

(聴覚障害系支援課作成)

資料5-1-②-I 保健科学部補習授業の実施状況

学科・専攻	学年	内容	コマ数	受講人数
保健学科 鍼灸学専攻	1	専門基礎教育科目(解剖学)	20	3
		専門鍼灸・手技教育科目(手技基礎実習, 経路経穴学等)	20	10
	2	専門基礎教育科目(解剖学)	35	7
		専門臨床教育科目(整形外科学)	5	5
		専門鍼灸・手技教育科目(鍼灸基礎実習Ⅰ・Ⅱ等)	15	7
	3	専門臨床教育科目(神経内科学)	5	10
		専門鍼灸・手技教育科目(鍼灸科学等)	15	5
	4	専門基礎教育科目(解剖学・生理学・衛生学等, 病理学)	30	10
		専門臨床教育科目(臨床医学総論・各論)	15	10
		専門鍼灸・手技教育科目(東洋医学臨床論・東洋医学概論等・はりきゅう理論・あん摩マッサージ指圧理論)	40	10
保健学科 理学療法学専攻	1	主として解剖学・生理学・運動学など国家試験対策	15	9
	2	主として解剖学・生理学・運動学など国家試験対策	60	13
	3	主として解剖学・生理学・運動学など国家試験対策および臨床実習前理学療法学実技演習	60	10
	4	解剖学・生理学・運動学など, 基礎医学(内科, 整形外科など), 臨床医学(神経内科など) 専門理学療法学(神経系, 整形外科系, 呼吸器系など)の国家試験対策	120	9

(視覚障害系支援課作成)

・別添資料5-1-②-1 キャリア発達支援学長特命プロジェクト委員会議事次第
--

【分析結果とその根拠理由】

観点に係る状況のとおり, 教育課程の編成又は授業科目の内容において, 学生の多様なニーズ, 研究成果の反映, 学術の発展動向, 社会からの要請等に配慮していると判断する。

観点 5-1-③： 単位の実質化への配慮がなされているか。

【観点に係る状況】

本学では、学生便覧及び開設授業科目一覧に、1単位当たりに必要な学修時間、履修登録の上限設定について明示し、学生に周知するとともに、各学部における学修についてのガイダンスを行い、適切な履修選択などを指導している（別添資料5-1-③-1, 2）。

また、シラバスには「授業の目標及び期待される学習効果」「成績評価の方法」「教材や参考資料」等の事項を明示し、学生が予習、復習など自主的な学習が十分行えるよう配慮している（資料5-1-③-A）。授業では、期末試験を除いて1学期授業15回、2学期授業15回を確保している（資料5-1-③-B）。

資料5-1-③-A 授業計画（シラバス）

- ・産業技術学部 (http://www.tsukuba-tech.ac.jp/department/it/it_syllabus.html)
- ・保健科学部 (http://www.tsukuba-tech.ac.jp/department/hs/hs_syllabus.html)

資料5-1-③-B 学年暦

<http://www.tsukuba-tech.ac.jp/education/calendar.html>

- ・別添資料5-1-③-1 学生便覧（産業技術学部、保健科学部）
- ・別添資料5-1-③-2 開設授業科目一覧（産業技術学部、保健科学部）

【分析結果とその根拠理由】

観点に係る状況のとおり、単位の实質化への配慮がなされていると判断する。

観点 5-2-①： 教育の目的に照らして、講義、演習、実験、実習等の授業形態の組合せ・バランスが適切であり、それぞれの教育内容に応じた適切な学習指導法の工夫がなされているか。

【観点に係る状況】

両学部では、理解が困難な講義に、演習及び実習を結びつけ、体験的に理解できるように配慮している（資料5-2-①-A, B）。

産業技術学部及び保健科学部の授業形態は、情報の保障及び障害の補償などの観点から少人数制を導入している。

産業技術学部では、無線LANの整備により学内の教室や演習・実験室、研究室において無線によるインターネットへの接続も可能となり、ネットワークを利用した学習を行う比率が飛躍的に高まっている。また、各教室や演習・実験室へ設置された視覚情報システムにより、教材等の電子スライド化、インターネット教材の授業への導入、各種メディアを教育に活用する授業が増加している。1年次においては「情報基礎」「同演習」を開設し、学生に対し早期に情報ネットワークを利用できるスキルを身につけさせている。

保健科学部の専門教育においては、保健学科の学問の特徴に応じた講義に加え、技術の習得を目的とした実習、臨床実習を重視した教育を行っている。情報システム学科では、講義に加え、演習科目を多く開設している。保

健学科鍼灸学専攻では、実習科目によってクラスを2グループに分けた少人数指導を行い、臨床実習は保健科学部附属東西医学統合医療センター及び手技鍼灸実習棟で行うことによって、重度視覚障害学生の移動が緩和されている（資料5-2-①-C）。保健学科理学療法学専攻では、外部の病院施設において臨床実習を行っている。2年次の臨床実習では、1施設2名の学生が配属、3年次及び4年次の臨床実習では、1施設1名の学生を配属し、当該施設の専門家によるきめ細かな指導が行われている。また、質の高い大学教育推進プログラム（教育GP）「携帯型端末を用いた弱視学生の資格試験対策」により、携帯型端末の機動性と柔軟性を生かし、e-learningを用いた学習環境を提供している。さらに「視覚に障害を持つ医療系学生のための教育高度化改善事業」が平成21年度から採択され、スキルラボの開設・運営等が行われ、いくつかの授業内容に反映することで、より高度な教育効果を期待できるようになっている（資料5-2-①-D）。教養教育系科目の外国語科目は、LL 教室においてリスニング教材及びビデオ教材等を利用した多くの授業を行っている（資料5-2-①-E）。

資料5-2-①-A 産業技術学部 各学科の授業形態別開講科目数

授業形態	産業情報学科	総合デザイン学科
講義	231	97
演習	82	47
実習, 実験等	65	30
合計	378	174

(聴覚障害系支援課作成)

資料5-2-①-B 保健科学部 各学科・専攻の授業形態別開講科目数

授業形態	鍼灸学専攻	理学療法学専攻	情報システム学科
講義	88	95	116
演習	24	22	46
実習	27	21	1
講義・実習	6	6	6
合計	145	144	169

(視覚障害系支援課作成)

資料5-2-①-C 保健科学部保健学科鍼灸学専攻実習グループ分け

学年	学期	科目	Aグループ(人数)	Bグループ(人数)
3	1, 2	C9640 手技外来実習	8	8
3	2	C9650 手技外来特別実習 I	8	8
3	2	C9390 臨床実習 II (指圧)	8	8
4	1, 2	C9660 手技外来特別実習 II	6	6
4	1	C0301 臨床実習 II (指圧)	6	6

(視覚障害系支援課作成)

資料5-2-①-D 学生アンケート結果（平成21年度文部科学省特別教育研究経費（教育改革）報告書「視覚に障害を持つ医療系学生のための教育高度化改善事業」）

授業内容	学生アンケート結果
平衡能力評価実習	やや楽しい, すごく楽しい (68%) すごく役立つ, 少しそう思う (71%)

筋力評価実習	解剖学、運動学などの基礎知識の整理がなされ、理解が深まった。 自主的な学習意欲の向上
臨床実習開始前の身体診察演習	4点満点中実習可能な程度・実習の理解度はほとんどの項目で3点以上、実習の必要性はすべての項目3点以上
臨床実習における診察シミュレーションモデル活用	4点満点中多くの項目で実習の評価点が3点以上。実習の必要性で血圧測定・心音聴診・呼吸音聴診の平均値が高い。実習全体で実習が楽しい、継続して実習を行いたいのが90%

(視覚障害系支援課作成)

資料5-2-①-E 保健科学部 LL 教室の利用状況

科目	頻度
オーラルコミュニケーションⅠ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ	週1回（1学期あるいは2学期）
英語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ	週1回（1学期あるいは2学期）
中国語Ⅰ・Ⅱ	週1回（1学期あるいは2学期）
放送大学（開設科目A,B）	週2回2学期

(視覚障害系支援課作成)

【分析結果とその根拠理由】

観点に係る状況のとおり、教育の目的に照らし、講義、演習、実習等の授業形態の組み合わせ・バランスが適切であり、それぞれの教育内容に応じた学習指導法の工夫がなされていると判断する。

観点5-2-②： 教育課程の編成の趣旨に沿って適切なシラバスが作成され、活用されているか。

【観点に係る状況】

シラバスは、全学的に記載内容を統一し、授業概要、学習到達目標、教科書・参考書、成績評価方法等の情報を掲載し、学生がウェブサイトで閲覧できるようになっている（前掲資料5-1-③-A）。教員には、評価基準を明示した記入要領を配付するなど、適切なシラバス作成のために役立てている（別添資料5-2-②-1）。授業の始めにはシラバスを用いたガイダンスを行うとともに、シラバスの利用、シラバスに沿った授業であるかなどに関しては、全学の授業評価アンケートで検証されている（資料5-2-②-A, B）。しかし、産業技術学部のシラバスについては、アンケートの結果において「そう思う」「ややそう思う」の合計が48.7%と過半数に満たない現状にあるため、シラバスの内容を更に充実し、学生に周知する必要がある。

資料5-2-②-A 産業技術学部「シラバスは授業の内容を知るうえで参考になりましたか」に関する授業アンケート集計（平成23年度）

評価	% (件数)
そう思う	19.0 (617)
ややそう思う	29.7 (967)
どちらともいえない	43.9 (1426)
あまりそうは思わない	4.7 (154)
そう思わない	2.7 (88)

資料5-2-②-B 保健科学部「授業計画書に従い、適切なスピードで進められたか」に関する学生アンケートの集計（平成23年度）

評価	% (件数)
強くそう思う	42.0 (887)
ややそう思う	23.9 (505)
どちらともいえない	26.2 (553)
あまりそうは思わない	4.7 (99)
まったくそう思わない	3.2 (69)

・別添資料5-2-②-1 シラバスの項目の記載内容・記載方法等

【分析結果とその根拠理由】

観点に係る状況のとおり、教育課程の趣旨に沿った適切なシラバスが作成され、活用されていると判断する。

ただし、産業技術学部のシラバスについては、アンケートの結果において「そう思う」「ややそう思う」の合計が48.7%と過半数に満たない現状にあるため、シラバスの内容を更に充実し、学生に周知する必要がある。

観点5-2-③： 自主学習への配慮、基礎学力不足の学生への配慮等が組織的に行われているか。

【観点に係る状況】

両学部の教員は、オフィスアワーを設け、学生の個別質問及び相談などに対応している。また、障害者高等教育研究支援センター教員を含めた正・副のクラス担当教員により、出席状況、成績及び生活状況等の情報を交換し、きめ細かな対処が行える体制を整えている。

産業技術学部では、2年次の英語では能力別クラスの授業を行っているとともに、英語、数学、物理学、解析学の基礎学力不足の学生に対しては、非常勤講師による補習授業等を実施している（前掲資料5-1-②-J）。さらに、学科・専攻単位で学生の学習状況や学習到達度、授業内容に関する情報の交換を継続的に行い、教育指導に役立てている。

保健科学部では、「あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師」「理学療法士」の国家試験及び「ITパスポート試験」「情報処理技術者試験」の資格試験に必要な専門科目の基礎学力が不足している者に対する補習を実施している（前掲資料5-1-②-K）。また、学生による自主勉強グループを教員が支援している（資料5-2-③-A）。

質の高い大学教育推進プログラム（教育 GP）「携帯型端末を用いた弱視学生の資格試験対策」では、学生に対し授業時間外に閲覧可能なDVD教材を提供するとともに視覚障害者の運動不足を解消するため、運動体力分析クラブを組織するなど、自主的な学習が行えるよう支援している（資料5-2-③-B）。

資料5-2-③-A 保健科学部自主勉強グループの活動

学科・専攻	内容
保健学科鍼灸学専攻	1)4年次生を対象とした国家試験対策補習（月・木曜日各3コマ24週）を教員持ち回りで開講。 2)DVDを用いたアドバンス補習（週3回）を特任助教・特任研究員担当で開講 3)筑波大学理学療法科教員養成施設進学希望学生を対象に受験対策補講（週1~0.5回）を開講している。

保健学科理学療法学専攻	1) 学年毎に、グループによる解剖・生理学等、国家試験の勉強会を、週1回程度開催 2) サークル「つくばケーシーズ」で勉強会や施設見学会
-------------	---

(視覚障害系支援課作成)

資料5-2-③-B 運動体力分析クラブの活動

内 容	<p>春季-ダイエットコース 秋季-筋力増強コースおよび持久力向上コース</p> <ul style="list-style-type: none"> ・摂取カロリー(1週間の摂取日記)・消費カロリー(株式会社スズケンライフコーダEXをコース開講期間装着) ・血圧・脈拍の測定および評価: 収縮時血圧, 拡張時血圧, 心拍数 ・形態測定の測定および評価: 身長, 体重, 体脂肪率, BMI, 上腕最大周径, 前腕周径, 腹囲, 殿囲 ・運動強度の測定および評価: ライフコーダEX, 平均および合計消費カロリー(1週間) ・短期(3カ月間)および長期目標(6カ月間)の設定: 形態測定の結果に基づいて設定 到達予測期間の推定: 摂取カロリーおよび平均消費カロリーから日数換算 <p>モニタリング(運動強度の推移は1回/週, 形態推移は1回/月)</p>
参加学生	理学療法学専攻, 鍼灸学専攻
活動頻度	毎週水曜日
指導教員	理学療法学専攻特任助教, 理学療法学専攻特任研究員

(視覚障害系支援課作成)

【分析結果とその根拠理由】

観点に係る状況のとおり、自主学習への配慮、基礎学力不足の学生への配慮等が組織的に行われていると判断する。

観点5-2-④: 夜間において授業を実施している課程(夜間学部や昼夜開講制(夜間主コース))を置いている場合には、その課程に在籍する学生に配慮した適切な時間割の設定等がなされ、適切な指導が行われているか。

【観点に係る状況】

該当なし

【分析結果とその根拠理由】

該当なし

観点5-2-⑤: 通信教育を行う課程を置いている場合には、印刷教材等による授業(添削等による指導を含む。), 放送授業, 面接授業(スクーリングを含む。)若しくはメディアを利用して行う授業の実施方法が整備され、適切な指導が行われているか。

【観点に係る状況】

該当なし

【分析結果とその根拠理由】

該当なし

観点5-3-①： 教育の目的に応じた成績評価基準や卒業認定基準が組織として策定され、学生に周知されており、これらの基準に従って、成績評価、単位認定、卒業認定が適切に実施されているか。

【観点到に係る状況】

成績評価基準、卒業認定基準については「国立大学法人筑波技術大学学則」（資料5-3-①-A）及び「国立大学法人筑波技術大学履修規程」（前掲資料5-1-①-I）により定められており、学生便覧で学生に周知している。

成績評価基準は「国立大学法人筑波技術大学学則」第32条に定める成績の評語をもって表す。両学部とも、授業担当教員が期末試験及びレポートの成績と受講状況等を総合して判断し、A（80点以上）、B（70～79点）、C（60～69点）及びD（59点以下）の4段階評価を行い、A、B、Cを合格としている（資料5-3-①-B）。これらの成績評価基準は、学生便覧に明記し、学生全員に配布している。また、オリエンテーション及び初回授業時に、シラバスに記載してある事項に基づき、成績の基準を説明している。実際の成績評価、単位認定基準は、シラバスに明示されており、ウェブサイトなどで閲覧が可能となっている（資料5-3-①-C）。

卒業認定基準は、「国立大学法人筑波技術大学学則」に基づき、本学に4年以上在学し、所定の授業科目を履修し、かつ、124単位以上を修得したのものには、卒業の認定を行う基準を策定している。卒業認定基準は、学科ごとに作成し、学生便覧に明記するとともに、学生全員に配布している。

具体的な成績評価は、筆記・実技試験、レポート及び授業への取組状況を総合して、4段階評価で行われている。また、成績評価を受けるためには、授業を2/3以上の出席を必要条件とし、欠席した学生には、期末試験の受験資格がないことが学生便覧に明記されている。

卒業判定は、教授会の議を経て、学長が卒業認定を行っている（資料5-3-①-D）。

資料5-3-①-A 国立大学法人筑波技術大学学則（抜粋）

（成績評価基準等の明示等）

第27条 学部長は、学生に対して、授業科目の方法及び内容並びに一年間の授業の計画をあらかじめ明示するものとする。

2 学部長は、学修の成果に係る評価及び卒業の認定に当たっては、客観性及び厳格性を確保するため、学生に対してその基準をあらかじめ明示するとともに、当該基準にしたがって適切に行うものとする。

資料5-3-①-B 国立大学法人筑波技術大学試験実施要項（抜粋）

（授業科目の試験の結果報告）

5 当該授業担当教員は、試験期間終了後10日以内に、卒業又は修了判定に係る試験結果については試験期間終了後4日以内に、別表第1に定める報告記号により試験の結果を学部長又は研究科長（以下「学部長等」という）に報告しなければならない。

（略）

別表第1（第5項関係）

報告記号	評語	基準及び摘要
A（優）	A	100点満点法による100点から80点まで
B（良）	B	100点満点法による79点から70点まで

C (可)	C	100 点満点法による 69 点から 60 点まで
D (不合格)	D	100 点満点法による 59 点以下
H (保留)		成績報告の際特別の事情により評価を保留する場合
K (欠席)		試験に欠席した場合

(注) H又はKの記号をもって報告したものについては、追試験に係る成績の報告期限までに正規の評語をもって再報告しなければならない。

資料5-3-①-C シラバスに明示された成績評価例

区分：専門教育系科目 中核領域系科目 保健科学理学療法学専攻 必修
 科目名：整形外科疾患理学療法学 (D9220) Orthopedic Physical Therapy
 単位数：2 単位
 履修年次：3 年次
 担当教員：省略
 実施期間、曜時限、使用教室：第 1 学期、金曜、1 時限、運動療法室
 授業概要：骨折、変形性膝関節症、大腿骨頸部骨折、変形性股関節症、腰痛の理学療法について学ぶ。
 学習到達目標：骨折、変形性膝関節症、大腿骨頸部骨折、変形性股関節症、腰痛について理解し、それらの理学療法について基本的手技を習得する。
 授業計画：第 1 回 シラバスを用いたガイダンス。骨折について理解する。(キーワード 問題点、検査・測定・評価)
 第 2 回 骨折の理学療法について理解する (キーワード 運動療法)
 第 3 回 骨折の実技について習得する (キーワード 実技)
 第 4 回 大腿骨頸部骨折の理学療法について理解する (キーワード) 原因、分類、手術の種類、
 第 5 回 大腿骨頸部骨折について理解する (キーワード 老人に起きやすい理由、治療法、理学療法)
 第 6 回 変形性股関節症について理解する (キーワード 評価、術後プログラム、歩行分析)
 第 7 回 変形性股関節症 について理解する (キーワード 実技、歩行)
 第 8 回 変形性膝関節症 実技について理解する (キーワード 特徴、評価、手術法)
 第 9 回 変形性膝関節症 について理解する (キーワード 術後プログラム、理学療法)
 第 10 回 変形性膝関節症 について理解する (キーワード 実技、歩行分析)
 第 11 回 腰痛 について理解する (キーワード 解剖、問診、視診)
 第 12 回 腰痛の理学療法 について理解する (キーワード 触診、運動検査、SLR)
 第 13 回 腰痛の理学療法について理解する (キーワード 腰痛体操、腰痛の軽減・予防)
 第 14 回 演習 (キーワード 問題、実技)
 第 15 回 演習 (キーワード 問題、実技)
 教科書：なし、資料は適宜配布
 参考書：なし
 成績評価方法：筆記試験 70%、レポート 30%、59 点以下の学生に再試験を実施。
 視覚障害補償への配慮：墨字テキストあり、活字の大きさは選択できる
 オフィスアワー：月、金 15:00~18:00
 教員の専門分野：省略

(出典：平成 23 年度保健学部保健学科シラバス)

資料5-3-①-D 国立大学法人筑波技術大学学則 (抜粋)

(卒業)
 第 3 5 条 学長は、本学に 4 年以上在学し、別に定める所定の授業科目を履修し、かつ、1 2 4 単位以上を修得した者について、各学部教授会の議を経て、その卒業を認定する。

【分析結果とその根拠理由】

観点に係る状況のとおり、教育の目的に応じた成績評価基準や卒業認定基準が組織として策定され、学生に周知されており、これらの基準に従って、成績評価、単位認定、卒業認定が適切に実施されていると判断する。

観点5-3-②： 成績評価等の正確さを担保するための措置が講じられているか。

【観点到係る状況】

成績評価等の正確さの担保については、成績評価の方法をシラバスに明示し、成績評価基準に沿った評価を行っている（前掲資料5-3-①-C）。また、必要な学生に対して答案の返却、成績の結果報告を行うとともに、それに関する問合せ等について、責任をもって実施している。

【分析結果とその根拠理由】

観点到係る状況のとおり、成績評価等の正確さを担保するための措置が適切に講じられていると判断する。

<大学院課程>

観点5-4-①： 教育の目的や授与される学位に照らして、教育課程が体系的に編成されており、授業科目の内容が、全体として教育課程の編成の趣旨に沿ったものになっているか。

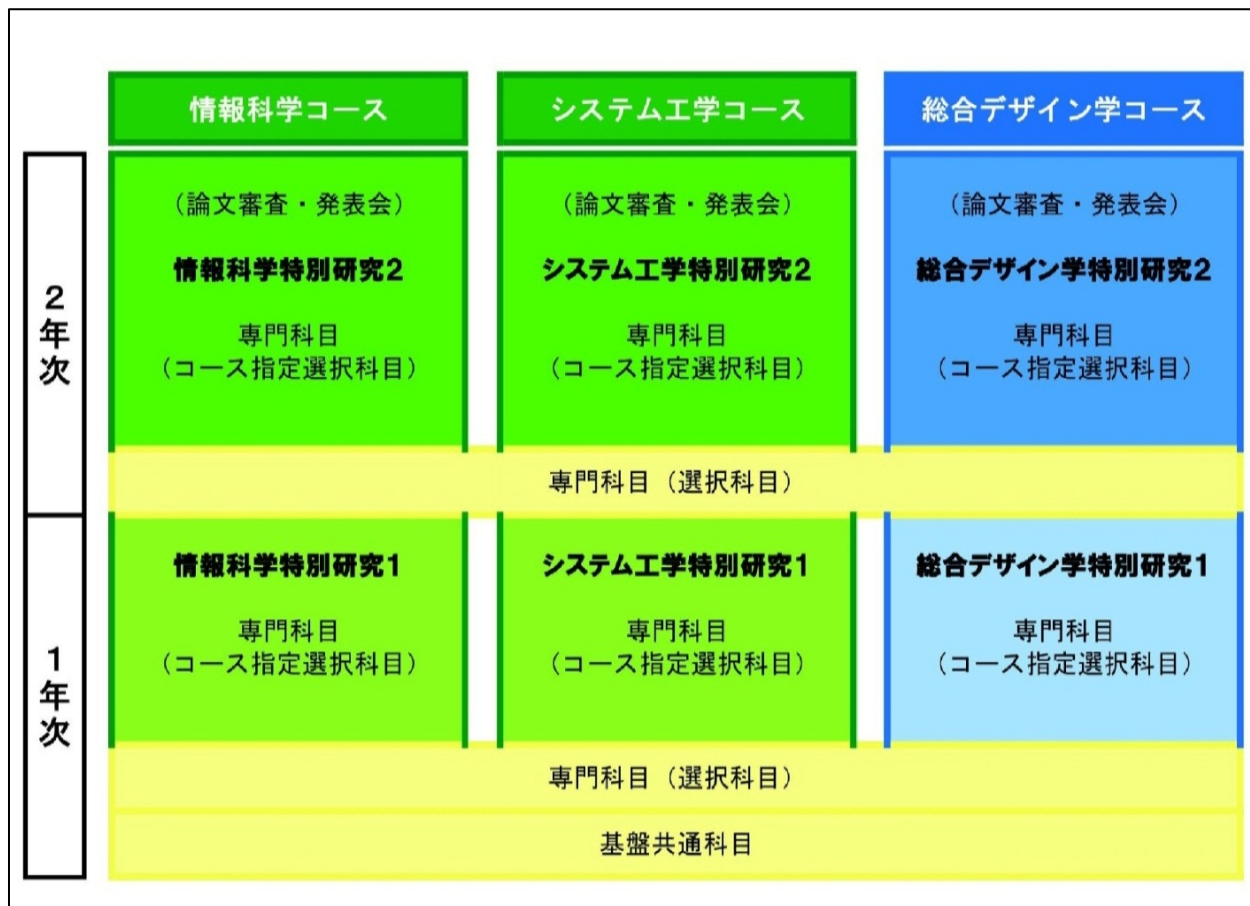
【観点到係る状況】

本学の教育理念、教育目的に即して、大学院、各専攻の教育目的が定められている。技術科学研究科産業技術学専攻は、聴覚障害者の社会的自立・参画・貢献はもとより、専門領域に関する系統的な専門知識を持ち、生産の現場において中核的な役割を担う高度専門職業人を育成することを目指している。そのために、狭い研究領域に限定せず、学部の特門分野を基礎に情報科学コース、システム工学コース及び総合デザイン学コースの三つの領域に分類し、幅広い高度な知識や能力を身に付けることができる体系的かつ学際的な教育プログラムを用意している（資料5-4-①-A, B）。

同研究科保健科学専攻は、視覚障害者の社会的自立・参画・貢献はもとより、専門領域に関する系統的な専門知識と技術を持ち、社会において中核的な役割を担う高度専門職業人を育成することを目指している。そのために、専門領域に限定せず、社会から要請されている幅広い知識や能力が身につく体系的かつ学際的な教育内容を含む教育課程を用意している。そのために、学生が学際領域を含め、更に高度な専門教育を受け、研究ができるように、学部の特門分野を基礎に鍼灸学コース、理学療法学コース及び情報システム学コースを設置している（資料5-4-①-C, D）。

専攻ごとに授与される学位は、「国立大学法人筑波技術大学学位規程」に定めている（資料5-4-①-E）。授業科目については、「国立大学法人筑波技術大学大学院履修規程」に定めており、教育理念に沿ったカリキュラムを編成している（資料5-4-①-F）。各専攻の修了単位数については、資料5-4-①-Gのように定めている。

資料5-4-①-A 教育課程概念図（産業技術学専攻）



(聴覚障害系支援課作成)

資料5-4-①-B 履修モデル（産業技術学専攻情報科学コースの例）

<産業技術学専攻 情報科学コース>

履修目標：情報メディア環境の構築，改善に貢献できる人材の育成

1 学生の履修目標
 情報科学に関する最先端知識とその基礎となる諸理論・技術を修得し，システムの設計，構築，評価という一連のプロセスをとおしてユーザのニーズにあったシステムを構築する応用力を身につける。

2 修士論文テーマ
 携帯型情報端末を利用した聴覚障害者支援システムの構築

3 履修科目

区分	授業科目	単位数	学修内容
基盤 科目	産業技術学セミナー	2	産業技術の概略，プレゼン技術を学ぶ。
	情報コミュニケーション学特論	2	情報科学分野の最新技術を学ぶ。
	ユニバーサルデザイン特論	2	総合デザイン学分野の最新技術を学ぶ。
専門 指定 指	ソフトウェアシステム構成論	2	OS，言語を含む実際のシステム構成を学ぶ。

		コミュニケーション科学特論	2	具体的な実験手法や評価方法について学修する。	
		情報保障システム工学特論	2	情報保障システムの最先端技術を学ぶ。	
		3Dグラフィックス特論	2	3D画像生成・表示手法について理解する。	
		マルチメディア応用論	2	メディア統合による情報活用について理解する。	
	科目 選択	ヒューマンインタフェース特論	2	人とPCとのインタフェース技術を理解する。	
		産業技術学特別実習	2	就業体験を通じ、研究内容と企業活動との関連性を理解する。	
	特別 研究 産業 技術 学	情報科学特別研究1	4	情報科学の研究テーマに関する高度な専門的な知識を修得する。	
		情報科学特別研究2	6	情報科学の研究課題を追求し、修士論文をまとめる。	
	合 計			30	

4 教育・研究の概要

コース指定選択科目の「3Dグラフィックス特論」「マルチメディア応用論」は情報メディア分野の基礎科目であり、聴覚情報と視覚情報を用いた聴覚障害者支援システムを作成するための基盤として、最先端の情報メディア技術について習得させる。また「ソフトウェアシステム構成論」によりソフトウェアによるシステムを構築する際の実践的な内容を理解させる。これに加えて、「コミュニケーション科学特論」、選択科目の「ヒューマンインタフェース特論」により聴覚障害者のコミュニケーション支援の応用技術や感覚代行とその実験方法・評価方法を教授する。

さらに、共通科目において「産業技術学セミナー」「情報コミュニケーション学特論」「ユニバーサルデザイン特論」の科目を受講することによって、情報科学、システム工学、総合デザイン学に関する最新技術の動向についての理解を深めさせる。

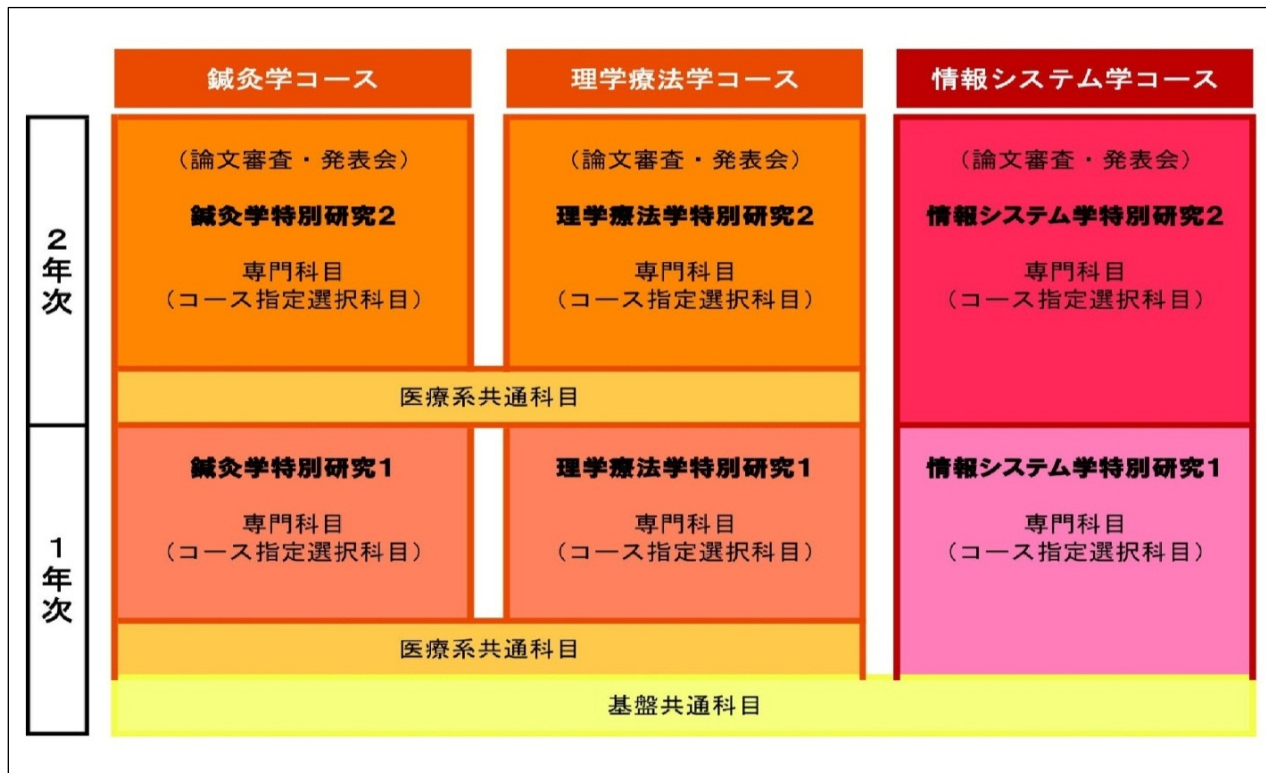
以上の学修と並行し、企業の協力による「産業技術学特別実習」によって先端技術を体験させ、これまで学んだ産業技術と企業活動の関連性を理解させ、教育機関だけでなく企業における聴覚障害者のニーズを把握し研究課題を明確にした上で産業技術学特別研究に取り組む。「情報科学特別研究1」「情報科学特別研究2」では、「携帯型情報端末を利用した聴覚障害者支援システムの構築」をテーマとする修士論文を作成するために、システムの設計、構築、評価、改良の論理的な手順に沿って研究課程を進められるように指導する。また、実際に聴覚障害者が利用してもらいユーザビリティ評価を行うことにより実践的で専門的な研究に取り組ませる。これらの経験によって、情報科学を探究することができる能力を修得させる。

5 予想される進路先

- ① 情報、電機関連の企業の総合職や研究職（障害者支援機器の開発等）
研究教育機関における研究者、教育者
他大学の博士後期課程への進学

（出典：筑波技術大学大学院設置計画書）

資料5-4-①-C 教育課程概念図（保健科学専攻）



(視覚障害系支援課作成)

資料5-4-①-D 履修モデル（保健科学専攻鍼灸学コースの例）

<保健科学専攻 鍼灸学コース>

履修目標： 医療機関において各診療科目に対応した専門的な鍼灸手技治療を提供できる人材の育成

1 学生の履修目標

現代医学に基づき病態を把握し鍼灸治療への適否を鑑別した上で、東西医学を統合した鍼灸手技治療の実践ができること。

2 修士論文テーマ

高齢者の腰痛に対する鍼灸手技療法の効果に関する研究

3 履修科目

区分		授業科目の名称	単位数	学修内容
基盤科目	共通科目	保健科学セミナー	2	研究課題を論文に仕上げる過程を学ぶ。
専門科目	医療系コース共通科目	解剖学特論 (機能解剖学)	2	鍼灸手技療法及び理学療法の実践に必要な機能解剖を学ぶ。
		生理学特論 (運動生理学・自律神経生理学)	2	鍼灸手技療法及び理学療法の理解に必要な生理学を学ぶ。
		臨床医学特論B (神経内科学)	2	鍼灸手技療法師に必要な各種の神経疾患について理解を深める。

コース指定選択科目	手技療法学特論	2	各療法の歴史, 技術, 理論, 科学的背景について実践的に学ぶ。
	鍼灸学特論	2	鍼灸刺激の生体に及ぼす作用と効果について学ぶ。
	鍼灸手技療法研究技術論	1	鍼灸手技療法の研究に必要な研究手法を学ぶ。
	臨床鍼灸手技療法学特論B (現代鍼灸手技療法学)	1	現代医学と伝統医学を統合した実践的鍼灸治療法を学ぶ。
	臨床鍼灸手技療法学演習B (現代鍼灸手技療法学)	2	現代医学と伝統医学を統合した鍼灸治療の実際を実習する。
	総合臨床鍼灸学 1 C (老年系疾患臨床)	3	高齢者特有の疾患に対する鍼灸治療を臨床的に学ぶ。
	総合臨床鍼灸学 2 B (スポーツ系疾患臨床)	3	スポーツ系疾患の鍼灸治療を臨床的に学ぶ。
保健科学 特別研究	鍼灸学特別研究 1	4	鍼灸手技療法に関する基礎・臨床研究の方法を学修する。
	鍼灸学特別研究 2	4	テーマを設定し研究発表及び論文の作成をする。
合 計		30	

4 教育・研究の概要

「保健科学セミナー」では、まず研究に必要な一般的な論文作成の方法と課程を学ぶ。「手技療法学特論」「鍼灸学特論」では、各々の分野における研究を幅広く取り上げ知識を広め、「鍼灸手技療法研究技術論」では、研究のための技法を学ぶ。

「解剖学特論(機能解剖学)」「生理学特論(運動生理学・自律神経生理学)」「臨床医学特論B(神経内科学)」では、鍼灸臨床に必要な基礎医学及び臨床医学の知識を深め、東西医学を統合した治療計画を立案できる力を養う。

「臨床鍼灸手技療法学特論B(現代鍼灸手技療法学)」「臨床鍼灸手技療法学演習B(現代鍼灸手技療法学)」では、鍼灸臨床に必要な東洋医学の理論及び治療技術を習得し、臨床現場での対応力を養う。

「総合臨床鍼灸学 1 C(老年系疾患臨床), 同 2 B(スポーツ系疾患臨床)」では、本学附属東西医学統合医療センターにおける患者の実例を取り上げながら総合的な学修を行い、研究テーマに必要な分野の知識を深める。

「鍼灸学特別研究 1, 同 2」においては、基礎実験や鍼灸臨床に従事することにより、研究のテーマの遂行に必要なデータの収集・分析を行い、論文を執筆する。これら一連の学修及び臨床研究を進めることにより、鍼灸治療効果を探求するために必要な専門知識の修得ができ、能力が涵養される。

5 予想される進路先

- ① 医療機関内各科における鍼灸治療専門実践家
- ② 教育機関における鍼灸臨床の専任指導者
- ③ 医療系大学院の博士後期課程への進学

(出典：筑波技術大学大学院設置計画書)

資料5-4-①-E 学位（専攻分野の名称）

(専攻分野の名称)

第7条 (略)

2 修士の学位を授与するに当たって、付記する専攻分野の名称は、次のとおりとする。

研究科	専攻	学位（専攻分野の名称）
技術科学研究科	産業技術学専攻	修士（工学） 修士（デザイン学）
	保健科学専攻	修士（鍼灸学） 修士（理学療法学） 修士（工学）

(出典：国立大学法人筑波技術大学学位規程)

資料5-4-①-F 国立大学法人筑波技術大学大学院履修規程

http://www.tsukuba-tech.ac.jp/assets/files/soumu/kisoku/kyoumu/08-17.pdf

資料5-4-①-G 修了要件単位数一覧

【産業技術学専攻】

情報科学・システム工学・総合デザイン学コースの履修単位

科目区分		履修単位数	
基盤科目	共通科目	6単位以上	
専門科目	コース指定選択科目	14単位以上 (コース指定科目8単位以上を含む)	
	選択科目		
	産業技術学特別研究	情報科学特別研究1	10単位 (コース指定の特別研究)
		情報科学特別研究2	
システム工学特別研究1			
システム工学特別研究2			
	総合デザイン学特別研究1		
	総合デザイン学特別研究2		
合計		30単位以上	

【保健科学専攻】

鍼灸学コースの履修単位

科目区分		履修単位数
基盤科目	共通科目	2単位以上
専門科目	医療系コース共通科目	6単位以上
	コース指定選択科目	14単位以上
	保健科学特別研究	鍼灸学特別研究1
鍼灸学特別研究2		
合計		30単位以上

理学療法学コースの履修単位

科目区分		履修単位数	
基盤科目	共通科目	2 単位以上	
専門科目	専門科目	医療系コース共通科目	8 単位以上
		コース指定選択科目	12 単位以上
	保健科学特別研究	理学療法学特別研究 1 理学療法学特別研究 2	8 単位
合 計		30 単位以上	

情報システム学コースの履修単位

科目区分		履修単位数	
基盤科目	共通科目	6 単位以上	
専門科目	専門科目	コース指定選択科目	16 単位以上
	保健科学特別研究	情報システム学特別研究 1 情報システム学特別研究 2	8 単位
合 計		30 単位以上	

(聴覚障害系支援課, 視覚障害系支援課作成)

【分析結果とその根拠理由】

観点に係る状況のとおり、教育の目的や授与される学位に照らして、教育課程が体系的に編成されており、授業科目の内容は、教育課程の編成の趣旨に沿ったものになっていると判断する。

観点 5-4-②： 教育課程の編成又は授業科目の内容において、学生の多様なニーズ、研究成果の反映、学術の発展動向、社会からの要請等に配慮しているか。

【観点に係る状況】

各専攻内のコースの各々において、各専門分野の専門性を高めるとともに、研究を遂行し、論文をまとめる能力を育成するための教育課程を編成している（資料 5-4-②-A）。

専攻全体を通じた効果的・弾力的な履修ができるように配慮し、① Semester 制の導入、② 学際領域科目の幅の広い選択、③ 短期集中授業の効果的な導入、④ 本学の特色である障害者支援研究関連授業と各専門領域との融合等により、高度専門職業人や研究者として活躍できる人材の育成を目指す教育研究を展開している。

また、各コースに共通した「基盤科目」として、幅広い基礎知識とともに、各専門分野の知識技術を背景とした障害補償法を学ぶ科目を開設している。障害を自らが克服し、持っている能力を成長させ、発揮できる能力を補うためには、個々の障害に応じた情報の取得や発信方法を学ぶことは必須のことであり、これらの科目を通して、在学中の学修と研究並びに高度専門職業人及び研究者としての活動において必要となる障害補償法をも学べるように配慮している。

資料 5-4-②-A 教育課程の編成の考え方及び特色

専攻	内容
技術科学研究科 産業技術学専攻	<p>ア 各コースに共通した「基盤科目」として、産業技術の幅広い基礎知識とともに、各専門分野の知識技術を背景とした「聴覚障害福祉工学」などの聴覚障害補償法を学ぶ科目を開設している。「情報コミュニケーション学特論」や「ユニバーサルデザイン特論」などの科目をとおして、在学中の学修と研究並びに高度専門職業人や研究者としての活動において必要となる障害に応じた情報の取得や発信方法をも学べるように配慮している。マネジメント能力については「産業技術学セミナー」において研究計画を学び、また、「産業技術学特別実習(大学院インターンシップ)」を配置し、育成できるよう配慮している。</p> <p>イ 情報科学コースでは、「ソフトウェアシステム構成論」「コミュニケーション科学特論」などの科目を開設し、多岐にわたり急速に発展し続ける情報ネットワークの本質を理解し、新たな技術を研究開発することのできる高度な専門技術者を育成するカリキュラムになっている。「コンピュータビジョン論」などの科目を開設し、企業等における研究・開発業務、さらには研究者を目指し、大学院博士課程への進学希望者にも対応できるよう配慮している。</p> <p>ウ システム工学コースでは、「情報駆動生産工学」「環境行動学特論」などの科目を開設し、人間とシステム間の相互インターアクションにおける問題を新たに見出し、具体的な解答を示すことのできるリーダー的な技術者を育成するカリキュラムになっている。「流体工学特論」などの科目を開設し、研究者を目指し、大学院博士課程への進学希望者にも対応できるよう配慮している。</p> <p>エ 総合デザイン学コースでは、「感性情報デザイン特論」「共生ユーザビリティ特論」などの科目を開設し、人間の五感の特性を考慮したシステムや人間の行動や創造的活動を支援するシステムを構築でき、産業構造の変化や技術の高度化に的確に対応できる専門技術者を育成するカリキュラムになっている。各自の専門分野、研究テーマに合わせて、コース指定選択科目や選択科目を組み合わせ選択することによって、技術者として必要な専門性を高めるとともに、コースを横断する選択科目を組み合わせることによって、幅広い知識を有した技術者、研究者の育成にも対応できるよう配慮している。</p>
技術科学研究科 保健科学専攻	<p>ア 障害を自らが克服し、持っている能力を成長させ、発揮できる能力を養うには、個々の障害に応じた情報の取得や発信方法を学ぶことは必須のことであり、「障害補償機器特論」や「視覚情報処理特論」などの科目をとおして、在学中の学修と研究並びに高度専門職業人や研究者としての活動において必要となる視覚障害補償法を学べるよう配慮している。</p> <p>イ 鍼灸学コースでは、「解剖学特論」「生理学特論」「臨床医学特論A～E」の西洋医学と「臨床鍼灸手技療法学特論A(古典鍼灸学)」「同B(現代鍼灸手技療法学)」等の東洋医学を融合した統合医学を目指したカリキュラムを構成しており、講義と演習を併せた「総合臨床鍼灸学・演習1A～2E」を開設している。これらは、修了後の進路に対応しており、高度専門職業人を目指すための科目として設定している。また、東西統合医療をさらに極めることを目指す研究志向の学生に対しては「解剖学特論」「生理学特論」「衛生学特論」「臨床医学特論A～E」「鍼灸手技研究技術論」などの授業科目を開設している。さらに、各専門科目に関しても附属東西統合医療センター内での演習を設定しており、他の医療従事者との共同作業や実習中の学部学生への助言や施術補助を行う機会を提供し、マネジメント能力や障害者のリーダーとしての資質向上を図っている。また、共通科目として「視覚情報処理特論」などの障害補償に関する科目を設定しており、視覚障害者のリーダーとしての必要な知識が学べるよう配慮している。</p> <p>ウ 理学療法学コースでは、今後重要性が増す地域医療・福祉における理学療法に対応するため、専門職業人を目指す科目として「福祉用具・生活環境支援特論」「物理療法学特論・演習」「徒手理学療法学特論・演習」などの科目を設定している。また、視覚に障害を持つ学生が視覚に頼らず、触覚を有効に活用した理学療法を学ぶための「徒手理学療法学特論・演習」の科目を設定している。そして臨床研究を更に極めることを指向する学生のために「解剖学特論」「生理学特論」「臨床医学特論C」などの科目を準備している。さらに、各専門科目の演習においては、学部学生への助言や計画立案並びに実技の補助を行う機会を提供し、マネジメント能力や障害者のリーダーとしての資質向上を図っている。また、学内外医療関係者との共同研究を推進する等の研究指導を通じて、学会活動等による健常者や視覚障害者との交流の機会を多数設け、視覚障害者のリーダーとしての必要な知識が学べるよう配慮している。</p>

エ 情報システム学コースでは、学部教育を踏まえた多様な専門的内容の科目を設けている。特に、「情報工学・感覚工学特論」と「情報システム学特別研究1」の中で、コース全教員から最新の研究話題を提供することにより、情報工学の専門分野と視覚障害補償を主とした感覚工学との関連を修得することで、例えば、「点図ディスプレイに表示された移動物体の認識に関する研究」などを発展させた新たな補償工学を産出することを目指したカリキュラムとなっている。通常の情報工学専攻で履修される講義内容の上に、基盤科目である視覚障害支援科目を合わせて履修することで、障害補償技術も修めることができる教育課程である。インターンシップなどのように企業実習や学外演習を行う科目はないが、研究指導を通じて学会活動等による交流機会を多数設けている。

(聴覚障害系支援課, 視覚障害系支援課作成)

【分析結果とその根拠理由】

観点に係る状況のとおり、教育課程の編成又は授業科目の内容において、学生の多様なニーズ、研究成果の反映、学術の発展動向、社会からの要請等に配慮していると判断する。

観点 5-4-③： 単位の実質化への配慮がなされているか。

【観点に係る状況】

大学院の授業は、学部の授業と比べ受講人数が少ないため、教員は学生の修学状況が把握でき、学生個々の理解の程度に応じた学習方法や予習、復習における課題を示すなどの指導を徹底できるなど、単位の実質化を図っている。

また、シラバスには、授業の目的や参考書のほかに単位の取得要件や成績評価方法などを記載している（資料 5-4-③-A）。

これら以外にも、自主学习環境として、各コースに大学院研究室（自習室）も整備し、研究を進める上での学習環境の充実が図られている。

資料 5-4-③-A 授業計画（シラバス）

- ・産業技術学専攻
http://www.tsukuba-tech.ac.jp/department/grad_school/grad_school_it_syllabus.html
- ・保健科学専攻 http://www.tsukuba-tech.ac.jp/department/grad_school/grad_school_hs_syllabus.html

【分析結果とその根拠理由】

観点に係る状況のとおり、単位の実質化への配慮がなされていると判断する。

観点 5-5-①： 教育の目的に照らして、講義、演習、実験、実習等の授業形態の組合せ・バランスが適切であり、それぞれの教育内容に応じた適切な学習指導法の工夫がなされているか。

【観点に係る状況】

各専攻では、教育の目的に照らして、講義、演習、実習など様々な形態の授業をバランス良く組み合わせている（資料 5-5-①-A, B）。また、産業技術学専攻では、インターンシップを取り入れるなど、指導方法の工

夫を行っている（資料5-5-①-C）。

資料5-5-①-A 産業技術学専攻 各コースの授業形態別開講科目数

授業形態	情報科学	システム工学	総合デザイン学
講義	20	22	21
演習	3	3	3
実習, 実験等	1	1	1
合計	24	26	25

(聴覚障害系支援課作成)

資料5-5-①-B 保健科学専攻 各コースの授業形態別開講科目数

授業形態	鍼灸学	理学療法学	情報システム学
講義	16	16	16
演習	6	3	5
講義, 演習	10	4	0
合計	32	23	21

(視覚障害系支援課作成)

資料5-5-①-C インターンシップ実施状況 技術科学研究科産業技術学専攻

授業科目名	学年	学期	実習単位	実習施設名
産業技術学特別実習	1	2	2	オイシックス株式会社, 東京メディカルシステムズ株式会社, シャープ株式会社

(聴覚障害系支援課作成)

【分析結果とその根拠理由】

観点に係る状況のとおり、教育の目的に照らして、講義、演習、実験、実習等の授業形態の組合せ・バランスが適切であり、それぞれの教育内容に応じた適切な学習指導法の工夫がなされていると判断する。

観点5-5-②： 教育課程の編成の趣旨に沿って適切なシラバスが作成され、活用されているか。

【観点に係る状況】

新入生については、オリエンテーションを行い、教育の目標、コースの内容やカリキュラムのスケジュール、修了要件等について説明している。すべての授業について、シラバスで授業の目的から成績評価方法までを記載し、ウェブサイトで公開している（前掲資料5-4-③-A）。

【分析結果とその根拠理由】

観点に係る状況のとおり、教育課程の編成の趣旨に沿って適切なシラバスが作成され、活用されていると判断する。

観点 5-5-③： 夜間において授業を実施している課程（夜間大学院や教育方法の特例）を置いている場合には、その課程に在籍する学生に配慮した適切な時間割の設定等がなされ、適切な指導が行われているか。

【観点に係る状況】

該当なし

【分析結果とその根拠理由】

該当なし

観点 5-5-④： 通信教育を行う課程を置いている場合には、印刷教材等による授業（添削等による指導を含む。）、放送授業、面接授業（スクーリングを含む。）、若しくはメディアを利用して行う授業の実施方法が整備され、適切な指導が行われているか。

【観点に係る状況】

該当なし

【分析結果とその根拠理由】

該当なし

観点 5-6-①： 教育課程の趣旨に沿った研究指導、学位論文（特定課題研究の成果を含む。）に係る指導の体制が整備され、適切な計画に基づいて行われているか。

【観点に係る状況】

指導教員と研究指導については、「国立大学法人筑波技術大学学則」（資料 5-6-①-A）及び「筑波技術大学大学院研究指導に関する規程」（資料 5-6-①-B）において定めている。学位論文の指導体制については、学生に配付される「開設授業科目一覧」に記載しており、適切な計画に基づいて研究指導等を行っている（資料 5-6-①-C）。

資料 5-6-①-A 国立大学法人筑波技術大学学則（抜粋）

（研究指導教員）

第 6 0 条 研究科長は、教育課程における授業科目の履修の指導及び研究指導を行うために、大学院運営委員会の議を経て、学生ごとに研究指導教員を定める。

資料 5-6-①-B 国立大学法人筑波技術大学大学院研究指導に関する規程（抜粋）

（研究指導の主旨導及び副指導）

第 2 条 大学院における研究指導の主旨導及び副指導は、学生の所属専攻の研究指導の専任教員がこれを行う。

資料5-6-①-C 修士論文作成のプロセス例（保健科学専攻）

1年次	1学期	修士論文研究の構想を練り、既存の関連研究の調査や必要な情報収集などを中心に研究基盤を整える。 研究の進め方を学ぶ過程で研究計画を立案し、7月末（予定）に、「保健科学セミナー」の研究デザイン報告会を開催する。 7月末（予定）までに指導教員、副指導教員（1名）及び研究計画を決定する。	「保健科学セミナー」、「特別研究1」を履修
	2学期	指導教員及び副指導教員のもとで、修士論文研究の構想を固め、研究能力の基盤を強化する。 文献調査、実験等の研究を遂行する。 1月末（予定）に、「保健科学セミナー」の中間報告会で発表する。	
2年次	1学期	文献調査、実験等の研究を遂行して論文を作成する。 7月中旬（予定）に「中間発表」を行い、レビューを受ける。	「特別研究2」を履修
	2学期	文献調査、実験等の研究を遂行して論文を作成する。 12月中旬（予定）に「予備審査」を受け、論文完成の最終段階へ進めるかどうかのレビューを受ける。	
		1月下旬（予定）に修士論文を提出する。 「最終発表」を行い、「口頭試験」の審査を受ける。	

（出典：平成23年度開設授業科目一覧）

【分析結果とその根拠理由】

観点に係る状況のとおり、教育課程の趣旨に沿った研究指導、学位論文に係る指導体制が整備され、適切な計画に基づいて行われていると判断する。

観点5-6-②： 研究指導、学位論文に係る指導に対する適切な取組が行われているか。

【観点に係る状況】

研究指導は主指導教員及び副指導教員による複数指導体制（前掲資料5-6-①-B）をとっており、それぞれの専攻の目的と特徴に応じた研究テーマの指導を行っている。また、研究テーマの決定は、学生の希望を重視しながら、両指導教員と学生との面談において決定している（別添資料5-6-②-1）。

・別添資料5-6-②-1 大学院技術科学研究科主指導教員・副指導教員一覧

【分析結果とその根拠理由】

観点に係る状況のとおり、研究指導、学位論文に係る指導に対する適切な取組が行われていると判断する。

観点5-7-①： 教育の目的に応じた成績評価基準や修了認定基準が組織として策定され、学生に周知されており、これらの基準に従って、成績評価、単位認定、修了認定が適切に実施されているか。

【観点に係る状況】

成績評価基準、修了要件は、「国立大学法人筑波技術大学学則」（資料5-7-①-A, B）に定めており、「学

生便覧」及び「シラバス」に掲載し、学生に周知している（資料5-7-①-C）。また、この規則に基づき、成績評価及び単位認定を実施している。

資料5-7-①-A 国立大学法人筑波技術大学学則（抜粋）

（成績の評価）

第32条 授業科目の成績は、A、B、C及びDの4種類の評語をもって表し、A、B及びCを合格とする。

（略）

（教育課程の編成）

第59条 教育課程は、本学、本大学院及び専攻の教育上の目的を達成するために必要な授業科目を自ら開設するとともに学位論文の作成等に対する指導（以下「研究指導」という。）の計画を策定し、体系的に編成するものとする。

2 研究科の授業科目及び単位数は、別に定める。

3 授業の方法、教育職員の免許に関する授業科目等、単位の計算方法、単位の授与及び成績の評価については、第25条第4項、第26条、第30条、第31条及び第32条の規定を準用する。

（略）

（成績評価基準等の明示等）

第63条 研究科は、授業及び研究指導の内容及び方法の改善を図るための組織的な研修及び研究を実施するものとする。

2 研究科長は、学修の成果及び学位論文に係る評価並びに修了の認定に当たっては、客観性及び厳格性を確保するため、学生に対してその基準をあらかじめ明示するとともに、当該基準に従って適切に行うものとする。

（略）

（修了）

第67条 学長は、本大学院に2年以上在学し、修了の要件として必要な授業科目を30単位以上修得し、かつ必要な研究指導を受けた上、学位論文の審査及び試験に合格した学生について、大学院運営委員会の議を経て、その修了を認定する。ただし、在学期間に関しては、優れた業績を上げた者については、大学院に1年以上在学すれば足りるものとする。

2 前項の場合において、研究科の目的に応じ、適当と認められるときは、特定の課題についての研究の成果の審査をもって、学位論文の審査に代えることができる。

3 修了の時期は、学年又は学期の終わりとする。

資料5-7-①-B 国立大学法人筑波技術大学試験実施要項（抜粋）

（授業科目の試験の結果報告）

5 当該授業担当教員は、試験期間終了後10日以内に、卒業又は修了判定に係る試験結果については試験期間終了後4日以内に、別表第1に定める報告記号により試験の結果を学部長又は研究科長（以下「学部長等」という）に報告しなければならない。

（略）

別表第1（第5項関係）

報告記号	評語	基準及び摘要
A（優）	A	100点満点法による100点から80点まで
B（良）	B	100点満点法による79点から70点まで
C（可）	C	100点満点法による69点から60点まで
D（不合格）	D	100点満点法による59点以下
H（保留）		成績報告の際特別の事情により評価を保留する場合
K（欠席）		試験に欠席した場合

（注）H又はKの記号をもって報告したものについては、追試験に係る成績の報告期限までに正規の評語をもって再報告しなければならない。

資料5-7-①-C シラバスに明示された成績評価例

授業科目名	流体工学特論	科目番号	S 2 2 0 3			
		科目区分	基盤科目 <input type="checkbox"/> 共通科目 専門科目 <input checked="" type="checkbox"/> コース指定選択科目 <input type="checkbox"/> 選択科目 <input type="checkbox"/> 特別研究			
英 訳	Advanced Fluid Engineering					
標準履修年次	1 年次	単位数	2 単位	学期・曜日・時限	2 学期, 火 5	
授業の形式	<input checked="" type="checkbox"/> 講義 <input type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実験 <input type="checkbox"/> 実習			使用教室等	315	
担当教員	省略					
授業の概要	非圧縮性粘性流体の運動について、ナビエ・ストークス方程式を基軸とした境界層理論の基礎的な知識の理解及びそれらの修得を目的とし、主にナビエ・ストークス方程式、境界層方程式、粘性流体の遅い流れ、二次元層流境界層、三次元層流境界層、乱流の構造について講義する。さらに、境界層理論の工学的応用、特に各種管内流れ及び各種物体まわりの流れについても講義する。					
授業の到達目標	境界層理論の理解とその知識を習得し、実際の粘性流体流れについての考察及び解説が出来るようにする。					
受講条件	なし					
教材、参考書	自作の講義ノート					
成績評価方法	期末試験の点数 70 点, レポートの点数 30 点の合計 100 点満点で評価し, 60 点以上を合格とする。					
キーワード	粘性流体, Navier-Stokes 方程式, 境界層理論, 層流境界層, 乱流境界層					
授業計画	授 業 内 容					
1	Navier-Stokes 方程式の厳密解の例					
2	粘性流体の遅い流れ					
3	二次元層流境界層 I (境界層の概念, 境界層方程式)					
4	二次元層流境界層 II (境界層の運動方程式)					
5	三次元層流境界層 I (回転対称体のまわりの層流境界層)					
6	三次元層流境界層 II (三次元境界層のハクリ)					
7	乱流の発生					
8	乱流理論 I (Reynolds 応力)					
9	乱流理論 II (混合距離と運動量輸送理論他)					
10	乱流理論 III (等方性乱流, 乱れのスケール他)					
11	管内の乱流					
12	平板のまわりの乱流境界層					
13	圧力勾配のある乱流境界層					
14	二次元物体まわりの流れ					
15	三次元物体まわりの流れ					

(出典：平成 22 年大学院技術科学研究科産業技術学専攻教育課程)

・別添資料 5-7-①-1

【分析結果とその根拠理由】

観点に係る状況のとおり、教育の目的に応じた成績評価基準、修了認定基準が組織として策定され、学生に周知されており、これらの基準に従って、成績評価、単位認定が適切に実施されていると判断する。

観点 5-7-②： 学位論文に係る評価基準が組織として策定され、学生に周知されており、適切な審査体制が整備されているか。

【観点到係る状況】

学位論文に係る評価基準については、専攻ごとに策定しており、その内容については専攻ごとに実施する修士論文に係るガイダンスにおいて、学生に周知している（資料 5-7-②-A）。また、学位論文審査体制については、「国立大学法人筑波技術大学技術科学研究科論文審査に関する細則」（資料 5-7-②-B）に基づき、審査体制を整備している。

資料 5-7-②-A 修士論文に関するガイダンス（産業技術学専攻の例）

平成 23 年度大学院技術科学研究科産業技術学専攻修士論文に関するガイダンス次第

1. 日 時 平成 23 年 4 月 27 日（水） 18 時～
2. 場 所 附属図書館セミナー室
3. 議 事 (1) 修士論文と課程修了について
(2) 筑波技術大学機関リポジトリ登録について
4. 配付資料 (1) 技術科学研究科の課程修了に係る主要日程
(2) 平成 23 年度大学院技術科学研究科（2 年次）指導教員等一覧
(3) 論文審査基準、得点評価の目安について
(4) 修士論文作成要領
研究計画書（2 年次修正用）
産業技術学専攻の中間発表会、最終発表会について
(5) 産業技術学専攻標準的学修プロセス
(6) 筑波技術大学機関リポジトリ登録書、記入例
参考資料 参照文献のまとめ方（参考：S I S T O 2-1997）

（出典：平成 23 年度大学院技術科学研究科産業技術学専攻修士論文に関するガイダンス次第）

資料 5-7-②-B 国立大学法人筑波技術大学技術科学研究科論文審査に関する細則（抜粋）

（学位論文の提出）

第 2 条 学位規程第 4 条に規定する学位論文（学則第 6 7 条第 2 項に規定する特定の課題についての研究の成果を含む。）は、在学期間中に研究科長に提出するものとし、提出時期等は、研究科長の定めるところによる。

2 提出された学位論文等は、返還しない。

（学位論文の受理及び審査の付託）

第 3 条 研究科長は、前条第 1 項の規定により学位論文を受理したときは、大学院運営委員会にその審査を付託するものとする。

（審査委員会）

第 4 条 前条の規定により学位論文の審査が付託されたときは、大学院運営委員会は、当該研究科の教授のうちから 3 名の審査委

員を選出し、当該学位論文の審査を行わせるものとする。

ただし、必要があるときは、当該研究科の教授以外の教員を審査委員として選出することができる。

2 大学院運営委員会は、学位論文の審査に当たって必要と認めるときは、前項の審査委員のうち、他の大学の大学院又は研究所等（外国の大学院又は研究所等を含む。）の教員等を審査委員として選出することができる。

（審査委員会の任務）

第5条 審査委員会は、当該論文審査等の専門的な検討を行い、判定案を作成するものとする。

（審査委員会の主査及び副査）

第6条 論文審査は、主査1名及び副査2名の計3名により行う。

2 主査は、学位申請学生の所属するコースの研究指導の専任教員で、当該論文審査等を行うにふさわしい研究業績を有する者とし、大学院運営委員会（以下「運営委員会」という。）が認定した者とする。この場合、学位申請学生の指導教員（副指導を含む。）は主査になれない。

3 副査は、当該論文審査等を行うにふさわしい研究業績を有する研究指導の専任教員又はそれに相当すると運営委員会が認定した者とする。

この場合、学位申請学生の指導教員（副指導を含む。）を副査に選出することは妨げない。

（審査委員会の主査の任務）

第7条 主査は、当該審査委員会を招集し、その議長となる。

2 主査は、論文審査等の判定案を作成したときは、速やかに運営委員会に論文審査等報告書を提出するものとする。

（審査委員会の主査及び副査の任期）

第8条 主査及び副査の任期は、当該審査委員会において論文審査等の合格又は不合格が判定された日までとする。

（学位論文の審査及び最終試験）

第9条 第3条の規定により受理した学位論文については、審査及び最終試験を行う。

2 最終試験は、学位論文を中心としてこれに関連する事項について口頭又は筆記により行う。

3 学位規程第4条に規定する学位授与に係る修士論文審査等の期間は、3月以内とする。

（論文審査の判定案の報告）

第10条 前条の規定により学位論文の審査及び最終試験を終了したときは、審査委員は、論文審査の要旨に最終試験の成績を添え、大学院運営委員会に文書で報告しなければならない。

（学位論文審査と最終試験の可否の議決）

第11条 大学院運営委員会は、前条の報告に基づいて審議し、学位論文の審査と最終試験の可否について議決する。

2 前項の議決をするには、出席委員の3分の2以上の賛成を必要とする。

（研究科長の報告）

第12条 大学院運営委員会が前条の議決をしたときは、研究科長は、その結果を速やかに文書で学長に報告しなければならない。

【分析結果とその根拠理由】

観点に係る状況のとおり、学位論文に係る評価基準が組織として策定され、学生に周知されており、適切な審査体制が整備されていると判断する。

観点5-7-③： 成績評価等の正確さを担保するための措置が講じられているか。

【観点に係る状況】

成績評価等の正確さの担保については、成績評価の方法をシラバスに明示し、成績評価基準に沿った評価を行っている（前掲資料5-7-①-C）。また、必要な学生に対して答案の返却、成績の結果報告を行うとともに、それに関する問合せ等について、責任をもって実施している。

【分析結果とその根拠理由】

観点に係る状況のとおり、成績評価等の正確さを担保するための措置が講じられていると判断する。

＜専門職学位課程＞

該当なし

(2) 優れた点及び改善を要する点

【優れた点】

- 本学の特徴である障害を補償した教育を通して、幅広い教養と専門職業人を養成し、社会自立と社会貢献のできる人材を育成するために教養教育と専門教育との連携を図り、各学科・専攻の専門性を重視するとともに、総合的な教育課程を編成している。
- 国家試験が課せられている学科・専攻では、シラバスの中にキーワードを記載し、国家試験出題基準に対する指標としている。

【改善を要する点】

- 産業技術学部のシラバスについては、アンケートの結果において「そう思う」「ややそう思う」の合計が48.7%と過半数に満たない現状にあるため、シラバスの内容を更に充実し、学生に周知する必要がある。

(3) 基準5の自己評価の概要

＜学士課程＞

産業技術学部及び保健科学部の教育課程は、「教養教育系科目」と「専門教育系科目」に大別している。「教養教育系科目」はセミナー・総合教養科目、主題別教育科目、言語・情報教育科目、障害関係教育科目及び健康・スポーツ教育科目等の科目から編成している。「専門教育系科目」は専門基礎教育科目、基盤領域科目、中核領域科目に分けられ、学科・専攻ごとにその教育目的に即して編成している。

学生の多様なニーズに応えるため、他学科・他専攻科目の履修認定、他大学との単位互換、インターンシップ、補習授業の実施などを行っている。また、「社会人の学び直しニーズ対応教育推進プログラム（学び直しGP）「聴覚障害者のみを対象とする大学・学部の資源を活かした職業技術学び直しプログラム」、大学生の就業力育成支援事業（就業力GP）「障害学生のエンパワーメントとキャリア発達」などの取組が授業科目の内容などに反映されている。

単位の実質化の観点から、学生便覧及び開設授業科目一覧に、1単位当たりに必要な学修時間、履修登録の上限設定について明示し、学生に周知するとともに、各学部における学修についてのガイダンスを行い、適切な履修選択等について指導を行っている。

シラバスは、全学的に記載内容を統一し、授業概要、学習到達目標、教科書・参考書、成績評価方法等の情報を掲載し、学生がウェブサイトで閲覧できるようになっている。教員には、評価基準を明示した記入要領を資料で配付するなど、適切なシラバス作成のために役立てている。授業の始めにはシラバスを用いたガイダンスを行うとともに、シラバスの利用、シラバスに沿った授業であるかなどに関しては、全学の授業評価アンケートで検証している

産業技術学部では、2年次の英語では能力別クラスの授業を行っているとともに、英語、数学、物理学、解析

学の基礎学力不足の学生に対しては、非常勤講師による補習授業を実施している。さらに、保健科学部では、「あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師」「理学療法士」の国家試験及び「ITパスポート試験」「情報処理技術者試験」の資格試験に必要な専門科目の基礎学力が不足している者に対する補習を実施している。

成績評価基準、卒業認定基準については「国立大学法人筑波技術大学学則」及び「国立大学法人筑波技術大学履修規程」により定められており、学生便覧で学生に周知している。

成績評価等の正確さの担保については、成績評価の方法をシラバスに明示し、成績評価基準に沿った評価を行っている。

〈大学院課程〉

技術科学研究科産業技術学専攻は、狭い研究領域に限定せず、学部の専門分野を基礎に情報科学コース、システム工学コース及び総合デザイン学コースの三つの領域に分類し、幅広い高度な知識や能力を身に付けることができる体系的かつ学際的な教育プログラムを用意している。

同研究科保健科学専攻は、学生が学際領域を含め、更に高度な専門教育を受け、研究ができるよう、学部の専門分野を基礎に鍼灸学コース、理学療法学コース及び情報システム学コースを設置している。

専攻ごとに授与される学位は、「国立大学法人筑波技術大学学位規程」に定めており、授業科目については、教育理念に沿ったカリキュラムを編成している。

専攻全体を通じた効果的・弾力的な履修ができるように配慮し、① Semester制の導入、② 学際領域科目の幅の広い選択、③ 短期集中授業の効果的な導入、④ 本学の特色である障害者支援研究関連授業と各専門領域との融合等により、高度専門職業人や研究者として活躍できる人材の育成を目指す教育研究を展開している。

教員は学生の修学状況が把握でき、学生個々の理解の程度に応じた学習方法や予習や復習における課題を示すなどの指導を徹底できるなど、単位の実質化を図っている。

各専攻では、教育の目的に照らして、講義、演習、実習など様々な形態の授業をバランス良く組み合わせている。

指導教員と研究指導については、「国立大学法人筑波技術大学学則」及び「筑波技術大学大学院技術科学研究科研究指導に関する規程」において定めている。学位論文の指導体制については、学生に配付される「開設授業科目一覧」に記載されており、適切な計画に基づいて研究指導等を行っている。

成績評価基準、修了要件は、「国立大学法人筑波技術大学学則」に定めており、「学生便覧」及び「シラバス」に掲載し、学生に周知している。また、この規則に基づき、成績評価及び単位認定を実施している。

学位論文に係る評価基準については、専攻ごとに策定しており、その内容については専攻ごとに実施する修士論文に係るガイダンスにおいて、学生に周知している。また、「国立大学法人筑波技術大学技術科学研究科論文審査に関する細則」に基づき、学位論文審査体制を整備している。

成績評価等の正確さの担保については、成績評価の方法をシラバスに明示し、成績評価基準に沿った評価を行っている。

基準6 教育の成果

(1) 観点ごとの分析

観点6-1-①： 学生が身に付ける学力、資質・能力や養成しようとする人材像等に照らして、その達成状況を検証・評価するための適切な取組が行われているか。

【観点到る状況】

教育の達成状況の検証は、教務委員会を中心に行っている。また、各学部教務委員会が中心となって授業評価による達成状況の検証や学生の在籍状況・進路状況、卒業・留年の状況などの教育成果の把握を行っている（資料6-1-①-A, B）。

さらに、教養教育系科目の成績に関しては、学部教員と障害者高等教育研究支援センター教員とが合同で検討する成績報告会を学期ごとに設け、その達成状況を検証している（別添資料6-1-①-1）。

資料6-1-①-A 産業技術学部 教育成果の検証体制と内容

検証分析している組織	内容
教務委員会	学力達成状況の検証・評価
教育活動に関する点検評価委員会	授業に関するアンケート
入試成績追跡調査委員会	入学後の入試成績による学力達成状況の追跡
聴覚障害系支援課	学生の進路状況、卒業・留年の状況
各学科・コース会議	学力達成状況の検証・評価

(聴覚障害系支援課作成)

資料6-1-①-B 保健科学部 教育成果の検証体制と内容

検証分析している組織	内容
教務委員会	学生の学力達成状況の検証・評価 授業に関するアンケート
入試方法検討委員会	入学試験の検討
視覚障害系支援課	学生の進路状況、卒業・留年の状況
各学科・専攻会議	学力達成状況の検証・評価

(視覚障害系支援課作成)

・別添資料6-1-①-1 教養教育科目等成績報告会の開催通知

【分析結果とその根拠理由】

観点到る状況のとおり、学生が身に付ける学力、資質・能力や養成しようとする人材像等に照らして、その達成状況を検証・評価するための適切な取組が行われていると判断する。

観点 6-1-②： 各学年や卒業（修了）時等において学生が身に付ける学力や資質・能力について、単位修得、進級、卒業（修了）の状況、資格取得の状況等から、あるいは卒業（学位）論文等の内容・水準から判断して、教育の成果や効果が上がっているか。

【観点に係る状況】

両学部の留年率及び卒業率は、資料 6-1-②-A 及び資料 6-1-②-B のとおりである。また、特別研究テーマは資料 6-1-②-C のとおりである。

産業技術学部では、2 年次以降の専門教育の充実を図るため、1 年次の専門基礎科目の修得状況により 2 年次への進級制限を設けている。また、4 年次の特別研究の着手に関しても、3 年次までの単位の取得状況により、同様な措置を行っている。

保健科学部の資格取得状況は、資料 6-1-②-D の国家試験合格者率に示したとおりであり、鍼灸学専攻、理学療法学専攻で、専攻の教育内容に応じた資格を取得している。理学療法学専攻において平成 23 年度は 100% の合格率を示した。なお、鍼灸学専攻では、卒業論文に代えて臨床実習で担当した患者に関する臨床症例報告研究と特別研究の選択を可能にしている。

資料 6-1-②-A 留年率

学部		平成 22 年 4 月 1 日現在	平成 23 年 4 月 1 日現在	平成 24 年 4 月 1 日現在
産業技術学部	留年者数 (A)	26 人	19 人	11 人
	学生数 (B)	211 人	218 人	209 人
	留年者数の割合 (A/B)	12%	9%	5%
保健科学部	留年者数 (A)	18 人	28 人	25 人
	学生数 (B)	162 人	156 人	150 人
	留年者数の割合 (A/B)	11%	18%	17%
計	留年者数 (A)	44 人	47 人	36 人
	学生数 (B)	373 人	374 人	359 人
	留年者数の割合 (A/B)	12%	13%	10%

(聴覚障害系支援課、視覚障害系支援課作成)

資料 6-1-②-B 入学年度別卒業生数

【平成 23 年 3 月卒業】

学部	学科・専攻	平成 19 年度 入学者数	平成 22 年度 卒業生数	卒業率
		(E)	(F)	(F/E)
産業技術学部	産業情報学科	35 人	26 人	74%
	総合デザイン学科	16 人	14 人	88%
	計	51 人	40 人	78%
保健科学部	保健学科鍼灸学専攻	22 人	17 人	77%
	同心理学療法学専攻	9 人	6 人	67%
	情報システム学科	11 人	8 人	73%
	計	42 人	31 人	74%
合計		93 人	71 人	76%

【平成 24 年 3 月卒業】

学部	学科・専攻	平成20年度 入学者	平成23年度 卒業生	左記の卒業者の内訳		入学年度別卒業率	
				平成20年度 入学	平成19年度 入学	平成20年度 入学者の 卒業率	平成19年度 入学者の 卒業率
				(A)	(B)	(C)	(D)
産業技術学部	産業情報学科	35人	36人	28人	5人	80%	14%
	総合デザイン学科	16人	16人	14人	2人	88%	13%
	計	51人	52人	42人	7人	82%	14%
保健科学部	保健学科鍼灸学専攻	16人	15人	10人	3人	63%	14%
	同理学療法学専攻	11人	7人	46人	1人	55%	11%
	情報システム学科	12人	11人	10人	0人	83%	0%
	計	39人	33人	26人	4人	67%	10%
合計		90人	85人	68人	11人	76%	12%

(聴覚障害系支援課、視覚障害系支援課作成)

資料6-1-②-C 平成23年度特別研究テーマ

【産業技術学部】

学 科 ・ コース		テーマ
産 業 情 報 学 科	情報システムコース	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽の視覚化 —音楽イメージの視覚化の検討— ・手話等を活かしたマルチメディア教材の研究 —ろう学校小学部 外国語活動編— ・パソコン上の音声コンテンツの視覚化 ・音の視覚化 —警告音の識別— ・聴覚障害者のための会議情報保障システムの研究
	コンピュータ科学コース	<ul style="list-style-type: none"> ・聴覚障害者のためのスポーツトレーニングシステムの基礎的検討 ・音楽音響の分析とその活用の検討 ・コンピュータによる顔の表情認識とその応用に関する基礎的検討 ・身体的コミュニケーションを活用した対話システム「おしゃべり 6256」の開発 ・ユニバーサルな字幕表示ソフトの検討 ・プロジェクタを用いたロボットナビゲーション
	情報通信コース	<ul style="list-style-type: none"> ・拡張現実を用いた字幕表示 ・地理情報を用いた情報応用利用の検討 ・小学校の英語活動支援ソフトの開発 —難聴学級の児童のために— ・モバイル端末を用いた路線バスの情報補償
	電子システムコース	<ul style="list-style-type: none"> ・緊急地震速報音に対する聴覚代行装置の研究 ・24×24 コレステリック液晶ドライバの開発 ・聴覚障害幼児・児童のための手話教材の開発・検討 ・遠隔制御による屋内移動ロボットの開発と応用

	設計・加工システムコース	<ul style="list-style-type: none"> ・ 3次元CADを用いた減速機的设计 ・ ドラムポンプの設計とモデリング ・ RC回路による放電加工特性 ・ 微細放電加工用電極の機上成形に関する研究 ・ 放電軸加工用旋回・割り出し装置の製作
	機械システムコース	<ul style="list-style-type: none"> ・ 家庭内における節電について ・ 原子力発電に代わる新エネルギーの実態 ・ 熱流動現象のシミュレーションの研究 ・ 粒子の拡散シミュレーション法の開発 ・ 金属の腐食の観察 ・ デジタル写真を用いた3次元CAD/CAMシステムの構築
	環境・安全システムコース	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学校建築物の耐震性に関する調査・研究 茨城県内における学校建築の耐震性 ・ 人工気候室とサーマルマネキンによる着衣のクロー値に関する研究 ・ 筑波技術大学の緑化計画に関する実験的研究 ・ 電光掲示板(案内板)による情報補償に関する研究 ーつくばエクスプレス線「つくば駅」をモデルにしてー ・ 逆錐形状の構造物の力学的合理性に関する研究 ～仮設空間への適用性に関する一考察～
総合デザイン学科	建築デザインコース	<ul style="list-style-type: none"> ・ 要援護者に有効な防災マップ作成に関する基礎的研究 ・ 障がい者も安心して楽しめるユニバーサルキャンプ場 ・ 東北大震災の記憶と未来をつくる写真展示会場 ・ 子どもの集う丘 ー札幌市の子どもの創造的なあそび空間計画ー ・ 鎌倉のガイドマップ作成 ・ カフェを持つ詩美術館 ◇遊び心で言葉を学ぶ◇
	生産デザインコース	<ul style="list-style-type: none"> ・ 新世代のための重箱デザインの研究 ・ 自然が創り出す造形的要素を生活の中に活かすデザインの研究 ・ 狭さを軽減するインテリアの研究 ・ 新しいユニバーサルスポーツと用具の提案 ・ 機能性と楽しさを備えた旅行セット
	視覚伝達デザインコース	<ul style="list-style-type: none"> ・ 人気漫画が人に与える心理的効果 ー新世紀エヴァンゲリオンを通してー ・ 活版印刷による詩集制作 ・ 現代における和風パターンの制作研究 ・ 手話の魅力を伝える表現方法の研究 ・ 実体験に基づいた聴覚障害者のための旅行情報誌の制作

【保健科学部】

学科・専攻	テーマ
保健学科 鍼灸学専攻	<p>臨床症例報告研究</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 体幹背部の経絡経穴と周囲構造物および臓器との位置関係に関する検討 ・ 低周波鍼通電刺激が筋羽状角変化に及ぼす影響 ー超音波画像診断装置による鍼刺激効果の検討ー ・ 左片麻痺に対する鍼灸治療 ・ 弱視者のための配色による鍼施術環境の整備 ・ 腰部脊柱管狭窄症に対する鍼治療におけるMテストの検証 ・ 耳介療法の安全性、有害事象報告についての調査と考察

保健学科 理学療法専攻	<ul style="list-style-type: none"> ・腰背部の構成と腰痛の診断および治療に関する検討 ・顔面の鍼施術による皮膚水分量・油分量の変化の検討 ・マッサージ業求人票の免許要件に関する実態調査
	<p>特別研究</p> <ul style="list-style-type: none"> ・膝関節痛患者に対する円皮鍼の効果に関する研究 ・掌握運動における等張性収縮トレーニングと等尺性収縮トレーニングの筋力増強の比較 ・呼吸が握力計測に及ぼす影響について ・CVA患者の予後予測に対する治療の有用性～歩行獲得に向けて～ ・脚を組んだ姿勢と骨盤の傾きの関係 ・閉眼時の運動学習について～ブラインドアスリートの能力～ ・清的ストレッチの実施時間の違いが関節可動域および筋力に及ぼす影響～足関節に着目して～ ・全盲と弱視における音源定位能力の違いについて ・両TKA施術後の関節可動域変化の推移と浮腫との関係 ・Webデータベースにおける検索インターフェースの基礎研究 ・バリアフリー情報共有システムの設計のための視覚障害者における移動時のニーズに関する調査研究 ・視覚障害者に使いやすいスケジュール管理ソフトの開発について ・緊急時における視覚障害者の情報ニーズに関する調査研究 ・現代暗号を用いた視覚障害者向けプライバシー保護ツールの作成
情報システム 学科	<ul style="list-style-type: none"> ・体表点字を使用した視覚障害者のエンターテインメント性の応用 ・AR技術を活用したアプリケーションの設計開発 ・Android カレンダーアプリケーションにおける弱視者向けインターフェースの提案 ・重度弱視者にとっての簿記記帳方法の提案 ・ベクトル量子化を使用した視覚障害者への画像提示方法の検討 ・電子行政による情報バリアフリーについて ・視覚障害者に対する柔軟なガイドヘルプ技術について

(聴覚障害系支援課, 視覚障害系支援課作成)

資料6-1-②-D 国家試験合格者率 (保健科学部)

資格の種類	平成23年度 [平成22年度]			
	受験者数(人)	合格者数(人)	合格率 (%)	全国平均合格率 (%)
あん摩マッサージ指圧師	12 [15]	12 [15]	100.0 [100.0]	84.1 [87.0]
はり師	12 [17]	10 [15]	83.3 [88.2]	72.8 [83.0]
きゅう師	12 [17]	10 [15]	83.3 [88.2]	70.0 [83.6]
理学療法士	7[6]	7 [3]	100.0 [50.0]	82.4 [74.3]

(視覚障害系支援課作成)

【分析結果とその根拠理由】

観点に係る状況のとおり、各学年や卒業時等において学生が身に付ける学力や資質・能力について、単位取得、進級、卒業の状況等、更には卒業研究、卒業制作等の内容・水準から判断して、教育の成果や効果が上がっていると判断する。

観点 6-1-③: 授業評価等, 学生からの意見聴取の結果から判断して, 教育の成果や効果が上がっているか。

【観点に係る状況】

両学部では, 授業評価アンケートにおいて各授業に対し複数の質問項目を設定し, それぞれの項目に対して5段階の評価で回答させ, 産業技術学部では全授業, 各学科の平均値や度数分布を, 保健科学部では学部全体と各学科専門科目の集計結果を算出し, 公表している(資料6-1-③-A, B, 別添資料6-1-③-1, 2)。

両学部では, アンケート結果を分析しており, 全体的に1学期よりも2学期の評価が高くなっていることが分かる。これは, 1学期の授業評価の結果を担当教員にフィードバックし授業改善に供することにより, 授業内容が改善されている。特に, 産業技術学部では教員個別に担当科目の授業評価アンケート結果を送付し, それに対する意見・感想, 教育効果を高める工夫等について所定の様式に基づいて報告を求めている(資料6-1-③-C)。この結果についても学内ウェブサイトにおいて, 公表している。

資料6-1-③-A 産業技術学部「授業に関するアンケート」の実施状況(抜粋)

評価項目	結果(そう思う, ややそう思う割合)
授業を進める速度は適切でしたか	1学期: 50.9% 2学期: 53.4%
教員の説明の仕方は適切でしたか	1学期: 52.5% 2学期: 55.6%
学生の理解を助けるために教員は各種の補助手段を適切に用いていましたか	1学期: 64.3% 2学期: 66.2%
この授業はあなたにとって良い授業でしたか	1学期: 59.1% 2学期: 60.2%
授業内容の難易度は適切でしたか	1学期: 40.6% 2学期: 40.7%
受講の結果あなたはこの分野に対する理解と関心が深まりましたか	1学期: 57.3% 2学期: 57.8%

(聴覚障害系支援課作成)

資料6-1-③-B 保健科学部「学生による授業評価」の実施状況(抜粋)

評価項目	結果(強くそう思う, ややそう思う割合)
授業の進行はシラバスに従い適切なスピード	1学期: 66.1% 2学期: 65.6%
理解しやすい説明	1学期: 64.7% 2学期: 65.8%
教材が障害補償に十分配慮されている	1学期: 64.2% 2学期: 65.7%
有意義な授業であった	1学期: 67.7% 2学期: 66.7%
授業内容を十分理解した	1学期: 56.4% 2学期: 58.5%
授業によってこの科目について関心が喚起された	1学期: 60.1% 2学期: 62.4%

(視覚障害系支援課作成)

資料6-1-③-C 授業に関するアンケート調査実施結果（授業担当教員用様式）

【授業に関するアンケート調査実施結果の概況 用紙】 [授業担当教員用]

平成22年度授業に関するアンケート調査実施結果の概況（筑波技術大学 産業技術学部）

科目番号	授業科目名	教員名	
------	-------	-----	--

I. 各アンケート項目の評点(別紙資料)を見て、担当教員の率直な意見・感想を記入して下さい。

II. (1) 授業および成績評価に関わる担当教員への質問事項
下記の設問項目について、次の5段階評点で適切な番号を囲んで下さい。番号の意味は次のとおりです。
5＝そう思う、4＝ややそう思う、3＝どちらともいえない、2＝あまりそう思わない、1＝そう思わない。

設 問 内 容	回 答 欄
(1) シラバスに示された授業計画は、実際にその通り達成した。	5-4-3-2-1
(2) 学生はこの授業内容を理解したと思われる。	5-4-3-2-1
(3) 総合的に判断して、この授業への学生の取り組みは十分であった。	5-4-3-2-1
(4) 成績評価に用いたものを次の項目から選んで下さい。【複数回答可】 1－期末試験 2－中間テスト・小テスト 3－期末試験に代わるレポート 4－授業中の課題レポート 5－学生の発表・報告 6－出席回数 7－その他(具体的に)	左の欄に記入
(5) 教育効果を高めるために、特に行っている方法・工夫等がありましたら、具体的に記入して下さい。 ()	左の欄に記入

(2)上記の回答結果に関して、ご意見、所感等がありましたら記入して下さい。

III. 自由記述種の学生のコメント(別紙資料)を見て、それに対する担当教員のコメントがありましたら記入して下さい。
(コメントが複数ある場合、同様に記入して下さい)

アンケート項目()に関して

アンケート項目()に関して

IV. アンケート結果の概況に関して、担当教員のコメントがありましたら記入して下さい。

V. 成績評語等に関する人数について記入して下さい。

評 語	A	B	C	D	H	K
人 数						

※ 成績評語等については、履修規程を参照して下さい。

(出典：平成21年度授業に関するアンケート調査報告書)

- ・別添資料6-1-③-1 授業に関するアンケート調査報告書（産業技術学部）
(学内ウェブサイトURL (http://webi.a.tsukuba-tech.ac.jp/kyomu1/pdf/H21_jyugyo_chosa.pdf))
- ・別添資料6-1-③-2 学生による授業評価総合集計結果（保健科学部）

【分析結果とその根拠理由】

観点に係る状況のとおり、授業評価、学生からの意見聴取の結果から判断して、教育の成果や効果が上がっていると判断する。

観点6-1-④： 教育の目的で意図している養成しようとする人材像等について、就職や進学といった卒業（修了）後の進路の状況等の実績や成果について定量的な面も含めて判断して、教育の成果や効果が上がっているか。

【観点に係る状況】

産業技術学部では、進学を希望する学生に対し、きめ細かな指導を行っており、大学院へは3名が進学している（資料6-1-④-A）。就職状況は、資料6-1-④-B及び6-1-④-Cのとおりである。本学の教育目

的は、専門職業人として社会自立、社会貢献できる人材の養成であるため、就職を希望する学生の割合は高いが、この厳しい社会情勢の中、極めて高い就職率（97.1%）を達成している。

保健科学部では、大学院に加え、筑波大学理療科教員養成施設進学等に関する情報を学生に提供し、きめ細かな勉学指導とクラス編成等による指導を実施している。これにより、資料6-1-④-Aに示すように大学院等への進学率は高くなっている。また、就職希望者に対する就職率も89.5%と高い就職率を達成している。

資料6-1-④-A 卒業後の進路状況（平成23年度）

【産業技術部】

学部	学科・専攻	卒業生数	進学者数	就職希望者数	就職者数	B～D以外の者の数	就職率
		A	B	C	D	E	D/C
産業技術学部	産業情報学科	36人	2人	33人	33人	1人	100.0%
	総合デザイン学科	16人	0人	16人	16人	0人	100.0%
	計	52人	2人	49人	49人	1人	100.0%

（備考） Eの内訳：研究生1名

平成23年度(平成24年3月卒)就職企業(順序不同)

【産業情報学科】

オムロン/IHIエスキューブ/楽天ソシオビジネス/アイエックス・ナレッジ/村田製作所/JR東海ウェル/シャープ/東芝/富士通ビー・エス・シー/葵プロモーション/NTTデータアイ/イーデザイン損害保険/日立情報制御ソリューションズ/ソフトバンクモバイル/香川県庁/東芝セミコンダクター&ストレージ社/インクスエンジニアリング/豊田自動織機/森精機製作所/アイシンAW/三菱重工業/筑波技術大学/日本軽金属/三菱冷熱工業/茅ヶ崎市/大成建設ハウジング/富士通ネットワークソリューションズ/日本ガイシ/熊本県立学校/三菱倉庫

【総合デザイン学科】

ダイワハウス工業/読売情報開発/JTBデータサービス/三井ホーム/横浜市/メトロアドエージェンシー/ユナイテッドアローズ/JSR筑波研究所/マクロミル/ルネサンス/楽天ソシオビジネス/日立アイシーシー/昭和大学/日本経済新聞社/日立国際ビジネス

平成23年度(平成24年3月卒)進学先

筑波技術大学大学院技術科学研究科産業技術学専攻

(聴覚障害系支援課作成)

【保健科学部】

学部	学科・専攻	卒業生数	進学者数 (研修生含む。)	就職希望者数	就職者数	B～D以外の者の数	就職率
		A	B	C	D	E	D/C
保健科学部	保健学科鍼灸学専攻	12人	3人	9人	9人	0人	100.0%
	保健学科理学療法学専攻	7人	0人	7人	5人	2人	71.4%
	情報システム学科	11人	0人	11人	11人	0人	100.0%
	計	30人	3人	27人	25人	2人	92.6%

（備考） Eの内訳：就職活動中2名

平成23年度(平成24年3月卒)就職企業等(順序不同)

【保健学科鍼灸学専攻】

医療法人松田会/春日整骨院/社会福祉法人パール/ナチュラルセラピーサロンエス/りす訪問マッサージ

【保健学科理学療法学専攻】

筑波大学附属病院/甲州リハビリテーション病院/水戸赤十字病院/板橋中央総合病院

〔情報システム学科〕

〔株〕日立システムズ【3名】/協和発酵キリン(株)/パナソニックシステムソリューションズジャパン(株)/三菱電機エンジニアリング(株)/NTTクラリティ(株)/アサヒフィールドマーケティング社会福祉法人ユトリア会

平成23年度(平成24年3月卒)進学

筑波大学理療科教員養成施設/筑波技術大学研究生

(視覚障害系支援課作成)

【技術科学研究科】

専攻	修了者数	進学者数 (研修生含む。)	就職 希望者数	就職者数	B～D以外 の者の数	就職率
	A	B	C	D	E	D/C
産業技術学専攻	2人	0人	2人	2人	0人	100.0%
保健科学専攻	4人	0人	2人	2人	2人	100.0%

(備考) Eの内訳：復職2名

〔産業技術学専攻〕

大成建設/日本ビジネスシステムズ・テクノロジー

〔保健科学専攻〕

みつわ治療院/〔株〕日立システムズ

(聴覚障害系支援課作成)

資料6-1-④-B 卒業後の職業別就職状況 (平成23年度)

【産業技術学部】

(単位：人)

学科	機械・ 電気 技術者 等	建設等 技術者	情報処 理 技術者	その他 技術者	教員	デザイ ナー等	事務従 事者	その他 従事者	その他	計
産業情報学科	6	1	7	3	1	1	9	2	3	33
総合デザイン 学科	1	1	0	1	0	3	8	1	1	16
計	7	2	7	4	1	4	17	3	4	49

【保健科学部】

(単位：人)

学科・専攻	情報処理 技術者	その他の 技術者	医療技術者	事務職	販売従事者 等	計
保健学科鍼灸学専攻	0	0	8	0	1	9
保健学科理学療法学専攻	0	0	5	0	0	5
情報システム学科	6	1	0	3	1	11
計	6	1	13	3	2	25

【技術科学研究科】

専攻	機械・電気・化学技術者	建設等技術者	情報処理技術者	その他技術者	教員	医療技術者	デザイナー等	管理的従事者	その他従事者	その他	計
産業技術学専攻	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	2
保健科学専攻	0	0	1	0	1	1	0	0	0	0	3
計	0	1	1	0	1	1	0	1	0	0	5

(聴覚障害系支援課, 視覚障害系支援課作成)

資料6-1-④-C 産業別就職状況 (平成23年度)

【産業技術学部】

(単位:人)

学科	建設業	製造業	情報通信業	運輸業	卸売・小売業	金融業	学術研究専門技術サービス業	生活関連サービス	教育学習支援業	その他サービス業	公務	計
産業情報学科	2	14	9	1	0	1	1	0	2	1	2	33
総合デザイン学科	2	1	6	0	1	0	1	1	1	2	1	16
計	4	15	15	1	1	1	2	1	3	3	3	49

【保健科学部】

(単位:人)

学科・専攻	製造業	情報通信業	小売業	学術研究専門技術サービス業	医療・福祉	公務	その他	計
保健学科鍼灸学専攻	0	0	1	0	8	0	0	9
保健学科理学療法学専攻	0	0	0	0	5	0	0	5
情報システム学科	1	6	0	1	1	1	1	11
計	1	6	1	1	14	1	1	25

【技術科学研究科】

(単位:人)

専攻	建設業	製造業	情報通信業	運輸業	金融業	学術研究専門技術サービス業	その他サービス業	教育・学習支援業	医療・福祉	計
産業技術学専攻	1	0	1	0	0	0	0	0	0	2
保健科学専攻	0	0	1	0	0	0	0	1	1	3
計	1	0	2	0	0	0	0	1	1	5

(聴覚障害系支援課, 視覚障害系支援課作成)

【分析結果とその根拠理由】

観点に係る状況のとおり, 教育の目的で意図している養成しようとする人材像等について, 就職や進学といった卒業後の進路の状況等の実績や成果について定量的な面も含め, 教育の成果や効果が上がっていると判断する。

観点 6-1-⑤： 卒業（修了）生や、就職先等の関係者からの意見聴取の結果から判断して、教育の成果や効果が上がっているか。

【観点到に係る状況】

産業技術学部では、企業訪問などにおいて、本学の卒業生、企業の人事担当者やハローワーク担当者からの意見を直接聴取している（資料 6-1-⑤-A）。また、本学卒業生の就職支援を行う経験と熱意をもった退職教員等による「就職支援員」制度（資料 6-1-⑤-B）を設け、職場適応相談等を行い、卒業生と企業の両者に継続した意見聴取ができる体制も整え、本学の教育の成果や効果について把握している。

保健科学部では、就職担当委員が、各企業を訪問して就労状況などの情報を収集し、各学科・専攻会議に報告を行っている。その情報を就職相談及び新規就職先の開拓に利用している。

資料 6-1-⑤-A 企業等訪問先一覧（平成 23 年度）

【産業技術学部】

No.	用務先	No.	用務先
1	長田廣告	12	JAL ナビア
2	大成建設	13	東京ソイルリサーチ
3	日立情報制御ソリューションズ	14	戸田建設
4	ハローワーク仙台	15	大阪学生職業センター
5	岡村製作所	16	ハローワーク名古屋
6	三菱エンジニアリング鎌倉事業所	17	ハローワーク静岡
7	東芝メディカルシステムズ	18	タダノ
8	ハローワーク品川	19	ハローワーク高松
9	昭和大学	20	ハローワーク広島
10	ポラス	21	広島学生職業センター
11	日本経済新聞社		

【保健科学部】

No.	用務先	No.	用務先
1	はっぴーデイサービスセンター	12	東京海上日動システムズ
2	NTT クラリティ(株)	13	トーメンエレクトロニクス
3	浅草介護老人保健施設	14	特別養護老人ホーム パール代官山
4	ウシオライティング(株)	15	日本盲導犬協会神奈川県訓練センター
5	王子はりきゅう治療院	16	日立情報システムズ
6	大阪船員保険病院	17	マツダ株式会社採用センター
7	桜雲会	18	リコーITソリューションズ(株)
8	ジョイクッスコーポレーション越谷商品センター	19	和歌山県立盲学校
9	筑波大学理療科教員養成施設	20	(株)クボタ筑波工場
10	土沢整形外科医院	21	(株)日立システムズ
11	デイサービス オルガ	22	(株)ふれあい在宅マッサージ東京研修センター

（聴覚障害系支援課、視覚障害系支援課作成）

資料6-1-⑤-B 筑波技術大学聴覚障害系就職支援員に係る申合せ（抜粋）（平成21年11月11日 聴覚障害系就職委員会）

（趣旨）

1 筑波技術大学の産業技術学部（筑波技術短期大学聴覚部を含む。）の卒業生の就職支援を行うため、聴覚障害系就職支援員（以下「就職支援員」と言う。）を置く。

（委嘱）

2 就職支援員は、本学の退職教員等（視覚障害系所属の教員を除く。）の中から、卒業生の就職支援を行う経験と熱意を有する者に、聴覚障害系就職委員会の議に基づき、学長が委嘱する。

（支援内容）

3 就職支援員は、卒業生の就職支援に係る以下の事項を行う。

- (1) 職場適応相談に係る支援
- (2) 転職又は再就職に係る支援
- (3) その他必要な支援

【分析結果とその根拠理由】

観点に係る状況のとおり、卒業生や就職先等の関係者からの意見聴取の結果から判断して、教育の成果や効果が上がっていると判断する。

（2）優れた点及び改善を要する点

【優れた点】

- 産業技術学部及び保健科学部の両学部とも、厳しい社会情勢の中、高い就職率を達成している。
- 退職教員等による「就職支援員」制度を設け、職場適応相談等を行うとともに、卒業生と企業の両者に継続した意見聴取ができる体制を整え、本学の教育の成果や効果について把握している。

【改善を要する点】

該当なし

（3）基準6の自己評価の概要

教育の達成状況の検証は、教務委員会が中心となって授業評価による達成状況の検証や学生の在籍状況、進路状況、卒業・留年の状況などの教育成果の把握を行っている。

授業評価アンケートにおいて、各授業に対し複数の質問項目を設定し、それぞれの項目に対して5段階の評価で回答させ、産業技術学部では全授業、各学科・専攻の平均値を、保健科学部では学部全体と各学科専門科目の集計結果を算出し、公表している。

進学希望者に対し、きめ細かな指導を行っており、大学院へ進学させるとともに、就職希望者においては、この厳しい社会情勢の中、極めて高い就職率（産業技術学部：100.0%、保健科学部92.6%）を達成している。

企業訪問などにおいて、本学卒業生、企業の人事担当者やハローワーク担当者からの意見を直接聴取している。また、退職教員等による「就職支援員」制度を設け、職場適応相談等を行い、卒業生と企業の両者に継続した意見聴取ができる体制を整え、本学の教育の成果や効果について把握している。

基準 7 学生支援等

(1) 観点ごとの分析

観点 7-1-①: 授業科目や専門、専攻の選択の際のガイダンスが適切に実施されているか。

【観点到係る状況】

両学部では、入学時に新入生オリエンテーション及びフレッシュマンセミナーにおいて、①教育課程の全体構成（開設授業科目、授業期間と授業時間、単位数、履修年次、科目番号、必修科目と選択科目等）、②履修方法（履修申請、履修申請単位数の上限、授業、期末試験、成績評価基準、単位認定、卒業認定等）、③国家試験等の受験資格の取得等（保健科学部）について詳細なガイダンスを行い、学生便覧や開設授業科目一覧等の資料を使って新入生が支障なく受講科目の登録ができるようになっている（資料 7-1-①-A～C、別添資料 7-1-①-1）。また、正・副クラス担当教員が個別に履修に関するアドバイス等を行っている。

さらに、産業技術学部のコース選択に当たっては、1年次の最後に学科別にコース説明会を実施している（別添資料 7-1-①-2）。また、在学生に対してもクラス担当教員等による適切なガイダンスを行っている（別添資料 7-1-①-3）。

大学院についても、学部と同様に新入生オリエンテーションを実施している（別添資料 7-1-①-4, 5）。

資料 7-1-①-A 平成 23 年度産業技術学部新入生オリエンテーション日程

時 間	所要時間	題 目	講 師 等
13:30 ~ 13:35	5分	日程等説明	新入生オリエンテーションWG委員長
13:36 ~ 13:41	5分	産業技術学部長挨拶 産業技術学部の概要等	産業技術学部長
13:42 ~ 13:57	15分	障害者高等教育研究支援センター長挨拶 障害者高等教育研究支援センター紹介 障害補償関係説明	障害者高等教育研究支援センター長
13:58 ~ 14:03	5分	F M補聴システム関係説明	障害者支援研究部
14:04 ~ 14:19	15分	教務関係説明及び質疑・応答	聴覚障害系 教務委員会委員長
14:20 ~ 14:30	10分	産業情報学科 産業情報学科の説明	各学科長等
14:31 ~ 14:40	9分	休憩／移動	
14:40 ~ 16:00	80分	専攻別オリエンテーション 情報科学専攻 システム工学専攻	学科別オリエンテーション 各学科長等

(聴覚障害系支援課作成)

資料7-1-①-B 平成23年度保健科学部新入生オリエンテーション日程

時 間	所要時間	題 目	講 師 等
9:00 ~ 9:10	10分	新入生オリエンテーションの概要説明	(司会者)
9:10 ~ 9:20	10分	保健科学部の概要について 1) 沿革等 2) 教育組織・教育方法 3) 学生に期待すること	保健科学部長
9:20 ~ 10:10	50分	教育課程について 1) 教育課程の全体構成 2) カリキュラム・単位制 3) 学習支援体制 質疑応答	保健科学部 教務委員会
10:10 ~ 10:30	20分	休憩	
10:30 ~ 11:10	40分	学生生活について 1) 学則・学生規程等 2) 学生組織 3) 各種相談窓口 質疑応答	保健科学部 学生委員会
11:10 ~ 11:20	10分	図書館について 業務内容・施設・設備	図書館主任
11:20 ~ 11:30	10分	障害者高等教育研究支援センターについて 目的・概要・業務内容	障害者高等教育 研究支援センター
11:30 ~ 12:00	30分	保健管理センターについて 目的、概要、業務内容	保健管理センター
12:00 ~ 13:00	60分	休憩	
13:00 ~ 13:20	20分	事務案内	視覚障害系支援課 学生 係
13:20 ~ 16:20	180分	講義と活動 ・お互いの理解 ・視覚障害の理解 ・本学および周辺の理解 ・本学等での補償・支援や制度	1年次クラス担当教 員及び、前年度 1年次クラス担任

(聴覚障害系支援課作成)

資料7-1-①-C フレッシュマンセミナー(シラバス)

- ・産業技術学部 (<http://www.tsukuba-tech.ac.jp/kyomu/syllabus/syllabus2011/php/AA011.php>)
- ・保健科学部
(http://www.tsukuba-tech.ac.jp/department/hs/hs_syllabus/ac_freshman/cultural/lh100furesyumansemin.html)

- ・別添資料7-1-①-1 新入生オリエンテーション配付資料一覧(平成23年度)
- ・別添資料7-1-①-2 履修に係るコース選定取扱要項(産業技術学部)
- ・別添資料7-1-①-3 クラスに関する要項(産業技術学部, 保健科学部)
- ・別添資料7-1-①-4 技術科学研究科産業技術学専攻オリエンテーション日程
- ・別添資料7-1-①-5 技術科学研究科保健科学専攻オリエンテーション日程

【分析結果とその根拠理由】

観点に係る状況のとおり、授業科目や専門、専攻の選択の際のガイダンスが適切に実施されていると判断する。

観点 7-1-②： 学習支援に関する学生のニーズが適切に把握されており、学習相談、助言、支援が適切に行われているか。

【観点に係る状況】

障害者高等教育研究支援センターを中心に、個々の学生の障害の程度や障害の残存能力などを把握するための調査を行い、クラス担当教員等に連絡することにより、障害の状況を的確に把握し指導に活かせるよう努めている（別添資料 7-1-②-1）。

すべての授業担当教員は、オフィスアワーを設定し、授業内容に関する質問や生活全般にわたる相談及び指導などの幅広い対応を行っている（資料 7-1-②-A）。

また、本学の教員は、聴覚障害教育や視覚障害教育の経験が豊富な教員が配置されているため、障害から起因する学習や生活相談に対し、個別相談などのきめ細かな指導を行っている。

資料 7-1-②-A 各組織の取組内容

組織名	主な学習相談、助言、支援内容
障害者高等教育研究支援センター	<p>[聴覚障害系]</p> <p>1年次の学生は教養教育系科目の履修が多いため、産業技術学部のクラス担当教員は障害者高等教育研究支援センター教員が務めている。成績不振に関する相談や人間関係に関する相談が多く、学習面の相談には授業担当者と連携して対応する他、人間関係や心理面の問題を抱えている学生とは細かく面談を行い解決に努めている。意欲的な学生への対応として、英検に加えて新たに TOEIC IP テストの実施と TOEIC 対策講座、留学希望者に対する英語講座を実施した。</p> <p>[視覚障害系]</p> <p>1年次生の副担任として、学科と連携して学習指導及び生活指導に当たっている。具体的には学科・専攻の定例会議に出席し、学生の学習状況や生活状況に関する情報提供及び情報交換を行っている。ここで得た情報はセンターの定例会議でも報告し、センター教員と学部教員が学部運営や学生状況についての情報を共有できるように配慮している。また、突発学生の病気や事故の際には、病院の付添などの業務も学科担任との共同体制の中で協力している。学生への学習助言では基礎学力と視覚補償に関する相談及びパソコン等情報保障機器に関する相談全般にオフィスアワーやセンター教員が学部教員と共同で担当している6時限のパソコン相談アワーの時間を中心に対応している。</p>
技術科学研究科	<p>マンツーマン体制で研究指導等を行っている。そのため、学生個々の状況や能力を十分に把握することができる。研究室で情報伝達ができないケース（インターンシップ中、長期休業中等）でも、学生用メールBOX、E-mail の活用等で指導教員と大学院生の連絡は密に行われている。</p>

（聴覚障害系支援課、視覚障害系支援課作成）

・別添資料 7-1-②-1 コミュニケーションに関する調査

【分析結果とその根拠理由】

観点に係る状況のとおり、学習支援に関する学生のニーズが適切に把握されており、学習相談、助言、支援が適切に行われていると判断する。

観点7-1-③： 通信教育を行う課程を置いている場合には、そのための学習支援、教育相談が適切に行われているか。

【観点に係る状況】

該当なし

【分析結果とその根拠理由】

該当なし

観点7-1-④： 特別な支援を行うことが必要と考えられる学生への学習支援を適切に行うことのできる状況にあるか。また、必要に応じて学習支援が行われているか。

【観点に係る状況】

本学は、聴覚・視覚障害者のための大学であるため、全学が一丸となって必要な学習支援を行っている。具体的内容を資料7-1-④-Aに示す。また、すべての授業担当教員がオフィスアワーを設け、学生相談等を個別に対応している。

大学院においても、学部と同様の学生支援が行われている。

資料7-1-④-A 各組織の取組状況

組織名	取組状況
障害者高等教育研究支援センター	<p>聴覚障害学生には、新任教員・非常勤講師等が担当する講義に、講師が発話した内容をリアルタイムで字幕として提示する本学が開発した様々なシステムを用い、情報保障を実施している。音声認識を用いたシステムとしては、非常勤講師が担当している講義で10回(15時間)、遠隔パソコン要約筆記システムは、「システム工学特別講義」等で42回(63時間)、遠隔速記入カシステムでは、「経済学」「材料学」等で30回(45時間)、モバイル型遠隔情報保障システムは、12時間で、総計135時間の情報保障を実施している。</p> <p>学生が閲覧できる字幕入りビデオ教材については、図書館配架用9本(705分)、学部等教員依頼2本(56分)、計11本(761分)を作成している。</p> <p>また、聴覚障害学生に対しては、日常的に聴覚管理や補聴相談を実施して、最適な聞こえの状況を補償、スピーチに関する指導や手話等のコミュニケーション支援を日常的に実施している。特に、手話に関しては手話学習室を設け、個別指導が受けられる他、パソコンによる自学システムも用意している。</p> <p>視覚障害学生には、教材のデジタル化、点字教材の準備、墨字教材の文字ポイントの用意、拡大読書器の準備、パソコン画面の音声化や拡大・白黒反転できるパソコンソフトの導入等必要に応じて行っている。解剖は触知用教材を準備して、全盲の学生に対応している。</p>
産業技術学部	<p>基礎学力不足の学生に対して、チューターによる補習の実施や個別指導を行うとともに、専門の各コースにおいても学力向上のためコース独自の補習を実施している。</p>
保健科学部	<p>学習資料の点字・音声・触図化・電子データ化・拡大印刷等を、個々の学生からの希望に応じて即時的に実施している。基礎学力不足の学生に対しては、補習を実施したり個別指導を行ったりしている。</p>

	<p>附属図書館では、録音・点字図書を増強に努めている。図書館内すべてのパソコンでは画面に表示された情報の音声化や拡大、白黒反転ができるようになっている。</p> <p>教務・学生関係の案内は、拡大文字、点字、拡大読書器及び音声ソフトによるパソコン掲示板を用意し、すべての学生が閲覧できるようにしている。また、体育館の壁面にクッション板を設置し、壁に衝突した際の緩和措置等、視覚障害者にとって危険のないよう工夫している。</p>
--	--

(聴覚障害系支援課、視覚障害系支援課作成)

【分析結果とその根拠理由】

観点に係る状況のとおり、特別な支援を行うすべての学生への学習支援を適切に行うことのできる状況にあり、また、必要に応じて学習支援が行われていると判断する。

観点 7-2-①： 自主的学習環境が十分に整備され、効果的に利用されているか。

【観点に係る状況】

授業が行われていない時間帯の教室を自習室として利用しているとともに、図書館の夜間開館、研究個室及びセミナー室の使用並びに各学科のコンピュータ室の時間外利用を促進するなど、自主学習環境を整備している(資料 7-2-①-A, 別添資料 7-2-①-1)。

資料 7-2-①-A 各施設・設備の教育用パソコンの主な整備状況

キャンパス名	室名	台数	利用時間
天久保キャンパス	CG 実験室/実習室	18	平日：8時50分～21時 休日等：9時～21時
	多目的実験室	18	
	CAD/CAM 室	18	
	コンピュータ室	32	
	製図室	10	
	プログラミング実習室	16	
	画像システム実習室	8	
春日キャンパス	マイクロコンピュータ実験室	15	平日：8時50分～21時 休日等：9時～21時 共同学習室、共通実習室： 24時間
	LL 教室	15	
	講義室A	14	
	実習演習室A	14	
	実習演習室B	14	
	講義室B	14	
	共同学習室	26	
共通実習室	23		

(総務課作成)

学内及び学生寄宿舍に有線 LAN、無線 LAN が整備されており、学内ネットワークを利用した学習が可能となっている。学生寄宿舍(学生の約 90%入居)に入居している学生が利用しており、自発的な学習による利用環境が

整備されている。

天久保キャンパスでは、附属図書館に研究個室及びセミナー室が設置されており、学生が自主的に利用しやすい環境となっている（資料7-2-①-B）。

春日キャンパスでは、附属図書館ゼミコーナー、共同学習室、共用棟自習室等にコンピュータを増設し、学生が24時間利用可能な、障害に配慮した自主学習環境を整備している（資料7-2-①-C）。具体的には、国語、英語、医学の電子辞書等を整備し、国家試験の勉強、レポート作成、自習等に幅広く用いられている。コンピュータが設置されている共通実習室や情報システム学科の実習室などは授業時間外の開放を行うなど、自主学習環境の充実に努めている。また、附属図書館の対面朗読室にはコンピュータ・拡大読書器が設置され、対面朗読の目的以外にも、研究個室・セミナー室として利用が可能になっている。

大学院では、学部同様の図書館の夜間開放、各学科のコンピュータ室の時間外利用を促進するなど、自主学習環境の提供のほか、コースごとに大学院研究室（自習室）を整備し、研究を進める上での学習環境が充実している。

資料7-2-①-B 聴覚障害系図書館利用案内（抜粋）

資料の利用について

貸出冊数及び期間

	区分	対象者	冊数	期間	更新	備考
図書	一般貸出	教職員、学生	5冊	2週間	1回	参考図書は貸出不可
	教員特別貸出	教員	無制限	1年	無制限	研究費購入図書
ビデオ	学内利用	教職員、学生	3本	3日	なし	
	雑誌	一時貸出	教職員、学生	3冊	1日	なし

*学生は大学院生を含む。

○ 貸出
図書館資料の貸出を受ける場合は、資料に学生証または身分証明書を添えてカウンターまでお申し出ください。

○ 返却
貸出を受けた図書館資料は、必ずカウンターに期限までに返却してください。なお、図書館閉館時は、玄関横のブックポストに返却することができます。
*書架に直接戻さないでください。

○ 更新（継続して借りたい時）
貸出期間の延長を希望する場合は、図書と学生証または身分証明書を持参の上、カウンターにお申し出ください。さらに2週間の延長ができます。
(予約がかかった場合は更新できません。)

○ 延滞（返却が遅れると）
延滞中は、新たな貸出、更新はできません。返却期限が過ぎて、督促を受けても返却しない場合は、貸出を停止します。

○ 予約
貸出中の図書について、次の貸出を希望する場合、予約をかけることができます。学生証または身分証明書を持参の上、カウンターまでお申し出ください。

○ 図書の紛失・破損
図書館資料を紛失・破損した場合は、同じ資料の購入という形で弁償していただきます。

セミナー室・研究個室の利用について

グループ学習のためのセミナー室と、個人学習のための研究個室が利用できます。

○ 利用対象者
・セミナー室：本学の学生・教職員・非常勤講師
・研究個室：セミナー室と同じ

○ 利用時間・期間
・セミナー室：開館時間内 1日1グループ1回、3時間以内
・研究個室：開館時間内 1日

○ 利用申込
・セミナー室：利用の1週間前から予約可能
・研究個室：当日申込

○ 申込方法
・図書館カウンターに利用希望の旨、お申し出ください。「利用申込書」に記入していただきます。控をお渡ししますので、利用開始時にカウンターに提示してください。

○ その他
・利用終了時には、窓の施錠、エアコン、照明を切るなどの処理をし、必ずカウンターに利用が終了した旨お知らせください。

リフレッシュ・コーナーについて

玄関ホール横に、コーヒーなどの自動販売機を備えた、つくろぎのためのスペースがありますので、ご利用ください。ただし、入館ゲートから中に飲食物を持ち込むことは禁止となっていますのでご注意ください。

http://www.tsukuba-tech.ac.jp/library/jhkweb_jpn/news/news2.html

資料 7-2-①-C 視覚障害系図書館の利用案内 (抜粋)

<p>お問い合わせ先</p> <p style="text-align: center;">筑波技術大学視覚障害系図書館 利用案内(学内者用)</p> <p>お問い合わせ先</p> <p>電話: 内線9510または9501番 電子メール: toshok@ad.tsukuba-tech.ac.jp あるいは図書館カウンターまたは事務室内の職員にお気軽にお声がけください。</p> <p>開館時間</p> <ul style="list-style-type: none"> ・月～金曜日 8:50～20:30 ・土曜日 9:00～16:30 <p>休業期間中</p> <ul style="list-style-type: none"> ・月～金曜日 9:00～17:00 ・土曜日 閉館 <p>休館日</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日曜日・国民の祝日 ・休業期間中の土曜日 ・年末年始(12月27日～1月5日) ・その他必要に応じて定める臨時休館 <p>図書館の時間外利用</p> <p>開館時間以外でも、図書館のゼミコーナーおよび共同学習室は、週7</p>	<p>図書館の時間外利用</p> <p>日、24時間利用可能です。(パソコンも利用可能です)</p> <p>閉館時は校舎棟2階の通り廊下を伝って図書館に来ることもできますが、学生証またはICカード入りの携帯電話・Suica・Pasmo等を登録することによって、図書館自動ドア隣のドアから入館することができます。希望される方は職員にご相談ください。</p> <p>資料の配置</p> <p>図書館の資料は、ほとんど開架書架にありますので、自由に閲覧できます。利用後は必ず元の位置に戻してください。本を探したり、本を書架に戻すのにお手伝いが必要な場合はご連絡なくお知らせください。</p> <p>図書</p> <p>「日本十進分類法(NDC)」と呼ばれる分類法に従って並んでいます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・墨字図書 ⇒ 一般図書と専門図書に分類 ・点字図書 ⇒ 一般書架と集密書架 ・視聴覚資料 ⇒ AV書架。DVDはケースのみ配架 ・参考図書 ⇒ 参考書架 <p>雑誌</p> <p>原則として最新号が新着雑誌コーナー、それ以前の分が集密書架にあります。集密書架では、墨字雑誌・点字雑誌・録音雑誌に分け、その中で誌名順に並んでいます。</p> <p>また、ノンノ、メンズノンノ、Number等の一般的な雑誌も新着雑誌コーナーに配架されています。</p>
--	---

<http://library.k.tsukuba-tech.ac.jp/guide/>

・別添資料 7-2-①-1 学生証認証のある教室等への入室について

【分析結果とその根拠理由】

観点に係る状況のとおり、自主的学習環境が十分に整備され、効果的に利用されていると判断する。

観点 7-2-②: 学生のサークル活動や自治活動等の課外活動が円滑に行われるよう支援が適切に行われているか。

【観点に係る状況】

学生のサークル活動は、主に授業終了後、休日及び休業期間中に行われており、教室及び体育館等の施設が利用できる(資料 7-2-②-A)。

各サークル(資料 7-2-②-B)は、年度ごとの設立・更新願により、大学が正式に承認し、顧問教員が指導・助言を行っている。また、①サークル活動における消耗品等の購入費の支援、②学園祭等への消耗品等の補助、③学外活動の安全性を確保するため、顧問教員が引率するなどの支援も行っている(別添資料 7-2-②-1)。

資料 7-2-②-A 課外活動のための施設使用心得（平成 17 年 11 月 11 日学生委員会）（抜粋）

<p>この心得は、本学の教室その他の教育施設（以下「教室等」という。）の課外活動のための使用に関し、必要な事項を定める。 （定義）</p> <p>1 この心得の「教室等」は、次のものをいう。</p> <p>(1) 校舎棟の講義室 (2) 体育施設 (3) 集会室等の課外活動施設 (4) コミュニケーションホール （使用時間等）</p> <p>2 教室等を使用できる時間は、原則として、次のとおりとする。</p> <p>(1) 平日は、17時から21時まで (2) 日曜日、土曜日及び国民の祝日に関する法律に規定する休日は、9時から21時まで (3) 教室等を使用しようとする者は、「国立大学法人筑波技術大学学生規程」（平成17年規程第77号）に定める集会（催）願又は課外施設使用願（別記様式）により願い出るものとする。 （転貸の禁止）</p> <p>3 教室等の使用を許可された者（以下「使用者」という。）は、許可のあった教室等を第三者に転貸することはできない。</p>
--

資料 7-2-②-B サークル一覧(平成 23 年度)

キャンパス	文科系・芸術系	体育系
天久保	A to Z 文化研究会 ソウル・インプレッション Nexus Yarn(ファッションサークル) 世界手話探求会 TACTics 部(囲碁・将棋)	サッカー部、N.T.U.Tバレーボール部、 硬式テニスサークル、卓球部、 FUTSAL 部、BADMINTOX(バドミントン部)、 軟式野球部、バスケットボール部、 水泳部、陸上競技部
春日	あんま どうー、手話・点字サークル、 つくばケーシーズ(理学療法研究会)、 W.O.W(Widen Our world)、よさこい! YAPPE 隊、 筑波技術大学保健科学部囲碁・将棋部、 応用手技療法サークル、 筑波技術大学保健科学部美術行状研究部 Journey and Music 倶楽部、 筑波技術大学ラジオサークル	Speed Roller (ローラースケートクラブ)、 フロアー・バレーボール、陸上部 サッカーサークル、柔道部、太極拳サークル、 ブラインドサッカー部、Unlimited、 P.T.C(フィジカル・トレーニング・クラブ)、 テニス・ブラインドテニスサークル、 運動体力分析クラブ グラウンドソフトボール(盲人野球)サークル

(聴覚障害系支援課、視覚障害系支援課作成)

・別添資料 7-2-②-1 課外活動団体への支援実績一覧

【分析結果とその根拠理由】

観点に係る状況のとおり、学生のサークル活動が円滑に行われるよう支援が適切に行われていると判断する。

観点 7-3-①：生活支援等に関する学生のニーズが適切に把握されており、健康、生活、進路、各種ハラスメント等に関する相談・助言体制が整備され、適切に行われているか。

【観点に係る状況】

本学の特性である少人数教育は、生活支援等にも活かされている。クラス担当教員による、学生全員への面談を適宜実施するとともに、学生のニーズや健康状態等を適切に把握できる体制をとっている（前掲別添資料7-1-①-3）。

また、進路相談については、学科・専攻ごとに就職担当教員を配置するなど、それぞれ個別・集団指導に当たるとともに、就職委員会及びキャリア発達支援学長特命プロジェクト委員会を中心に、就職ガイダンスや講演会を開催するなど、社会の動向を見据えて、学生の就職活動を多方面から支援するとともに、社会的・職業的自立を培う取組を行っている（資料7-3-①-A）。

保健管理センターにおいては、定期健康診断の実施及び健康指導のほか、講演会や説明会の開催、抗体検査や予防ワクチン接種を実施するとともに、近隣の総合病院との連携、学科長、クラス担当教員と保護者との情報交換など、きめの細かい対応を行っている（資料7-3-①-B, C）。また、非常勤の眼科医、耳鼻科医、カウンセラーによる相談・助言体制を整備している。

毎年、年度当初に、学生に係る人権問題等に対応するため、保健管理センター長、寄宿舍主任、各学科・専攻及び障害者高等教育支援センターの教員、看護師で構成する苦情相談窓口相談員を学生に周知し、各種ハラスメントに適切な対応ができるように配慮している（資料7-3-①-D, 別添資料7-3-①-1）。

資料7-3-①-A 就職ガイダンス実施状況（平成23年度）

【産業技術学部】

	実施日	内容等	講師等
第1回	H23. 5. 11	就職活動の手順	障害者支援研究部 石原
第2回	H23. 6. 15	卒業後の進路を考える	就職支援員 青山
第3回	H23. 6. 29	就職活動における身だしなみと着こなし	青山商事㈱つくば店長
第4回	H23. 7. 13	卒業後の進路について	就職支援員 青山
第5回	H23. 7. 20	S P I 模擬試験	就職支援員 青山
第6回	H23. 7. 20	就職試験	就職支援員 青山
第7回	H23. 10. 26	働くとは?～就職活動から内定まで～	コスビジ ㈱ 森崎
第8回	H23. 12. 7	笑顔講座	資生堂 滝井
第9回	H23. 12. 20	働くとは?～自己分析～	コスビジ ㈱ 森崎
第10回	H24. 1. 11	卒業後の進路を考える	就職支援員 青山
第11回	H24. 1. 24	アクション!～入社してから～	コスビジ ㈱ 森崎

【保健科学部】

	実施日	内容等	講師等
第1回	H24. 1. 28	進路セミナー「専門理学療法士への道」	筑波大学附属病院水戸地域医療教育センター 理学療法士
第2回	H24. 2. 17	進路セミナー「鍼灸マッサージ師に地域社会が求めているもの」	神奈川県平塚盲学校教諭
第3回	H24. 3. 2	進路セミナー「障害学生として就職活動を実施する際の心構え」	(株) 日立システムズ
第4回	H24. 3. 9	講演会、模擬面接会	清水コンサルタント代表

(聴覚障害系支援課、視覚障害系支援課作成)

資料 7-3-①-B 講習会等実施状況（平成 23 年度）

実施日	講習会等名	実施場所	参加人数
H23. 4. 14	「体と心の健康・薬物乱用防止について」講演（フレッシュマンセミナー）	天久保キャンパス	50 人
H23. 5. 16	「メンタル・ヘルスについて」講演（フレッシュマンセミナー）	春日キャンパス	新入生
H23. 5. 23	「行政が行う障害者に対するサービスの制度」講演（フレッシュマンセミナー）	春日キャンパス	40 人
H23. 6. 20	「安全な学生生活をスタートするために心がけること」講演（フレッシュマンセミナー）	春日キャンパス	40 人
H23. 6. 27	「食生活と健康について」講演	春日キャンパス	40 人
H23. 9. 12	自殺予防に関する講演会	天久保キャンパス	100 人
H23. 10. 3 H23. 10. 12	模擬店実施に係る食中毒に関する説明会	春日キャンパス 天久保キャンパス	20 人 80 人

（聴覚障害系支援課作成）

資料 7-3-①-C 保健管理センター利用者数（平成 23 年度）

区分	聴覚障害系	視覚障害系	合計
学生	795	1010	1805
教職員	317	241	558
計	1112	1251	2363

（出典：筑波技術大学基本データ集）

資料 7-3-①-D 学生に係る人権問題等に対応するための苦情相談窓口の取扱いについて（平成 17 年 11 月 11 日学生委員会）（抜粋）

<p>（趣旨）</p> <p>1 学生に係る人権問題等（以下「不快言動等」という。）の対応に関し、必要な項目を次のとおり定め、学生からの苦情の申出及び相談を受ける窓口（以下「苦情相談窓口」という。）を学生委員会のもとに設置し、学生が快適に就学できる環境を維持させることに努める。</p> <p>（苦情相談窓口）</p> <p>2 苦情相談窓口は、直接の窓口となる次の相談員をもって組織する。</p> <p>（相談員）</p> <p>3 相談員は、次に掲げる者をもって充て、年度始めに学生に周知する。</p> <p>（1）学生委員会委員長が指名する者 若干名</p> <p>（2）寄宿舎主任</p> <p>（3）保健管理センター教員及び看護師</p> <p>（4）上記の者の他、必要に応じてクラス担当教員等を相談員とすることが出来る。</p> <p>（相談員の対応）</p> <p>4 相談員は、次に掲げる対応を行うものとする。</p> <p>（1）相談員は、複数の人数で苦情相談に対応すること。</p> <p>（2）相談員は、不快言動等の対応に当たっては、相談員のプライバシーを保護し、個人の秘密を厳守して事実関係の確認及び当事者に対して指導・助言等を行うこと。</p> <p>（3）苦情相談窓口で解決できない不快言動等については、相談者の同意を得て、産業技術学部にあつては産業技術学部寄宿舎学</p>

生生活委員会、保健科学部にあっては学生委員会の保健科学部の委員（以下「委員会等」という。）に問題解決の依頼を行うこと。

(4) 委員会等において、学生委員会で解決することが望ましいとしたものについては、学生委員会へ依頼すること。

・別添資料7-3-①-1 人権侵害問題等の防止のために筑波技術大学学生が認識すべき事項について

【分析結果とその根拠理由】

観点に係る状況のとおり、生活支援等に関する学生のニーズが適切に把握されており、健康、生活、進路、各種ハラスメント等に関する相談・助言体制が整備され、適切に行われていると判断する。

観点7-3-②： 特別な支援を行うことが必要と考えられる学生への生活支援等を適切に行うことのできる状況にあるか。また、必要に応じて生活支援等が行われているか。

【観点に係る状況】

聴覚障害及び視覚障害に対する支援については、本学の特性を活かし、適宜適切な対応が取られている。

障害者高等教育研究支援センターでは、聴覚障害学生に対して、視覚情報として様々な情報を提供しているだけでなく、聴覚管理の相談、補聴器活用の支援及び手話・コミュニケーション指導なども行っている。また、重複障害に対する支援を必要とする学生については、入学前から聞き取り調査を行い必要な支援や手配を行っている。平成23年度は、学生に対する特別支援委員会として、2つの事例において学習支援並びに生活支援を行った。まず、視覚障害（視野狭窄）を併せ有する聴覚障害学生については、盲ろう教育の専門家を招聘し、本人と面談することによって自身が直面している問題の認識・整理を行った。その結果に基づいて、学習支援（講義時のプレゼンテーションを見るための小型モニタの活用支援）、生活支援（寄宿舍、校舎間の移動における歩行訓練、寄宿舍玄関の整備、夜間時の照明の再構築）を行った。生活支援については、寄宿舍学生委員会並びに財務課施設系の協力を得た。また、発達障害を併せ有すると思われる聴覚障害学生については、発達障害の専門家を招聘し、当該学生の進路の検討を視野にいれた協議を、本人、担任、キャリア支援担当者、保護者の中で協議が行われた。その結果に基づいて、成人の発達障害の状態を診察できる医療機関の紹介、就労を前提とした進路に関する支援を行った。さらに、学生に対する特別支援委員会会議を開催し、支援内容を主査より報告するとともに、今後の対応について協議を行った。

また、障害者高等教育研究支援センターでは、視覚障害学生に対して、点字、拡大文字や白黒反転可能なディスプレイにより情報提供を行うとともに、音声による情報の提供も行っている。入学時のオリエンテーションには、環境適応指導（ファミリアリゼーション）を行い、また、視力低下が進行している学生に対しては、点字指導、歩行訓練、個々の視覚障害特性に合わせた補償機器の選択の指導などを行っている。学内の設備は、誘導ブロック、誘導チャイム、点字サイン、光る点字ブロック、弱視者用照明等を順次整備している。また、バリアフリー委員会では、障害に特化した専門的事項について検討を行っている（別添資料7-3-②-2）。さらに、視覚障害以外の疾患がある重複障害学生については、保健管理センターが中心となり、障害に応じた様々な支援を行っている。

留学生支援については、留学生センター設置準備室において、障害のある外国人留学生に対し、チューターや日本語補講などの支援を行っている（別添資料7-3-②-3）。

- ・別添資料7-3-②-1 平成22年度学生に対する特別支援委員会業務報告
- ・別添資料7-3-②-2 平成23年度保健科学部バリアフリー委員会議事次第
- ・別添資料7-3-②-3 平成22年度留学生センター設置準備室事業報告書

【分析結果とその根拠理由】

観点に係る状況のとおり、特別な支援を行うことが必要と考えられる学生への生活支援等を適切に行うことのできる状況にあり、また、必要に応じて生活支援等が行われていると判断する。

観点7-3-③： 学生の経済面の援助が適切に行われているか。

【観点に係る状況】

経済面の援助としては、授業料の免除、(独)日本学生支援機構等の奨学金貸与があり、大学説明会、新入生オリエンテーション及び掲示等で説明・情報提供を行っている。

授業料免除制度は、経済的理由による授業料免除、成績優秀者及び学長表彰者に対する授業料免除を設けている(資料7-3-③-A, B)。

経済的理由による免除では、毎年前期(4月)と後期(10月)にそれぞれ免除を実施している。

成績優秀者に対する授業料免除では、成績が特に優秀な者に半期ごとに全額の授業料を免除していたが、大学院については平成22年度入学者から、学部については平成23年度入学者から、成績優秀な者を把握するため、直近の成績に基づき半期ごとに授業料を半額免除する制度に改正した。

各種奨学金の案内は、先方からの案内通知文を掲示するだけでなく、視覚障害学生に対し、拡大文字版及び点字版など、必要に応じて学生に分かりやすい掲示内容とするなどの工夫をし、周知している。

学生寄宿舍は、天久保、春日の両キャンパスに設置し運営している。その入居状況は資料7-3-③-Cのとおりである。

資料7-3-③-A 授業料免除学生数と奨学生数(平成23年度)

事項		学部名等	産業技術学部		保健科学部		技術科学研究科	
			前期	後期	前期	後期	前期	後期
授業料免除	経済的理由	全額	16	18	19	24	0	0
		半額	26	22	45	36	7	8
	震災にかかると免除	全額	0	0	3	3	0	0
	成績優秀者	全額	30		20			
		半額	10	10	5	6	12	12
表彰	全額	1	1	0	0	0	0	
奨学生数	日本学生支援機構第一種		21		22		2	
	日本学生支援機構第二種		27		35		1	
	東京海上各務記念財団		3		3		0	
	茨城県奨学生		0		1		0	
	平和中島財団		1		1		0	

	鹿児島育英財団	1	0	0
	友末洋治記念奨学基金	0	2	0
	三菱商事緊急支援奨学金	0	3	0
学生数(母数)		218	156	13

(聴覚障害系支援課, 視覚障害系支援課作成)

資料 7-3-③-B 授業料等の免除及び徴収猶予取扱規程, 入学料の免除及び徴収猶予取扱規程

- ・国立大学法人筑波技術大学授業料等の免除及び徴収猶予取扱規程
(<http://www.tsukuba-tech.ac.jp/assets/files/soumu/kisoku/gakusei/09-03.pdf>)
- ・国立大学法人筑波技術大学入学料の免除及び徴収猶予取扱規程
(<http://www.tsukuba-tech.ac.jp/assets/files/soumu/kisoku/gakusei/09-02.pdf>)

資料 7-3-③-C 学生寄宿舎の入居状況

【天久保寄宿舎】

区分	平成 23 年度
在学生数 (A)	218 人
全居室数 (B)	190 室
入居者数 (C)	180 人
入居率 (C/B)	94.7%

【春日寄宿舎】

区分	平成 23 年度
在学生数 (A)	169 人
全居室数 (B)	157 室
入居者数 (C)	123 人
入居率 (C/B)	78.3%

(聴覚障害系支援課, 視覚障害系支援課作成)

【分析結果とその根拠理由】

観点に係る状況のとおり, 学生の経済面の援助が適切に行われていると判断する。

(2) 優れた点及び改善を要する点

【優れた点】

- 本学は聴覚及び視覚障害学生のための大学であり, 天久保キャンパス (聴覚障害関係) における障害に対する支援 (聴覚管理及び補聴相談, 手話・コミュニケーション指導など), 春日キャンパス (視覚障害関係) における障害に対する支援 (ファミリーゼーション, 歩行訓練, 点字指導, 個々の視覚障害特性に合わせた補償機器の選択の指導など) が非常に充実している。さらに, 重複障害がある学生についても障害に応じた様々な支援を行っている。

【改善を要する点】

該当なし

(3) 基準7の自己評価の概要

新入生オリエンテーション、フレッシュマンセミナーを通して、正・副クラス担当教員による履修指導を適切に行っている。

聴覚障害学生に対する聴覚管理及び補聴相談、手話・コミュニケーション指導などを実施している。

視覚障害学生に対する拡大文字、白黒反転文字、触覚や音声による情報保障は、本学で開発した機器やソフトウェアを含め提供している。

重複障害がある学生についても障害に応じた様々な支援を行っている。

授業が行われていない時間帯の教室を自習室として利用するとともに、学生の使用希望の多いコンピュータ関連の実習室を非使用時間帯にも自由に利用させるなどの措置を講じている。

保健管理センターにおける応急処置や諸相談のための利用は、天久保(聴覚障害関係)、春日(視覚障害関係)、両キャンパス併せて年間約2,400件程度ある。

授業料免除は、経済的理由及び成績優秀による授業料免除を実施している。

奨学金の案内等は、先方からの案内を掲示するだけでなく、視覚障害学生に対し、拡大文字版及び点字版など、必要に応じて本学学生に分かりやすい掲示内容とするなどの工夫をし、周知している。

基準 8 施設・設備

(1) 観点ごとの分析

観点 8-1-①： 大学において編成された教育研究組織の運営及び教育課程の実現にふさわしい施設・設備が整備され、有効に活用されているか。また、施設・設備のバリアフリー化への配慮がなされているか。

【観点到係る状況】

本学の校地面積及び校舎面積は、資料 8-1-①-A のとおりであり、各々大学設置基準で定められた基準を満たしており、大学の教育研究に必要とされる運動場、体育館、研究室、講義室、演習室、実験・実習室等の施設を整備している。

資料 8-1-①-A 大学設置基準上必要な校地・校舎の面積

校 地		校 舎	
校地面積 (㎡)	設置基準上必要な校地面積 (㎡)	校舎面積 (㎡)	設置基準上必要な校舎面積 (㎡)
83,702	3,600	11,992	8,462

(財務課作成)

また、キャンパス内の施設・設備については、キャンパス整備計画書（別添資料 8-1-①-1）において、以下の 4 つの要素を本学の施設整備のコンセプトとし

- ・安全性の十分な確保
- ・開放的で明るい雰囲気
- ・バリアフリー環境の確保
- ・コミュニケーションの重視

この 4 つの要素に沿った教育研究環境の整備を行っている。さらに、附属図書館は夜間も開館し、学生の利便性に配慮している。

施設・設備のバリアフリー化については、我が国唯一の聴覚障害者及び視覚障害者のための大学として、特に重視し、それぞれの障害に対応できる施設・設備の整備を図っている。聴覚障害学生に対しては、視覚による非常警報機や学内 CATV システム、来訪者・外部コミュニケーションシステム等の視覚による情報伝達等を基本とする情報障害を補償した施設・設備の整備、視覚障害学生に対しては、弱視者のために採光等の配慮、つまずき防止のため床は滑りにくく凹凸のないもの、衝突に備えて壁面・柱のコーナーの隅切り、点字ブロックによる表示、音声誘導案内システム等の聴覚による情報伝達を基本とする情報障害を補償した施設・設備の整備等を行い、全国の聴覚・視覚障害機関のモデルとなるよう施設の整備を図っている（資料 8-1-①-B）。

安全対策については、学生、教職員全員に危機管理マニュアルを配布し、本学の危機予防措置や災害発生時の対応について周知を行うとともに、防災訓練の実施、災害時の避難経路確保のための安全確認を行っている。

また、設備面においても、聴覚障害学生・教職員への災害情報の提供手段として火災報知機と連動した文字表示盤を設置し、安全確保を図っている。

防犯対策については、主要建物の主な出入口に防犯用の監視カメラを設置し、防犯体制の強化を図っている。

資料 8-1-①-B 情報保障環境

- ・聴覚障害者の情報保障環境 (http://www.tsukuba-tech.ac.jp/department/it/amakubo_environment.html)
- ・視覚障害者の情報保障環境 (http://www.tsukuba-tech.ac.jp/department/hs/kasuga_environment.html)

- ・別添資料 8-1-①-1 キャンパス整備計画書（基本案）

【分析結果とその根拠理由】

観点に係る状況のとおり、大学において編成された教育研究組織の運営及び教育課程の実現にふさわしい施設・設備が整備され、有効に活用しており、また、施設・設備のバリアフリー化への配慮がなされていると判断する。

観点 8-1-②： 大学において編成された教育課程の遂行に必要な ICT 環境が整備され、有効に活用されているか。

【観点に係る状況】

学内 LAN 設備は、平成 12 年度から整備が開始され、平成 13 年 11 月に運用を開始した機器・設備を基礎とし、これらの機器・設備に順次改良・改善を加えてきている。通信容量の確保、特に対外接続においては、その容量拡大を図ってきている。安全性の確立としては、全学統一ネットワーク認証システムの導入を図り、これにより、機動性を確立するための一環として、無線 LAN アクセスポイントの全学的設置を図り、平成 21 年度には最新規格の 802.11n への更新を行い、更には平成 23 年度に無線 LAN アクセスポイントを増設し利便性を向上させている。

平成 13 年度に設置された機器については、平成 21 年度に全学的に一括更新を行い、この結果、主要幹線において、通信容量の拡大と冗長性を向上させるとともに接続ポート数の不足も解消している。

対外接続機器については、平成 23 年度から運用が開始される予定の SINET4 に対応させるために、平成 21 年度に 1Gbps 対応の機器に更新している。また、この更新機器を有効利用するために、平成 22 年 4 月より対外接続を 1Gbps に高速化している。平成 23 年 3 月末に SINET4 への切り替えを行い、これにより、従来は学外情報通信は SINET3 ノード校に接続していたが、天久保地区と春日地区が各々直接 SINET4 データセンターと通信を行う形式となり、災害時などの安定性が向上している（別添資料 8-1-②-1）。

教育用パソコンの整備状況は、前掲資料 7-2-①-A のとおりである。また、学生全員に電子メールアカウントを発行し、電子メールによるレポートの提出を可能としているとともに、聴覚障害者には携帯電話の活用により、学生が自習できるシステムを整備している。

その他、聴覚障害学生には、学内広報用としての学内 CATV システムを用い、授業時間の変更などのさまざまな情報を学内の 74 ヶ所に設置してあるテレビ端末で周知している。また、視覚障害学生には、各教室に設置しているパソコンに、画面拡大ソフト、画面読み上げソフトがインストールされているほか、点字ディスプレイ、点図ディスプレイ、拡大読書器などを整備し、障害を補償している。

- ・別添資料 8-1-②-1 学内ネットワークシステムの整備状況

【分析結果とその根拠理由】

観点に係る状況のとおり、大学において編成された教育課程の遂行に必要な ICT 環境が整備され、有効に活用されていると判断する。

観点 8-1-③： 施設・設備の運用に関する方針が明確に規定され、大学の構成員（教職員及び学生）に周知されているか。

【観点に係る状況】

各施設・設備については、運用方針や利用規則を明確に定め、学生については「学生便覧」に記載し、新入生ガイダンス等で説明している（別添資料 8-1-③-1, 2）。教職員については、学内専用ウェブサイトの「筑波技術大学大学規則集」で周知しているとともに、変更があった場合には、学内電子掲示板「グループウェア」で変更した旨通知し、周知を図っている（資料 8-1-③-A）。

資料 8-1-③-A 学内電子掲示板「グループウェア」



- ・別添資料 8-1-③-1 平成 23 年度 学生便覧 産業技術学部・技術科学研究科（産業技術学専攻）
- ・別添資料 8-1-③-2 学生便覧（保健科学部・技術科学研究科 保健科学専攻）平成 23 年度

【分析結果とその根拠理由】

観点に係る状況のとおり、施設・設備の運用に関する方針が明確に規定され、大学の構成員に周知されていると判断する。

観点 8-2-①： 図書館が整備され、図書、学術雑誌、視聴覚資料その他の教育研究上必要な資料が系統的に収集、整理されており、有効に活用されているか。

【観点に係る状況】

附属図書館は、天久保キャンパスの聴覚障害系図書館、春日キャンパスの視覚障害系図書館の2館により構成されている。

平成24年3月31日現在、図書76,000冊、雑誌約1,000種を所蔵しており、蔵書については、「聴覚障害者及び視覚障害者のための大学」という観点から、聴覚障害系図書館では、字幕入りビデオテープ、障害者教育、障害者福祉、手話等の資料を、視覚障害系図書館では、視覚障害関係図書、点字図書、拡大文字図書、音声資料(主にDAISY資料)を積極的に収集している(資料8-2-①-A)。しかし、磁気テープで作成されている字幕入りビデオテープや音声資料(カセットテープ)については、今後の劣化が心配される。

図書資料購入に関しては、図書館職員の選書担当員が幅広い分野から学生の学習・教養に必要な資料を選書している他、図書館委員会委員を通じて各専門の教員により図書を選定してもらうことで、学生の教育・カリキュラムに沿った資料の充実を図っている。また、平成21年度以降電子ブック、平成22年度には電子ジャーナルパッケージを導入する等、電子的資料の整備も行っている。

平成21年8月から本格的な運用を開始した機関リポジトリでは、全ての論文に読み上げソフト用の透明テキスト(文字情報)を付与する等、視覚障害者に配慮したコンテンツを作成、公開している(資料8-2-①-B)。

資料8-2-①-A 図書館の状況(平成23年度末現在)

図書館	閲覧 座席数	蔵書状態								電子 ジャーナル タイトル数	電子 ブック タイトル数
		図書冊数		点字 図書 (内数)	学術雑誌 タイトル数		視聴覚資料				
		和	洋		和	洋	DAISY 資料	字幕入 ビデオ	その他		
聴覚障害系	25	37,389	4,395	—	489	120	—	1,083	1,549		
視覚障害系	41	28,837	5,387	7,160	295	99	3,006	—	1,622		
合計	66	76,008		—	1,003		7,260			2,157	723

図書館名	年間開館 日数	年間開館 総時間数	入館者数	貸出冊数		視聴覚資料 貸出点数 (内数)
				教職員	学生	
聴覚障害系	268	2,610	22,438	469	1,319	117
視覚障害系	269	2,773	49,169	552	1,497	143

(聴覚障害系支援課、視覚障害系支援課作成)

資料 8-2-①-B 筑波技術大学機関リポジトリ (<http://www.tsukuba-tech.ac.jp/repo/dspace/>)

【分析結果とその根拠理由】

観点に係る状況のとおり、図書館が整備され、図書、学術雑誌、視聴覚資料その他の教育研究上必要な資料が系統的に収集、整理されており、有効に活用されていると判断する。

ただし、磁気テープで作成されている映像資料、音声資料については、今後の劣化が心配されるため、教材のデジタル化への転換を進めていく必要がある。

(2) 優れた点及び改善を要する点

【優れた点】

- 施設・設備のバリアフリー化について、聴覚及び視覚障害学生の特性に配慮した施設・設備を進め、学生を含めた全利用者が円滑に施設・設備を利用できるよう配慮している。
- 聴覚障害系図書館では、字幕入りビデオテープ、障害者教育、障害者福祉、手話等の資料を、視覚障害系図書館では、点字図書、拡大文字図書、音声資料(主に DAISY 資料)を積極的に収集している。
- 機関リポジトリでは、視覚障害者を配慮し、全ての論文に読み上げソフト用の透明テキスト(文字情報)を付与する等、視覚障害者に配慮したコンテンツを作成、公開している。

【改善を要する点】

- 磁気テープで作成されている映像資料、音声資料については、今後の劣化が心配されるため、教材のデジタル化への転換を進めていく必要がある。

(3) 基準 8 の自己評価の概要

大学の教育研究に必要とされる運動場，体育館，研究室，講義室，演習室，実験・実習室等の施設を整備するとともに，聴覚及び視覚障害学生の特性に配慮した施設・設備のバリアフリー化を進め，学生を含めた全利用者が円滑に施設・設備を利用できるよう配慮している。また，夜間に図書館を開放し，学生の利便性に配慮している。なお，大学設置基準に規定されている，校地，校舎等の教育研究に必要とされる施設・設備の基準は満たしている。

教育用パソコンの整備のほか，聴覚障害者には，学内 CATV システムを用い，学内広報用としてさまざまな情報をテレビ端末に掲示している。また，視覚障害者に対しては，各教室に，拡大画面，音声合成装置及び点字ディスプレイなどを整備している。

教育研究に必要とされる施設・設備については，運用方針や利用規則を明確に定め，学生については「学生便覧」に記載し，新入生ガイダンス等で説明している。教職員については，ウェブサイト掲載等により周知を図っている。

両キャンパスにそれぞれ図書館が設置され，図書約 76,000 冊，雑誌約 1,000 種を所蔵しており，聴覚障害系図書館では，字幕入りビデオテープ，障害者教育，障害者福祉，手話等の資料を，視覚障害系図書館では，点字図書，拡大文字図書，音声資料(主に DAISY 資料)を積極的に収集している。また，平成 21 年度以降電子ブック，電子ジャーナルパッケージを導入する等，電子的資料の整備も行っている。

機関リポジトリでは，全ての論文に読み上げソフト用の透明テキスト(文字情報)を付与する等，視覚障害者に配慮したコンテンツを作成，公開している。

基準9 教育の質の向上及び改善のためのシステム

(1) 観点ごとの分析

観点9-1-①: 教育の状況について、活動の実態を示すデータや資料を適切に収集し、蓄積しているか。

【観点到る状況】

教育活動に関するデータや資料は、「筑波技術大学法人文書管理規程」に基づき、聴覚障害系支援課及び視覚障害系支援課において、教務システム（学籍、開設授業、履修科目、成績等）等を用いて適切に収集し、蓄積している（資料9-1-①-A, B）。

また、教育研究活動に関する資料については、「筑波技術大学テクノレポート」に掲載し、「筑波技術大学機関リポジトリ」において公表している（資料9-1-①-C）。

資料9-1-①-A 筑波技術大学法人文書ファイル管理簿（抜粋）

大分類	中分類	小分類	法人文書ファイル名	保存期間	保存場所	管理担当 課・係等
聴覚障害系支援課	学籍・諸証明	学籍	学生名簿	10年	事務室	聴覚障害系支援課教務係
視覚障害系支援課	学籍・諸証明	学籍異動	休学願及び休学許可書	10年	事務室	視覚障害系支援課教務係
聴覚障害系支援課	教務	教育課程	開設授業科目一覧	5年	事務室	聴覚障害系支援課教務係
視覚障害系支援課	教務	教育課程	シラバス	5年	事務室	視覚障害系支援課教務係
聴覚障害系支援課	教務	成績	卒業判定資料	10年	事務室	聴覚障害系支援課教務係
視覚障害系支援課	教務	履修申請	履修申請書	5年	事務室	視覚障害系支援課教務係

(出典：文書管理ファイル簿)

資料9-1-①-B 国立大学法人筑波技術大学法人文書管理規程

<http://www.tsukuba-tech.ac.jp/assets/files/soumu/kisoku/syomu/03-01.pdf>

資料9-1-①-C 筑波技術大学テクノレポート

<http://www.tsukuba-tech.ac.jp/repo/dspace/kiyo/t0102>

【分析結果とその根拠理由】

観点到る状況のとおり、教育の状況について、活動の実態を示すデータや資料を適切に収集し、蓄積していると判断する。

観点9-1-②: 大学の構成員（教職員及び学生）の意見の聴取が行われており、教育の質の向上、改善に向けて具体的かつ継続的に適切な形で活かされているか。

【観点に係る状況】

学期末ごとに「学生による授業評価」をアンケート形式で行っており、集計結果は、担当教員にフィードバックし、シラバスの記載内容を充実させるなど、授業改善の資料として活用している（前掲資料6-1-③-C）。また、授業評価結果は、教育活動に関する点検評価委員会において分析し、教員会議で実施状況を報告するとともに、産業技術学部にあつては学内専用ウェブサイトに掲載している（別添資料6-1-③-1）。その他、教員相互の授業参観で収集した授業内容や進め方等の意見は、教育の質の向上や改善に向けた資料としている（別添資料9-1-②-1）。

・別添資料9-1-②-1 教員相互の授業参観の開催状況

【分析結果とその根拠理由】

観点に係る状況のとおり、大学の構成員の意見の聴取が行われており、教育の質の向上、改善に向けて具体的かつ継続的に適切な形で活かされていると判断する。

観点9-1-③： 学外関係者の意見が、教育の質の向上、改善に向けて具体的かつ継続的に適切な形で活かされているか。

【観点に係る状況】

産業技術学部では、在学者の保護者からなる聴覚障害学生を支援する親の会との懇談会を年1回設け、授業参観後、教育や学生生活などに関して教員と意見交換会を行い、保護者の意見は教員会議で報告されている。就職先関係者との意見交換は、毎年本学で行われる企業向け大学説明会で行っている（別添資料9-1-③-1）。また、卒業生の就職先企業を訪問するなど本学への要望などの意見を収集し、教育課程を考える上で活かしている。さらに、各地で行われる大学説明会などで聴覚特別支援学校教員や保護者の意見を聴取している（前掲資料4-1-①-G）。

保健科学部では、教育や学生生活などに関して、視覚特別支援学校の教職員の意見を聞いて、教育の質の向上や改善に努めている。また、学外見学者の訪問を積極的に受入れ、本学の教育内容や取組を公開している。就職先関係者と話し合い、本学への要望や意見を収集し、その要望等を必要に応じ、教育内容やカリキュラム編成に活かしている。本学を訪問できない視覚特別支援学校の教職員や保護者等に対しては、各地で行われる大学説明会において直接意見を聞き、その意見を必要に応じ、教育への取組や改善に活かしている（前掲資料4-1-①-G）。

・別添資料9-1-③-1 企業向け大学説明会実施要領

【分析結果とその根拠理由】

観点に係る状況のとおり、学外関係者の意見が、教育の質の向上、改善に向けて具体的かつ継続的に適切な形で活かされていると判断する。

観点 9-1-④： 個々の教員は、評価結果に基づいて、それぞれの質の向上を図るとともに、授業内容、教材、教授技術等の継続的改善を行っているか。

【観点に係る状況】

学生による授業評価アンケートの分析結果は、各教員にフィードバックすることにより、教育に関する教授法、指導法の改善・向上に活かしている（資料 9-1-④-A、別添資料 6-1-③-1）。

資料 9-1-④-A 教育効果を高めるために、特に行っている方法・工夫（産業技術学部）（抜粋）

- ・教科書に相当する講義資料を準備し、予習や復習にも使えるようにした。講義と演習の時間配分を内容に応じて調整するなど、学生の理解度を確認しながら授業を進めた。
- ・毎回の授業資料配布、写真や図等の多用、毎回の手書き復習レポートの提出と添削後の返却、ケーススタディ授業も入れて体感的に理解するようにしている。
- ・授業の最後の 10 分を使い、その回の講義内容を振り返るためのクイズを実施している。これはできるだけ容易なレベルに抑えることで、内容の復習に集中させることが目的である。
- ・毎回の授業内容をコンパクトにまとめるとともに、講義で具体的に説明した例題を用いて演習課題を解けるように配慮した。
- ・内容の説明だけでなく、実際に学生たちに企画・立案させたテーマでの官能評価の模擬実験を実施し、その分析結果の口頭発表ならびにレポート提出を課している。
- ・無味乾燥な数学的取扱いに終わらないように、適宜、エクセルによる信号処理シュミレーション（グラフ化）課題を課している。
- ・進み具合とレベルに対応し技術指導。学習の目的、作品制作過程の方法、手順を資料として配布。理解促進のため、段階を踏んで制作させる。
- ・少し多いと思われるくらいに関連資料を配布しながら解説をすることで、ポイント的な理解から面的な理解に寄与した。

（出典：平成 22 年度授業に関するアンケート調査報告書）

【分析結果とその根拠理由】

観点に係る状況のとおり、個々の教員は、評価結果に基づいて、それぞれの質の向上を図るとともに、授業内容、教材、教授技術等の継続的改善を行っていると判断する。

観点 9-2-①： ファカルティ・ディベロップメントが、適切な方法で実施され、組織として教育の質の向上や授業の改善に結び付いているか。

【観点に係る状況】

本学では、短期大学時代から各部局において FD 活動を行ってきたが、FD の義務化に向け平成 19 年度から FD・SD 企画室（資料 9-2-①-A）を設け、平成 20 年度から全学的な FD 講演会を毎年おおむね年 3 回実施しており、終了後は必要に応じ授業等のため欠席した教員に講演会資料の配布又は記録 DVD の貸出を行っている（資料 9-2-①-B）。

各部局における FD 活動としては、学生による授業評価アンケートや教員相互の授業参観等を実施し、その結果を各部局において教員にフィードバックし授業改善に役立てるとともに、FD・SD 企画室において検証している（前掲資料 6-1-③-C）。

また、FD・SD 企画室が中心となり作成した「FD・SD ハンドブック—聴覚・視覚障害者の修学のために—」を全教職員に配布し、開学以来蓄積してきた障害者のための新しい教育方法の開発等の本学独自の知見を継承・革新・共有することを念頭に、新採用教員に対する研修等を実施し、教員の教育能力の一層の向上を日常的に図つ

ている（資料9-2-①-C, D）。

さらに、学外との連携として、東日本地域の大学等が連携するFDネットワーク“つばさ”に加盟し、FD協議会等に室員を出席させるとともに、他大学のFD関連のシンポジウム及びFD研修会等に積極的に参加させ、本学のFDのあり方を常に点検している。

資料9-2-①-A 国立大学法人筑波技術大学FD・SD企画室規程（抜粋）

<p>(趣旨)</p> <p>第1条 この規程は、国立大学法人筑波技術大学組織及び管理運営に関する規則（平成17年規則第1号）第12条第1項の規定に基づき、FD・SD企画室（以下「企画室」という。）に関し必要な事項を定めるものとする。</p> <p>(企画検討事項)</p> <p>第2条 企画室において、次に掲げる事項を企画検討する。</p> <p>(1) 全学のFD (Faculty Development : 教育改善のための教員研修) ・SD (Staff Development : 事務系職員の資質向上のための研修) の企画立案及び実施に関する事項</p> <p>(2) FD・SDの在り方に関する事項</p> <p>(3) その他本学におけるFD・SDに関する事項</p> <p>(組織)</p> <p>第3条 企画室に室員を置き、次に掲げる者で組織する。</p> <p>(1) 産業技術学部から推薦された者 2人</p> <p>(2) 保健科学部から推薦された者 2人</p> <p>(3) 障害者高等教育研究支援センターから推薦された者 2人</p> <p>(4) 事務局から推薦された者 2人</p> <p>(5) その他学長が指名する者 若干人</p> <p>2 前項に規定する室員のほか、学外の有識者・専門家をアドバイザーとして委嘱することができる。</p>	
--	--

資料9-2-①-B FD講演会開催状況

年度	回数 実施日	演 題 (講 師)	参加教職員数 (人)
平成 20 年 度	第1回 20. 7. 30	金沢工業大学の教育改革について (金沢工業大学工学部教授 (教務部長) 佐藤 恵一 氏)	66
	第2回 20. 9. 30	授業の課題に対応する～個別支援型FD (授業改善クリニック) (山形大学高等教育研究企画センター講師 杉原 真晃 氏)	41
	第3回 20.12. 24	大規模災害に備える—そのとき何が起きどう対処すべきか— (長岡技術科学大学准教授 上村 靖司 氏)	44
	第4回 21. 3. 24	忍び寄る魔の手 乱用薬物—大麻・覚醒剤を中心に— 事例紹介：日本大学薬学部における聴覚障害学生への情報保障 (日本大学薬学部教授 伊藤 芳久 氏)	45
平成 21 年 度	第1回 21. 7. 31	教職課程の意義と仕組み (文教大学 情報学部 教授 柳生 和男 氏)	35
	第2回 21.11. 13	授業評価を授業改善に活かす (立命館大学教育開発推進機構・教育開発支援センター長 安岡 高志 氏)	52
	第3回	大学を巡るコンプライアンス・危機管理～どうなる？ どうする??～	56

	22. 3. 5	(TMI 総合法律事務所 弁護士 行方國雄 氏, 竹内信紀 氏)	
平成 22 年度	第1回 22. 5. 12	大学機関別認証評価について (大学評価・学位授与機構 教授 荻上 紘一 氏)	67
	第2回 22. 10. 22	大学・大学院教育改革とFD活動に関する最近の動向について (筑波大学大学院システム情報工学研究科 教授 宮本 定明 氏)	46
	第3回 23. 3. 10	大学機関別認証評価について (II) (大学評価・学位授与機構 教授 荻上 紘一 氏)	47
平成 23 年度	第1回 23. 2. 9	留学生を受け入れるということ—教職員・学生の視点から考える— (大阪大学国際教育交流センター 教授 有川 友子 氏)	40

(聴覚障害系支援課作成)

資料9-2-①-C 筑波技術大学情報・理数点訳ネットワーク

http://www.tsukuba-tech.ac.jp/assets/files/kyomu1/gakuikitei/FD_SD_hanndobukku.pdf

資料9-2-①-D 新規採用教員に対する研修内容

平成21年度			
回	実施日	研修形式・目的	担当
1	21. 4. 2	形式：講義「聴覚障害について」 目的：聴覚障害に関して医学，心理，教育の視点から知識を得る。	障害者高等教育研究支援センター：石原教授
2	21. 4. 3	形式：講義と演習「コミュニケーション手段について」 目的：聴覚障害者が利用するコミュニケーション手段を知り，基礎的技術を習得する。	障害者高等教育研究支援センター：白澤准教授
3	21. 4. 9	形式：実習 模擬授業と授業検討会 授業者 鈴木講師，井上准教授 目的：本学学生を対象に講義を行い，さらには授業反省会で指導法に関する指導を受けることによって聴覚障害者指導法の実際を知る。	障害者高等教育研究支援センター：支援系教員
4	21. 4. 10	形式：実習 模擬授業 授業者 永盛助教，黒木准教授 目的：本学学生を対象に講義を行い，さらには授業反省会で指導法に関する指導を受けることによって聴覚障害者指導法の実際を知る。	障害者高等教育研究支援センター：支援系教員

平成22年度	研修対象者なし
--------	---------

平成23年度			
回	実施日	研修形式・目的	担当
1	23. 4. 5	形式・内容：講義「聴覚障害について」 目的：聴覚障害に関して医学，心理，教育の視点から知識を得る。	障害者高等教育研究支援センター：石原教授
2	23. 4. 11	形式・内容：講義と演習「コミュニケーション手段について」 目的：聴覚障害者が利用するコミュニケーション手段を知り，基礎的技術を習得する。	障害者高等教育研究支援センター：白澤准教授

(聴覚障害系支援課作成)

【分析結果とその根拠理由】

観点に係る状況のとおり、ファカルティ・ディベロップメントが、適切な方法で実施され、組織として教育の質の向上や授業の改善に結び付いていると判断する。

観点9-2-②： 教育支援者や教育補助者に対し、教育活動の質の向上を図るための研修等、その資質の向上を図るための取組が適切に行われているか。

【観点に係る状況】

聴覚・視覚障害者のための大学という特殊性を踏まえ、障害のある教員や学生に対する情報保障の観点から、事務系職員、技術職員及び新任教員に対して、手話実技研修及び点字実技研修を実施している。

産業技術学部では、パソコンによる要約筆記入力者の育成のため、月2回の講習会を開催し、本学教員も参加して入力技術の向上を図っている。また、茨城県聴覚障害者協会と連携し、手話通訳者養成講座を開催し、本学教員も講習会の運営や講師として参加している。

保健科学部では、点訳ボランティアグループ6団体の参加を得て、「情報・理数点訳ネットワーク」を構築し、各グループに対し情報・理数点訳に関する講習会を実施している（資料9-2-②-A）。また、本学朗読後援会会員を対象とする「朗読ボランティアのための朗読技術向上」を目的とした講習会を実施している

資料9-2-②-A 筑波技術大学情報・理数点訳ネットワーク

<http://www.ntut-braille-net.org/>

【分析結果とその根拠理由】

観点に係る状況のとおり、教育支援者や教育補助者に対し、教育活動の質の向上を図るための研修等、その資質の向上を図るための取組が適切に行われていると判断する。

(2) 優れた点及び改善を要する点

【優れた点】

- 学生による授業評価は、その結果が教員にフィードバックされ、授業改善や教育の質の向上に役立てられている。

【改善を要する点】

該当なし

(3) 基準9の自己評価の概要

教育活動に関するデータや資料は、筑波技術大学法人文書管理規程に基づき、聴覚障害系支援課及び視覚障害系支援課において、教務システム等を用いて適切に収集し、蓄積している。また、教育研究活動に関する資料に

については、「筑波技術大学テクノレポート」に掲載し、「筑波技術大学機関リポジトリ」において公表している。

学生による授業評価アンケートを行い、その集計結果を担当教員にフィードバックし、授業改善の資料として活用している。

聴覚特別支援学校や視覚特別支援学校の教職員や各地で行われる大学説明会における保護者等の意見等は、必要に応じ、教育への取組や改善に活かしている。

全学的なFD講演会については、毎年おおむね年3回実施している。

パソコンによる要約筆記入力者の育成のため月2回の講習会を開催し、本学教員も参加して入力能力の向上を図っている。

点訳ボランティアグループ6団体の参加を得て、「情報・理数点訳ネットワーク」を構築し、各グループに対し情報・理数点訳に関する講習会を実施している。

基準 10 財務

(1) 観点ごとの分析

観点 10-1-①: 大学の目的に沿った教育研究活動を安定して遂行できる資産を有しているか。また、債務が過大ではないか。

【観点到に係る状況】

本学の資産は、平成 17 年 10 月に 4 年制大学になった際に短期大学から承継した財産を基礎としており、資料 10-1-①-A に示すように、資産は主に、土地、建物、図書などの有形固定資産により構成され、平成 19 年度から平成 23 年度の平均的資産額は約 12,732 百万円である。

また、負債は平成 19 年度から平成 23 年度の平均負債は約 1,521 百万円であり、主に国立大学法人会計基準特有の会計処理により計上される返済を伴わない資産見返負債約 868 百万円などの固定負債と、実質的な負債となる未払金約 392 百万円などの流動負債により構成されているが、平成 19 年度から平成 23 年度の平均現金預金額約 732 百万円を有しており、計画的な返済を行っている。

資料 10-1-①-A 筑波技術大学の財政状態（貸借対照表）

(単位:千円、単位未満四捨五入)

科 目	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度
資産の部	12,514,998	12,728,911	12,897,049	12,812,644	12,708,759
I 固定資産	11,746,826	11,825,512	12,123,869	12,166,172	11,983,829
土地	7,975,000	7,975,000	7,975,000	7,975,000	7,975,000
建物	2,846,121	2,740,837	3,029,762	2,934,270	2,836,271
構築物	240,125	237,573	262,306	259,007	241,739
工具器具備品	341,849	319,476	497,671	559,292	492,115
図書	314,370	320,022	326,550	337,731	343,490
車両運搬具	7,405	5,326	4,048	2,770	1,491
建設仮勘定	0	204,913	6,714	0	0
特許権仮勘定	522	522	534	423	455
電話加入権	295	295	295	295	295
ソフトウェア	21,057	21,471	19,738	16,533	11,695
投資有価証券	0	0	0	79,935	79,949
長期前払費用	35	30	1,204	869	1,282
その他	47	47	47	47	47
II 流動資産	768,172	903,399	773,180	646,472	724,930
現金及び預金	750,607	880,361	748,682	620,644	659,344
未収学生納付金収入	282	846	2,256	1,974	1,692
未収附属病院収入	10,239	10,357	10,257	9,469	9,210
その他未収入金	304	2,103	1,713	3,692	41,379
たな卸資産	451	648	466	861	820
医薬品及び診療材料	3,635	3,562	3,173	3,132	4,045
前払費用	2,491	4,694	3,710	3,281	4,935
未収収益	0	0	0	68	112
仮払金	0	692	2,207	0	1,347
立替金	163	136	716	3,351	2,046
負債の部	1,291,069	1,555,800	1,449,702	1,668,213	1,644,528
I 固定負債	744,587	968,615	900,205	1,038,259	967,403
資産見返負債	701,267	941,665	848,312	964,251	882,311
国立大学財務・経営センター債務負担金	12,547	11,470	10,393	9,315	8,238
退職給付引当金	0	0	0	32,808	38,976
長期リース債務	30,773	15,480	41,500	31,885	37,878
II 流動負債	546,482	587,185	549,497	629,954	677,125
運営費交付金債務	47,291	109,593	0	113,949	176,751
預かり補助金等	0	0	0	1,015	1,015
寄附金債務	53,496	63,773	50,868	32,704	31,604
前受受託研究費等	0	2,095	1,146	601	299
前受金	0	0	0	0	1,815
預り科学研究費補助金等	7,161	5,388	5,537	11,106	18,204
預り金	19,892	18,725	25,656	40,164	35,338
一年以内返済予定国立大学財務・経営センター債務負担金	1,077	1,078	1,077	1,077	1,077
未払金	380,540	370,344	432,010	404,724	373,569
未払費用	268	197	270	210	213
未払消費税等	843	699	0	641	0
リース債務	35,914	15,293	32,933	23,763	37,240
資本の部	11,223,929	11,173,111	11,447,347	11,144,431	11,064,231
I 資本金	11,388,702	11,388,702	11,388,702	11,388,702	11,388,702
政府出資金	11,388,702	11,388,702	11,388,702	11,388,702	11,388,702
II 資本剰余金	△ 457,531	△ 584,143	△ 244,508	△ 370,853	△ 481,576
資本剰余金	54,546	68,731	555,817	587,250	625,728
損益外減価償却累計額(一)	△ 467,713	△ 604,525	△ 749,532	△ 904,003	△ 1,053,204
損益外減損損失累計額(一)	△ 44,364	△ 48,349	△ 50,793	△ 54,100	△ 54,100
III 利益剰余金(繰越欠損金)	292,758	368,552	303,153	126,582	157,105
前中期中目標期間繰越積立金	33,094	27,989	17,395	34,588	34,588
目的積立金	116,952	259,664	100,471	0	91,994
当期未処分利益(又は当期未処理損失)	142,712	80,899	185,287	91,994	30,523
(うち当期総利益又は当期総損失)	142,712	80,899	185,287	91,994	30,523

【分析結果とその根拠理由】

観点に係る状況のとおり、大学の目的に沿った教育研究活動を安定して遂行できる資産を有しており、債務も過大ではないと判断する。

観点 10-1-②：大学の目的に沿った教育研究活動を安定して遂行するための、経常的収入が継続的に確保されているか。

【観点に係る状況】

本学の主な経常的収入は、運営費交付金、学生納付金（授業料、入学料及び検定料収入）、附属病院収入であり、平成 19 年度以降の収入額は、資料 10-1-②-A に示すとおりである。

運営費交付金の総収入に占める収入比率は平成 19 年度から平成 23 年度の平均が約 83% と収入のほとんどを占めており、本学の教育研究活動を支える上で重要な財源となっている。授業料等の学生納付金の収入比率は 5%、附属病院収入の収入比率は 3% である。これら以外の経常的収入として、寄附金収入及び共同研究・受託研究が主要な部分を占める産学連携等研究収入があり、収入比率は 1% となっている。

資料 10-1-②-A 筑波技術大学の決算状況

区分	(単位:千円、単位未満四捨五入)				
	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度
収入	3,009,628	3,317,188	3,508,852	3,249,220	3,251,705
運営費交付金	2,622,257 (87%)	2,791,555 (84%)	2,647,715 (75%)	2,827,864 (87%)	2,716,304 (84%)
施設整備費補助金	21,724	139,047	198,580	0	103,748
補助金等収入	24,544	25,793	48,573	42,380	24,240
国立大学財務・経営センター施設費交付金	15,000	15,000	15,000	17,000	17,000
自己収入	277,533	271,872	309,460	320,042	374,518
授業料、入学料及び検定料収入	122,260 (4%)	119,756 (4%)	146,656 (4%)	151,565 (5%)	226,417 (7%)
附属病院収入	102,782 (3%)	104,636 (3%)	109,586 (3%)	109,776 (3%)	91,729 (3%)
財産処分収入	0	0	0	0	0
雑収入	52,490	47,480	53,218	58,701	56,372
産学連携等研究収入及び寄附金収入等	48,570 (2%)	68,815 (2%)	31,620 (1%)	27,292 (1%)	15,895 (1%)
引当金取崩	0	0	0	0	0
長期借入金収入	0	0	0	0	0
貸付回収金	0	0	0	0	0
承継剰余金	0	0	0	0	0
旧法人承継積立金	0	0	14,831	0	0
目的積立金取崩	0	5,106	243,073	14,642	0
支出	2,944,597	3,125,246	3,381,578	3,005,598	3,026,542
業務費	2,816,601	2,886,291	3,075,499	2,921,091	2,870,068
教育研究経費	2,734,533	2,802,369	2,879,055	2,748,686	2,754,015
診療経費	82,068	83,922	196,444	172,405	116,053
施設整備費	36,724	154,047	213,580	17,000	120,748
船舶建造費	0	0	0	0	0
補助金等	24,544	25,793	48,573	41,365	24,240
産学連携等研究経費及び寄附金事業費等	58,178	57,598	42,445	24,696	10,076
貸付金	0	0	0	0	0
長期借入金償還金	8,550	1,517	1,481	1,446	1,410
国立大学財務・経営センター施設費納付金	0	0	0	0	0
収入-支出	65,031	191,942	127,274	243,622	225,163

【分析結果とその根拠理由】

観点に係る状況のとおり、大学の目的に沿った教育研究活動を安定して遂行するための経常的収入を継続的に確保していると判断する。

観点 10-2-①：大学の目的を達成するための活動の財務上の基礎として、適切な収支に係る計画等が策定され、関係者に明示されているか。

【観点に係る状況】

収支に係る計画は、中期計画及び年度計画において定めている（資料 10-2-①-A）。中期計画では、平成 22 年 4 月から平成 28 年 3 月までの 6 年間の予算、収支計画、資金計画を定めており、各年度の年度計画では、当該年度の予算、収支計画及び資金計画を定めている。

これらの計画は、経営協議会及び役員会等で審議・決定し、本学ウェブサイト上で公開している。

資料 10-2-①-A 中期計画及び年度計画

- ・国立大学法人筑波技術大学中期計画
(http://www.tsukuba-tech.ac.jp/assets/files/soumu/hojin/pdf/chukei_2.pdf)
- ・平成 23 年度国立大学法人筑波技術大学年度計画
(<http://www.tsukuba-tech.ac.jp/assets/files/soumu/hojin/pdf/nenkei23.pdf>)
平成 23 年 6 月 29 日変更(http://www.tsukuba-tech.ac.jp/assets/files/soumu/hojin/pdf/nenkei23_2.pdf)
平成 23 年 11 月 30 日変更(http://www.tsukuba-tech.ac.jp/assets/files/soumu/hojin/pdf/nenkei23_3.pdf)

【分析結果とその根拠理由】

観点に係る状況のとおり、大学の目的を達成するための財政上の基礎として、適切な収支に係る計画等を策定し、関係者に明示していると判断する。

観点 10-2-②：収支の状況において、過大な支出超過となっていないか。

【観点に係る状況】

予算の執行は、年度計画及び予算配分（観点 10-2-③に係る状況についての記述を参照）に沿っている。また、本学独自の事業を円滑に実施するための財源確保を行う目的で、毎年度、経費節減や効率的な執行により発生した余剰金を基に、文部科学大臣により承認された額を目的積立金として積み立ててきており、執行計画を作成し実施している。これらの取組により、前掲資料 10-1-②-A に示されるように、支出超過にはなっていない。

【分析結果とその根拠理由】

観点に係る状況のとおり、収支の状況において、過大な支出超過となっていないと判断する。

観点 10-2-③： 大学の目的を達成するため、教育研究活動（必要な施設・設備の整備を含む。）に対し、適切な資源配分がなされているか。

【観点に係る状況】

本学の大学運営経費の予算編成の基本方針は、毎年度、経営協議会及び役員会の審議を経て、学長が決定している。

各年度の重点配分事項は、短期大学から4年制大学への移行、並びに大学院の設置に伴う教育研究環境の充実が中心となっている。また、教育・研究に対する特別な支援策として、外部資金獲得の促進のための「競争的教育研究経費」の予算を確保するとともに、学長のリーダーシップに基づき配分する学長裁量経費の予算を確保し、全学的に配分を行っている（別添資料 10-2-③-1）。さらに、設備整備についても「設備マスタープラン」に基づき、設備充実のための経費を配分している（別添資料 10-2-③-2）。

施設整備については、毎年度、各部局から要求書を提出させ、施設環境防災委員会において、緊急性・必要性等を勘案し、必要な予算を配分している。

- ・別添資料 10-2-③-1 平成 23 年度教育研究等高度化推進事業募集要項、競争的教育研究プロジェクト事業集計表、教育研究等改革・改善事業採択集計表
- ・別添資料 10-2-③-2 設備マスタープラン、平成 23 年度設備整備費配分額表

【分析結果とその根拠理由】

観点に係る状況のとおり、大学の目的を達成するため、教育研究活動に対し、適切な資源配分を行っている判断する。

観点 10-3-①： 大学を設置する法人の財務諸表等が適切な形で公表されているか。

【観点に係る状況】

本学では、国民や社会に対し財務会計面での説明責任を果たすため、毎事業年度、財務諸表等を法令に基づき官報等で公表し、ウェブサイトでも各年度の財務情報（財務諸表、事業報告書、決算報告書）として公開している（資料 10-3-①-A）。

資料 10-3-①-A 財務情報（平成 23 事業年度）

- ・平成 23 事業年度財務諸表について
(<http://www.tsukuba-tech.ac.jp/assets/files/zaimu/kessan/23zaimusyohou.pdf>)
- ・平成 23 事業年度事業報告書
(<http://www.tsukuba-tech.ac.jp/assets/files/zaimu/kessan/23jigyuhoukokusyo.pdf>)
- ・平成 23 年度決算報告書
(<http://www.tsukuba-tech.ac.jp/assets/files/zaimu/kessan/23kessanhoukokusyo.pdf>)

【分析結果とその根拠理由】

観点に係る状況のとおり、本学の財務諸表等を適切な形で公表していると判断する。

観点 10-3-②： 財務に対して、会計監査等が適正に行われているか。

【観点到係る状況】

本学では、監査室を設置し、日常的に会計伝票の監査を行うとともに、監査室による内部監査、監事による監査、会計監査人による監査を実施している。内部監査については、内部監査要項により「年次計画書」を作成し、この計画書に基づき実施している（別添資料 10-3-②-1, 2）。監事監査については、監事監査規則により毎事業年度「監査計画書」を作成し、この計画書に基づき実施している（別添資料 10-3-②-3, 資料 10-3-②-A）。会計監査人による監査については、文部科学大臣から選任された会計監査人により監査を受けているが、会計監査人からの監査報告書において特段の指摘事項はない（資料 10-3-②-B）。

また、監事は、会計監査人から監査の方法とその結果について報告及び説明を受けた上で、当該監査の正確性について最終確認している。監事による監査報告書において特段の指摘事項はない。

なお、会計監査人の監査報告書及び監事による監査報告書は、財務諸表とともに、ウェブサイトでも公表している。

資料 10-3-②-A 監事監査規則及び監事監査報告書

- ・ 国立大学法人筑波技術大学監事監査規則
(<http://www.tsukuba-tech.ac.jp/assets/files/soumu/kisoku/zaimukaikei/06-18.pdf>)
- ・ 平成 23 年度監事監査報告書 (<http://www.tsukuba-tech.ac.jp/zaimu/kessan/21kannjinoikenn.pdf>)

資料 10-3-②-B 会計監査人監査報告書

- ・ 平成 23 年度会計監査人監査報告書
(<http://www.tsukuba-tech.ac.jp/zaimu/kessan/21kaikeikanssaninnoikenn.pdf>)

- ・ 別添資料 10-3-②-1 国立大学法人筑波技術大学内部監査要項
- ・ 別添資料 10-3-②-2 内部監査計画書（平成 23 年度）
- ・ 別添資料 10-3-②-3 第 7 期事業年度監事監査計画書

【分析結果とその根拠理由】

観点到係る状況のとおり、財務に対して、会計監査等を適正に行っていると判断する。

(2) 優れた点及び改善を要する点

【優れた点】

- 外部資金受入促進のための競争的教育研究経費、学長のリーダーシップに基づき配分する学長裁量経費など、教育・研究に対する特別な支援策として予算を毎年度確保している。

【改善を要する点】

該当なし

(3) 基準 10 の自己評価の概要

本学の資産は、平成 17 年 10 月に 4 年制大学になった際の短期大学から承継した財産を基礎としており、平成 19 年度から平成 23 年度の平均的資産額は約 12,732 百万円であり、安定した教育研究活動が遂行できる資産を必要かつ十分に有している。

また、負債は平成 19 年度から平成 23 年度の平均的負債は約 1,521 百万円であり、主に国立大学法人会計基準特有の会計処理により計上される返済を伴わない資産見返負債約 868 百万円と未払金約 392 百万円などにより構成されているが、実質的な負債である後者については計画的な返済を行っていることから債務が過大ではない。

経常的収入として、運営費交付金、学生納付金(授業料、入学料及び検定料収入)、附属病院収入を安定的に確保するとともに、経常的収入を補完する外部資金(共同研究・受託研究経費及び寄附金等)の獲得に努めており、大学の目的を達成するために、教育研究活動を将来にわたって適切かつ安定して遂行できるだけの財務基盤を有している。

収支に係る計画等は、中期計画及び年度計画において定め、ウェブサイトで公表している。また、予算編成の基本方針は、毎年度、学内諸会議の検討・審議を経て、大学の目的を達成するための活動の財務上の基礎として適切に策定している。

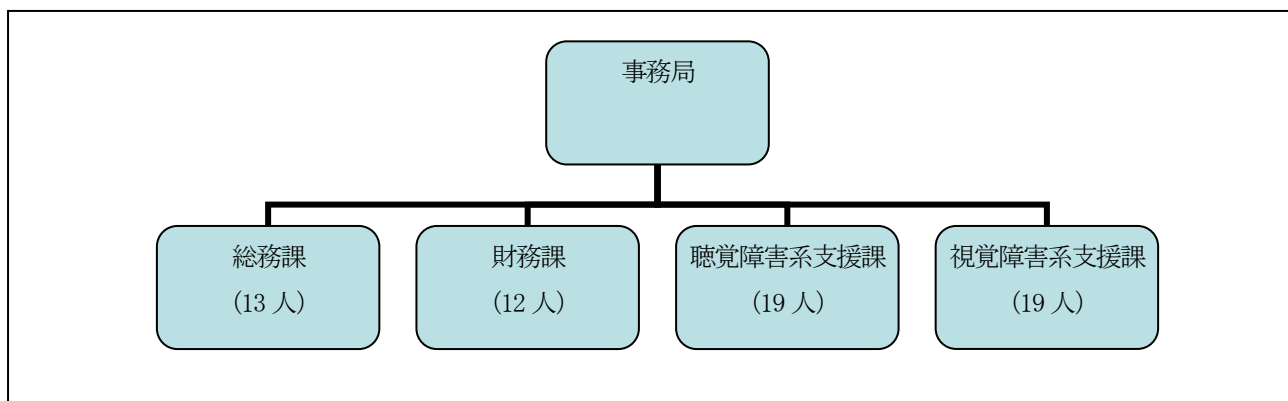
財務諸表等については、毎事業年度、法令に基づき官報に公示し、監事及び会計監査人の意見とともにウェブサイトで公表・公開している。

財務に関する監査については、監査室による内部監査、監事による監査、会計監査人の監査が適切に実施されている。なお、これまでに会計監査人の監査報告書及び監事による監査報告書において、特段の指摘事項はない。

資料 11-1-①-B 組織及び管理運営に関する規則等

- ・国立大学法人筑波技術大学組織及び管理運営に関する規則
(<http://www.tsukuba-tech.ac.jp/assets/files/soumu/kisoku/soshiki/02-01.pdf>)
- ・国立大学法人筑波技術大学役員会規程
(<http://www.tsukuba-tech.ac.jp/assets/files/soumu/kisoku/soshiki/02-03.pdf>)
- ・国立大学法人筑波技術大学経営協議会規程
(<http://www.tsukuba-tech.ac.jp/assets/files/soumu/kisoku/soshiki/02-11.pdf>)
- ・国立大学法人筑波技術大学教育研究評議会規程
(<http://www.tsukuba-tech.ac.jp/assets/files/soumu/kisoku/soshiki/02-12.pdf>)

資料 11-1-①-C 事務組織図（平成 23 年 5 月 1 日現在）



(総務課作成)

資料 11-1-①-D 事務組織規程

- ・国立大学法人筑波技術大学事務組織規程
(<http://www.tsukuba-tech.ac.jp/assets/files/soumu/kisoku/soshiki/02-46.pdf>)

資料 11-1-①-E 各室及び各種委員会における事務職員の参画状況（平成 23 年 5 月 1 日現在）（単位：人）

室・各種委員会名	構成員数 [事務職員数]	室・各種委員会名	構成員数 [事務職員数]
企画・戦略室	9[1]	経営戦略会議	7[1]
監査室	5[3]	個人情報管理委員会	7[1]
評価室	13[4]	学術・社会貢献推進委員会	10[1]
FD・SD 企画室	10[2]	国際交流委員会	13[3]
広報室	15[5]	施設環境防災委員会	12[1]
理療科教員養成課程設置準備室	13[4]	人権問題等委員会	7[2]
留学生センター設置準備室	10[3]	安全衛生委員会	12[5]
教育研究環境整備室	8[1]	研究倫理委員会	9[1]

(総務課作成)

危機管理等に係る体制については、「国立大学法人筑波技術大学危機管理規則」を制定し、全学的な体制を強化するとともに、危機管理対応マニュアルを整備している（資料 11-1-①-F, G）。

資料 11-1-①-F 危機管理規則

- ・ 国立大学法人筑波技術大学危機管理規則

(<http://www.tsukuba-tech.ac.jp/assets/files/soumu/kisoku/soshiki/02-02.pdf>)

資料 11-1-①-G 危機管理対応マニュアル (抜粋)

このような時は
課外活動中の事故
 対列試合の為にA組レンタルカーを利用して遠征していたサークルの部員達は、高速道路走行中に後方を走っていたトラックの前方不注意により追突されたため、乗っていたレンタルカーが大破し、サークルの部員に重傷の負傷者が出たと警察から大学に連絡が入った。
 (対応マニュアル32頁参照)

このような時は
公共交通機関等による重大事故
 通学時間帯に駅前で信号待ちのために停車していた市バスに、暴走したトラックが突っ込んだ。そのため、乗っていた乗客に多数の負傷者が出た。負傷した乗客の中には、本学の学生も多数含まれていたため、警察から大学に連絡が入った。
 (対応マニュアル36頁参照)

学生による危機への対応 (学生が引き起こすケース)

このような時は
大学祭での食中毒
 学生が学園祭で食事をした後入浴し、食中毒らしいとの連絡が入った。
 (対応マニュアル40頁参照)

このような時は
学内外での学生による事件・事故
 学生が学内外で事件・事故をおこしたとの連絡があった。
 (対応マニュアル44-48頁参照)

教職員による危機への対応 (教職員が巻き込まれるケース)

このような時は
教職員の事件・事故・災害等
 本学の教員Aら5人の研究グループは、鉄道を利用して日帰りC大学で開催される学会に2泊3日の日程で出張中であった。出張終了後、鉄道を利用し帰路の途中B県内で大規模な地震

危機管理 対応マニュアル

国立大学法人
筑波技術大学

(出典：国立大学法人筑波技術大学危機管理対応マニュアル)

研究活動の不正を防止するため、「国立大学法人筑波技術大学における研究活動の不正行為防止等に関する規則」を制定し、研究不正防止委員会及び研究不正の通報等を行う窓口を設置している。また、公的研究費の管理・監査のガイドラインに基づき、科学研究費補助金等の研究費に係る不正使用を防止するため、「国立大学法人筑波技術大学における公的研究費等の運営・管理に関する規則」等を制定し、責任者、管理体制などを明確にするとともに、不正使用の通報窓口を設置している (資料 11-1-①-H, I)。

資料 11-1-①-H 研究活動の不正行為防止等に関する規則等

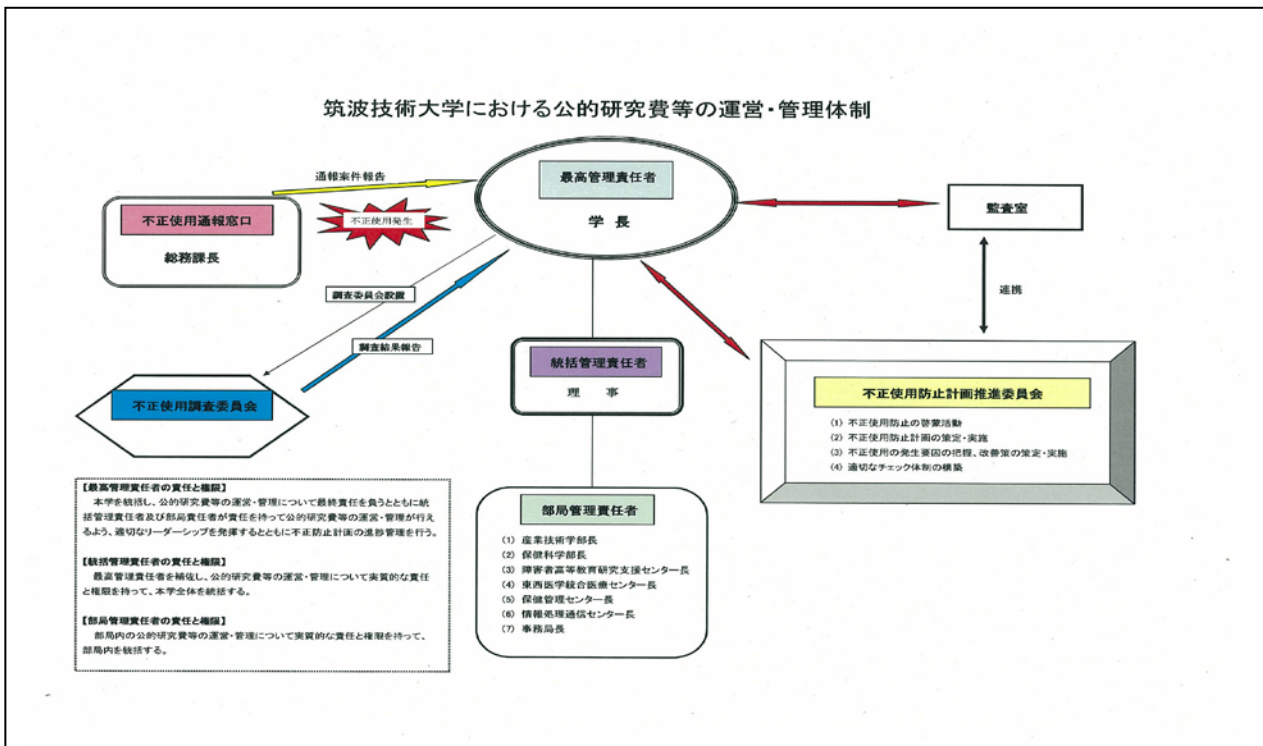
- ・ 国立大学法人筑波技術大学における研究活動の不正行為防止等に関する規則

(<http://www.tsukuba-tech.ac.jp/assets/files/soumu/kisoku/gakujyutu/05-08.pdf>)

- ・ 国立大学法人筑波技術大学における公的研究費等の運営・管理に関する規則

(<http://www.tsukuba-tech.ac.jp/assets/files/soumu/kisoku/soshiki/02-10.pdf>)

資料 11-1-①-I 公的研究費等の運営・管理体制



(出典：筑波技術大学における公的研究費等の運営・管理体制)

情報システムへの不正アクセス等に対応するため、「国立大学法人筑波技術大学情報システム運用基本方針」及び「国立大学法人筑波技術大学情報システム運用基本規程」を制定し、さらに、情報セキュリティ監査の基準を明確にするため、「国立大学法人筑波技術大学情報セキュリティ監査規程」等を制定している（資料 11-1-①-J）。

資料 11-1-①-J 情報システム運用基本方針等

- ・ 国立大学法人筑波技術大学情報システム運用基本方針
<http://www.tsukuba-tech.ac.jp/assets/files/soumu/kisoku/syomu/03-12.pdf>
- ・ 国立大学法人筑波技術大学情報システム運用基本規程
<http://www.tsukuba-tech.ac.jp/assets/files/soumu/kisoku/syomu/03-13.pdf>
- ・ 国立大学法人筑波技術大学情報セキュリティ監査規程
<http://www.tsukuba-tech.ac.jp/assets/files/soumu/kisoku/syomu/03-16.pdf>

【分析結果とその根拠理由】

観点に係る状況のとおり、管理運営のための組織及び事務組織が、大学の目的の達成に向けて支援するという任務を果たす上で、適切な規模と機能を持っており、危機管理等に係る体制が整備されていると判断する。

観点 11-1-②：大学の目的を達成するために、学長のリーダーシップの下で、効果的な意思決定が行える組織形態となっているか。

【観点に係る状況】

法人の経営及び大学の教育研究に関する重要事項の連絡調整や協議を行うため、部局長会議（議長：学長，構成員：理事・事務局長，副学長，産業技術学部長，保健科学部長及び障害者高等教育研究支援センター長）を設置している（資料 11-1-②-A）。

全学的な教育研究等に関する政策及び諸課題についての調整を行うため、政策調整会議（議長：学長，構成員：理事・事務局長，副学長，産業技術学部長，保健科学部長，障害者高等教育研究支援センター長及び全学委員会委員長等）を設置している（資料 11-1-②-B）。

資料 11-1-②-A 国立大学法人筑波技術大学部局長会議規程（抜粋）

（趣旨）

第1条 この規程は、国立大学法人筑波技術大学組織及び管理運営に関する規則(平成17年規則第1号)第10条の規定に基づき、部局長会議(以下「会議」という。)に関し必要な事項を定めるものとする。

（審議事項）

第2条 会議は、次に掲げる事項について連絡、調整及び協議する。

- (1) 役員会、経営協議会及び教育研究評議会の審議事項
- (2) 学内の危機管理に関する事項
- (3) その他法人の経営、大学の教育研究及び管理運営に関する事項

（組織）

第3条 会議は、次に掲げる者で組織する。

- (1) 学長
- (2) 学長が指名する理事及び副学長
- (3) 産業技術学部長及び保健科学部長
- (4) 障害者高等教育研究支援センター長
- (5) 事務局長

（議長）

第4条 会議に議長を置き、学長をもって充てる。

- 2 議長は、会議を招集する。
- 3 議長に事故あるときは、議長があらかじめ指名した理事又は副学長が職務を代行する。

資料 11-1-②-B 国立大学法人筑波技術大学政策調整会議規程（抜粋）

（趣旨）

第1条 この規程は、国立大学法人筑波技術大学組織及び管理運営に関する規則(平成17年規則第1号)第11条の規定に基づき、政策調整会議(以下「会議」という。)に関し必要な事項を定めるものとする。

（調整事項）

第2条 会議は、次に掲げる事項について調整する。

- (1) 室及び全学委員会の政策に関する事項
- (2) その他室及び全学委員会等にかかわる共通的な課題等に関する事項

（組織）

第3条 会議は、次に掲げる者で組織する。

- (1) 学長
- (2) 学長が指名する理事及び副学長
- (3) 産業技術学部長，保健科学部長及び障害者高等教育研究支援センター長
- (4) 学長が指名する室長
- (5) 学長が指名する全学委員会委員長
- (6) その他学長が指名する者

【分析結果とその根拠理由】

観点に係る状況のとおり、大学の目的を達成するために、学長のリーダーシップの下で、効果的な意思決定が行える組織形態となっていると判断する。

観点 11-1-③：大学の構成員（教職員及び学生）、その他学外関係者のニーズを把握し、適切な形で管理運営に反映されているか。

【観点到係る状況】

産業技術学部、保健科学部及び障害者高等教育研究支援センターの各組織の教員を構成員とする教員会議を設置している（前掲資料2-2-①-C）。この会議は、各部局教員の情報共有の場になっているとともに、学部等の管理運営の意思が反映される仕組みとなっている。

事務職員のニーズを把握する場としては、事務局長の下に、事務改善合理化委員会及び事務局連絡会を置き、事務の改善及び合理化・効率化に向けた取組並びに大学の管理運営及び教育研究に係る諸規則等の検討を行っている（別添資料11-1-③-1, 2）。

学生のニーズについては、授業アンケートやオフィスアワーなどの学生対応を通じて、また、卒業生を対象とした職場適応相談等を通じて把握し、必要に応じ、学部の運営に反映している（別添資料6-1-③-1, 前掲資料6-1-⑤-D）。

学外関係者のニーズについては、学外委員が出席する経営協議会及び障害者高等教育研究支援センター運営協議会において把握し、管理運営に反映している（資料11-1-③-A, B）。

資料 11-1-③-A 経営協議会学外委員からの意見についての対応状況

- ・平成22年度経営協議会学外委員からの意見についての対応状況
(<http://www.tsukuba-tech.ac.jp/assets/files/zaimu/kessan/H240313.pdf>)

資料 11-1-③-B 国立大学法人筑波技術大学障害者高等教育研究支援センター規程（抜粋）

（運営協議会）

第5条 障害者支援研究部の事業計画等（以下「事業計画等」という。）を協議し、センター事業の効率的な運営を図るため、センター運営協議会（以下「協議会」という。）を置く。

2 協議会は、次に掲げる委員をもって組織する。

- (1) センター長
- (2) 産業技術学部長及び保健科学部長
- (3) 副センター長
- (4) 障害者基礎教育研究部及び障害者支援研究部の部長
- (5) 障害者支援研究部の部門主任
- (6) 事務局長
- (7) 学長が学外の有識者から委嘱する者 若干名
- (8) その他センター長が指名する者

- ・別添資料 11-1-③-1 事務改善合理化委員会要項
- ・別添資料 11-1-③-2 事務局連絡会について

【分析結果とその根拠理由】

観点に係る状況のとおり、大学の構成員（教職員及び学生）、その他学外関係者のニーズを把握し、適切な形で管理運営に反映していると判断する。

観点 11-1-④： 監事が置かれている場合には、監事が適切な役割を果たしているか。

【観点に係る状況】

国立大学法人法第 10 条の規定に基づき、文部科学大臣から任命された監事（非常勤）2 名を配置している。

監事は、毎年度「監事監査計画書」を作成の上、学長に提出し、その計画に基づき筑波技術大学の管理運営等の監査を行っている（別添資料 10-3-②-3，前掲資料 10-3-②-A）。

法人の業務運営の実情に即し、業務執行が合理的・効率的に行われているかを把握するため、監事が役員会及び経営協議会に出席するとともに、監査計画書に基づき定期的に監査を行っている。

【分析結果とその根拠理由】

観点に係る状況のとおり、監事が適切な役割を果たしていると判断する。

観点 11-1-⑤： 管理運営のための組織及び事務組織が十分に任務を果たすことができるよう、研修等、管理運営に関わる職員の資質の向上のための取組が組織的に行われているか。

【観点に係る状況】

聴覚・視覚障害者のための大学という特殊性を踏まえ、障害のある教員や学生に対する情報保障の観点から、大学主催の手話実技研修及び点字実技研修等に加え、国立大学協会や近隣の国立大学法人の実施する階層別研修等へ事務職員を積極的に参加させている。役員等においては、国立大学協会が主催する大学経営に関するマネジメントセミナー等に参加している。また、FD・SD 企画室を中心に、事務系職員のスキルアップを図る SD（スタッフ・ディベロップメント）研修を定期的に実施している（資料 11-1-⑤-A）。

さらに、教員の教育能力と事務系職員の業務遂行能力を一層向上させることを目的とした「筑波技術大学 FD・SD ハンドブックー聴覚・視覚障害学生の修学のためにー」を作成の上、全教職員に配布し、資質向上に役立てている（前掲資料 9-2-①-C）。

資料 11-1-⑤-A 平成 23 年度研修参加状況

〔本学主催〕

研修名		目的	参加人数
SD 研修	第1回SD研修講演会	学外の研修や海外出張に参加した職員による報告会を開催し、研修等で得られた知見・成果等を学内の他の職員へフィードバックすることにより、本学職員の資質・能力の向上を図る。	30人
	第2回SD研修勉強会		35人
手話実技研修		基礎的な手話実技を習得させ、もって聴覚障害者についての見識を高めるとともに、聴覚障害者との円滑なコミュニケーションを図る。	12人
点字実技研修		基礎的な点字実技を習得させ、もって視覚障害者についての見識を高めるとともに、視覚障害者との円滑なコミュニケーションを図る。	9人
事務系職員能力向上研修		業務の優先順位の付け方、効率的な時間の使い方及び周囲と協力しながら円滑に業務を進めるコミュニケーション力を習得し、効率的かつ業績があがる業務遂行能力の向上を図る。	8人

〔他機関等主催〕

研修名	主催	参加人数
第46回関東甲信越地区国立大学法人等会計事務研修	社団法人国立大学協会	1人
平成23年度関東・甲信越地区国立大学法人等係長研修		1人
平成23年度関東・甲信越地区国立大学法人等安全管理協議会		1人
平成23年度関東・甲信越地区及び東京地区実践セミナー（人事・労務の部）		1人
平成23年度関東・甲信越地区及び東京地区実践セミナー（財務の部）		2人
平成23年度関東・甲信越地区及び東京地区実践セミナー（情報の部）		1人
平成23年度関東・甲信越地区及び東京地区実践セミナー（産学連携の部）		1人
平成23年度関東地区新規採用職員研修	人事院	1人
平成23年度関東地区メンター養成研修		1人
第5回国立大学法人若手職員勉強会	独立行政法人国立大学財務・経営センター	1人
平成23年度障害学生修学支援教職員研修会	独立行政法人日本学生支援機構	1人
平成23年度筑波大学課長補佐級研修	国立大学法人筑波大学	1人
平成23年度筑波大学係長級研修		2人
平成23年度筑波大学主任研修		1人

〔役員参加〕

研修名	主催	参加人数
大学マネジメントセミナー【財務編】	社団法人国立大学協会	2人
大学マネジメントセミナー【教育編】		1人
大学マネジメントセミナー【研究編】		2人
大学法人トップセミナー		1人

(総務課作成)

【分析結果とその根拠理由】

観点に係る状況のとおり、研修等を通して管理運営に関わる職員の資質の向上のための取り組みを組織的に行っていると判断する。

観点 11-2-①： 管理運営に関する方針が明確に定められ、その方針に基づき、学内の諸規程が整備されるとともに、管理運営に関わる委員や役員の選考、採用に関する規程や方針、及び各構成員の責務と権限が文書として明確に示されているか。

【観点に係る状況】

管理運営に関しては「国立大学法人筑波技術大学組織及び管理運営に関する規則」で方針を明確に定めている。学長の選考については、「国立大学法人筑波技術大学学長選考規則」「同実施細則」「国立大学法人筑波技術大学学長の任期に関する規則」で、理事の選考については、「国立大学法人筑波技術大学理事選考規程」で、経営協議会委員については、「国立大学法人筑波技術大学経営協議会規程」で、副学長の選考については、「国立大学法人筑波技術大学副学長選考規程」で選考手続等をそれぞれ定めている（資料 11-2-①-A）。

また、管理運営及び教育研究に関する事項に関し、専門的に審議させるため、全学的な各種委員会の審議事項、委員構成及び任期等を規定化している。

資料 11-2-①-A 国立大学法人筑波技術大学規則集（目次）

- ・国立大学法人筑波技術大学規則集（目次） 第2章 管理・運営
http://www.tsukuba-tech.ac.jp/introduction/openinfo/other_info/kisoku_2syou.html
- ・国立大学法人筑波技術大学規則集（目次） 第4章 人事
http://www.tsukuba-tech.ac.jp/introduction/openinfo/other_info/kisoku_4syou.html

【分析結果とその根拠理由】

観点に係る状況のとおり、管理運営に関わる委員や役員の選考、採用に関する規程や方針及び各構成員の責務と権限が文書として明確に示されていると判断する。

観点 11-2-②： 大学の活動状況に関するデータや情報が適切に収集、蓄積されているとともに、教職員が必要に応じて活用できる状況にあるか。

【観点に係る状況】

大学ウェブサイトにて、業務運営及び教育研究に関する情報として中期目標、中期計画、年度計画、業務実績報告書及び職員の給与・退職手当の支給基準等を掲載しているとともに、学生の受入れ状況や外部資金の獲得状況等の推移を「筑波技術大学基本データ集」として整理し、役員や教職員が活用できるようグループウェアで提供している（資料11-2-②-A、別添資料11-2-②-1）。

また、教員の研究成果を取りまとめた「筑波技術大学テクノレポート」は、「筑波技術大学機関リポジトリ」を通じて広く社会に公開している（前掲資料8-2-①-B、前掲資料9-1-①-B、D）。

資料11-2-②-A 法人としての公表事項

http://www.tsukuba-tech.ac.jp/introduction/openinfo/corporation_info.html

- ・別添資料 11-2-②-1 筑波技術大学基本データ集

【分析結果とその根拠理由】

観点に係る状況のとおり、大学の活動状況に関するデータや情報を適切に収集、蓄積し、教職員が必要に応じて活用できる状況にあると判断する。

観点 11-3-①： 大学の活動の総合的な状況について、根拠となる資料やデータ等に基づいて、自己点検・評価が行われており、その結果が大学内及び社会に対して広く公開されているか。

【観点に係る状況】

中期目標・中期計画に係る年度評価の実施については、大学情報データベース及び筑波技術大学基本データ集に基づき自己点検・評価を実施し、年度評価に係る業務実績報告書を評価室において作成している（資料11-3-①-A）。年度評価に係る業務実績報告書の評価結果は、教育研究評議会、経営協議会及び役員会で報告の上、ウェブサイトで公表している（資料11-3-①-B）。

また、(独)大学評価・学位授与機構が定める観点を取り入れ、教育、研究、管理運営等の自己評価書を作成し、教育研究評議会、経営協議会及び役員会で審議の上、当該自己評価書をウェブサイトで公表している（資料11-3-①-C）。

資料 11-3-①-A 業務の実績に関する報告書

・平成 23 事業年度に係る業務の実績に関する報告書

(http://www.tsukuba-tech.ac.jp/assets/files/soumu/hojin/pdf/jissekihoukokul7_23.pdf)

資料 11-3-①-B 業務の実績に関する評価結果

・平成 23 年度に係る業務の実績に関する評価結果

(http://www.tsukuba-tech.ac.jp/assets/files/soumu/hojin/pdf/23_hyouka.pdf)

資料 11-3-①-C 自己評価書

・平成 21 年度自己評価書

(<http://www.tsukuba-tech.ac.jp/assets/files/soumu/hojin/pdf/jikohyoka21.pdf>)

【分析結果とその根拠理由】

観点に係る状況のとおり、自己点検・評価が行われており、その結果が大学内及び社会に対して広く公開されていると判断する。

観点 11-3-②： 自己点検・評価の結果について、外部者（当該大学の教職員以外の者）による検証が実施されているか。

【観点に係る状況】

中期目標・中期計画に基づく年度評価に係る業務実績報告書は、国立大学法人評価委員会において評価され、その結果をウェブサイトで公表している（前掲資料 11-3-①-B）。

また、平成 23 年度には、独立行政法人大学評価・学位授与機構による大学機関別認証評価を受審し、「大学評価基準を満たしている」と認定されている（資料 11-3-②-A）。

資料 11-3-②-A 大学機関別認証評価評価報告書

・平成 23 年度実施大学機関別認証評価評価報告書

(http://www.tsukuba-tech.ac.jp/assets/files/soumu/hojin/pdf/ninsyo_hyokakekka.pdf)

【分析結果とその根拠理由】

観点に係る状況のとおり、自己点検・評価の結果について、外部者による検証を実施していると判断する。

観点 11-3-③： 評価結果がフィードバックされ、管理運営の改善のための取組が行われているか。

【観点に係る状況】

教育、研究及び業務運営の達成状況については、国立大学法人評価委員会の評価結果を踏まえ、指摘された諸課題は、教育研究評議会、経営協議会及び役員会に報告しているとともに、改善が必要なものについては、対応組織において業務運営などを速やかに改善している（資料 11-3-③-A）。また、年度計画の進捗管理については、評価室が各部局等の上半期の達成状況を確認し、未実施の計画については、当該年度の確実な実施を各部局等に促している。

資料 11-3-③-A 評価結果で課題とされた事項及びそれに対する各年度の対応状況

評価年度	課題として指摘された事項	検討・反映状況
平成 17 年度	人事評価の基準の基本項目を選び出し、その点数化による評価の試案を作成しているが、中期目標・中期計画達成に向け、人事評価システムの本格実施及び処遇への反映に関するスケジュール設定が求められる。	平成 18 年度に人事評価のスケジュールを作成するとともに、平成 18 年度、平成 19 年度に各部局での試行や事務系の課長・係長を対象に試行的に評価を実施した。 平成 20 年度には、教員の個人評価に係る「教員の個人評価に係る結果活用に関する基本方針」及び「教員の個人評価指針」を制定し、本格的な評価を開始した。 また、事務系職員についても平成 20 年度に「事務職員、技術職員及び医療職員における人事評価実施要項」を制定し、事務系職員人事評価の手引きを作成のうえ、全事務系職員を対象とした説明会を開催し、平成 20 年 8 月から本格的な評価を開始した。
平成 19 年度	自己点検・評価のうち組織及び運営の状況に関する事項については、経営協議会において審議すべき事項であるが、報告事項として扱われていることから、適切な審議を行うことが求められる。	管理運営の状況を含めた自己評価書を作成し、平成 20 年 9 月開催の経営協議会で審議・公表した。
	監事による監査結果（監事意見書）の指摘事項（空室となっている職員宿舍の有効利用）を運営に反映していないことから、早急な対応が求められる。	平成 21 年 1 月開催の経営協議会において、職員宿舍等の効率的・効果的な運用について審議し、現入居者の退去を促すこととし、将来的に売却を視野に入れつつ、更地にすることが承認された。

平成 20 年度	会計規則の変更については、経営協議会において審議すべき事項であるが、報告事項として扱われていることから、適切な審議を行うことが求められる。	平成 20 年 9 月開催の経営協議会から、審議すべき事項はすべて審議を行うよう議題整理を行い改善した。
	「引き続き、他の障害者教育機関との人事交流を図る」については、他の障害者教育機関からの教員採用は行われているものの、人事交流は行われていないことから、年度計画を十分には実施していないと認められる。	<p>国立大学法人宮城教育大学と聴覚・視覚障害学生の支援に関する連携協力の協定を平成 22 年 3 月に締結し、連携事業を達成するために教員の人事交流を行うことを確認した。</p> <p>また、「国立大学法人筑波技術大学と聴覚・視覚障害者教育研究機関等における教育研究に関する人事交流実施要項」を平成 22 年 3 月に制定し、本学と障害学生支援について連携協力を推進する機関との間で人事交流を実施することが可能とする体制を整備した。</p>
平成 21 年度	「引き続き、他の障害者教育機関との人事交流を図る」については、聴覚・視覚障害者教育研究機関等における教育研究に関する人事交流実施要項を制定しているものの、人事交流は行われるまでには至っていないことから、年度計画を十分には実施していないと認められる。	<p>教員の本格的な人事交流を実施するまでには至っていないが、平成 22 年 3 月に宮城教育大学と連携協力に関する協定を締結し、本年 6 月から、同大学特別支援教育講座の講師を本学非常勤講師として採用している。</p> <p>なお、本格的な人事交流については、今後、同大学等と必要な事項について検討を開始することとしている。</p>

(総務課作成)

【分析結果とその根拠理由】

観点に係る状況のとおり、評価結果をフィードバックし、管理運営の改善のための取組が行われていると判断する。

観点 11-3-④： 大学における教育研究活動の状況や、その活動の成果に関する情報をわかりやすく社会に発信しているか。

【観点に係る状況】

教育研究活動の状況や学内諸活動の情報は、ウェブサイトにおいて「ニュース」「お知らせ・イベント情報」「学生・教職員の活動報告」として社会に対して積極的に発信している（資料 11-3-④-A）。また、「大学概要」（前掲資料 1-2-①-A）及び「筑波技術大学ニュース」（資料 11-3-④-B）については、ウェブサイトにおいて情報を発信するとともに、全国の高等教育機関及び特別支援学校等の機関に配布し、情報を発信している。

なお、研究活動の成果を取りまとめた「筑波技術大学テクノレポート」については、附属図書館の「筑波技術大学機関リポジトリ」で公表している（前掲資料 8-2-①-B, 前掲資料 9-1-①-B, D）。

資料11-3-④-A 筑波技術大学ウェブサイト (<http://www.tsukuba-tech.ac.jp/>)



資料11-3-④-B 筑波技術大学ニュース

http://www.tsukuba-tech.ac.jp/assets/files/soumu/news/insatsu/ntut_news023.pdf

【分析結果とその根拠理由】

観点に係る状況のとおり、大学における教育研究活動の状況及びその活動の成果に関する情報を社会に発信している」と判断する。

(2) 優れた点及び改善を要する点

【優れた点】

- 大学の管理運営に関し、大学改革、評価等に関する事項を専門的に担当するための「室」を設置し、教員と事務職員による一体的な運営を行っている。
- 教員の教育能力と事務系職員の業務遂行能力が一層向上することを目的に、「筑波技術大学FD・SDハンドブックー聴覚・視覚障害学生の修学のためにー」を作成し、全教職員に配布し活用している。

【改善を要する点】

該当なし

(3) 基準11の自己評価の概要

役員会、経営協議会及び教育研究評議会において、大学の管理運営、教育研究等の重要事項について審議している。また、大学改革、評価等に関する事項を専門的に担当するための室を設置し、教員と事務職員による一体的な運営を行っている。

事務組織は、事務局長の下に、総務課、財務課、聴覚障害系支援課及び視覚障害系支援課の4課を置き、法人の運営及び経営並びに学生の修学等の教学面を所掌している。

危機管理等については、規則を制定するとともに、危機管理対応マニュアルを整備し、危機管理体制を構築している。

学長のリーダーシップの下で、効果的な意見交換が行えるよう、法人の経営及び大学の教育研究に関する重要事項の連絡調整及び協議を行う部局長会議を開催している。また、大学の教育研究等に関する政策等を調整する政策調整会議を開催している。

産業技術学部、保健科学部及び障害者高等教育研究支援センターの各組織の教員を構成員とする教員会議を開催し、当該組織の教育研究に関して意見交換・協議することにより、各組織における全教員の意思を学部やセンターの運営に反映している。

事務系職員の意見を大学運営に活かすため、事務改善合理化委員会及び事務局連絡会を開催している。

学外関係者のニーズについては、経営協議会等の意見を取り入れ、大学運営の改善に役立てるとともに、事業計画の策定などに反映している。

監事（非常勤）2名が配置され、監事監査計画書に基づき、大学の業務や会計処理の実態などについて監査が行われ、その結果については、経営協議会、役員会に報告され、監査結果が大学の業務全般に反映される機能となっている。

聴覚・視覚障害者のための大学職員としての能力を身に付けることを目的に、手話及び点字の実技研修を実施するとともに、近隣大学等主催の事務系職員の研修に参加している。役員等においては、国立大学協会が主催する大学経営に関するマネジメントセミナー等に参加している。

教員の教育能力と事務系職員の業務遂行能力が一層向上することを目的とした「筑波技術大学FD・SDハンドブックー聴覚・視覚障害学生の修学のためにー」を作成し、全教職員に配布し活用している。また、FD・SD企画室と連携・協力し、事務系職員の資質向上を図る観点から、大学職員を講師とするSD（スタッフ・ディベロップメント）研修を開催している。

大学のウェブサイトには、業務運営及び教育研究に関する情報として中期目標、中期計画、年度計画、業務実績報告書及び職員の給与・退職手当の支給基準等を掲載し、データを蓄積している。また、学生の受入れ状況や外部資金の獲得状況等の推移などを取りまとめた「筑波技術大学基本データ集」を全教職員が利用できるグループウェアに掲載し活用している。

中期計画に基づく年度評価に係る業務実績報告書及び（独）大学評価・学位授与機構が定める観点を取り入れた自己評価書を作成し、教育研究評議会、経営協議会、役員会で審議の上、その実績報告書及び自己評価書をウェブサイトで公開している。

国立大学法人評価委員会からの評価結果は、指摘された事項について、教育研究評議会、経営協議会、役員会へ報告されるとともに、改善が必要な事項は、その都度改善が図られている。また、年度計画については、進捗管理などを行い、当該年度の確実な実施を促している。

教育研究活動の状況や学内諸活動の情報は、ウェブサイトにおいて「ニュース」「お知らせ・イベント情報」「学生・教職員の活動報告」として社会に対して積極的に発信している。また、研究活動の成果を取りまとめた「筑波技術大学テクレポート」については、附属図書館における「筑波技術大学機関リポジトリ」で公表している。